

## VI. 調査結果

### VI-1. 主要昆虫類調査

#### ■調査結果の概要

本年度は、2000年度の調査と同様に主要昆虫類調査(トンボ類、バッタ類、セミ類、チョウ類、コウチュウ類(大型種))、緑地解析調査(コウチュウ類)に限定して調査を実施した。なお本文中では、過年度調査同様、適宜板橋区の基本計画にある地域区分(図VI-1に示した赤塚地域、志村地域、高島平地域、常盤台地域、板橋地域の5地域)を引用した。

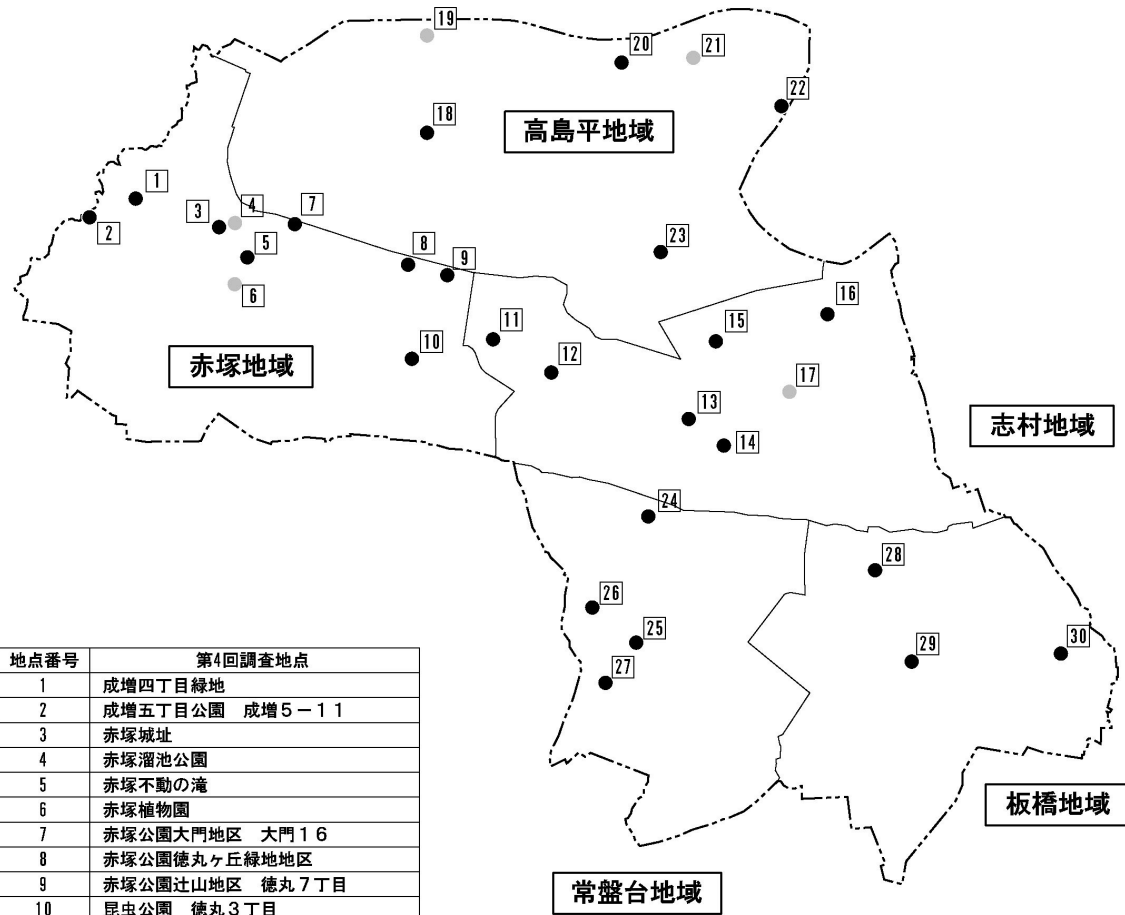
その結果、表VI-1に示したようにトンボ類27種、バッタ類48種、セミ類6種、コウチュウ類14種、チョウ類46種の合計で36科146種の昆虫類が確認された(カマキリ類:1科4種、ナナフシ類:1科1種を含む)。前回調査(2000年度)と比較すると、トンボ類で2種減少し、バッタ類で6種増加、セミ類で増減なし、チョウ類で11種の増加となった。コウチュウ類では大型種をおもな対象としたことから14種にとどまった。

2000年度に続き、本年度の調査でも、1985年度、1990年度の過年度の調査結果を上回る種が確認された。板橋区は23区内の中でも比較的自然豊かな地域であり、赤塚城址に代表される赤塚地域や荒川河川敷に代表される高島平地域には、多様性に富んだ環境が現在も残されている。調査頻度や天候などの条件の違いはあるものの、本年度の調査結果もそうした豊かな自然が反映された結果であると考えられる。

表VI-1 主要昆虫類調査確認種数一覧

	科数	種数
トンボ類	7	27
バッタ類	12	48
セミ類	1	6
チョウ類	9	46
コウチュウ類	5	14
カマキリ類	1	4
ナナフシ類	1	1
合計	36科	146種

注)コウチュウ目は緑地解析調査結果を含まない。



地点番号	第4回調査地点
1	成増四丁目緑地
2	成増五丁目公園 成増5-11
3	赤塚城址
4	赤塚溜池公園
5	赤塚不動の滝
6	赤塚植物園
7	赤塚公園大門地区 大門16
8	赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区
9	赤塚公園辻山地区 徳丸7丁目
10	昆虫公園 徳丸3丁目
11	西徳第二公園 西台3丁目
12	西台公園 西台1丁目
13	日暮台公園 前野5丁目
14	前野公園 前野5丁目
15	志村城山公園 志村2丁目
16	小豆沢公園 小豆沢3丁目
17	見次公園 前野4丁目
18	徳丸ヶ原公園 高島平8丁目
19	荒川河川敷 新河岸1~3丁目
20	荒川河川敷舟渡4丁目(ピオトープ)
21	荒川河川敷 舟渡2~3丁目
22	都立浮間公園
23	板橋区立城北公園 坂下2丁目
24	板橋区平和公園 常盤台4丁目
25	安養院 東新町2丁目
26	都立城北中央公園 桜川1丁目
27	茂呂山公園 小茂根5-2
28	氷川神社 双葉町43
29	板橋大山公園 栄町1
30	板谷公園 板橋4-55

注) 図中の番号は左下の主要昆虫類調査地点の地点番号に対応する。

図VI-1 調査地域位置図

## VI-1-i. トンボ類

### ■調査結果の概要

本年度の調査は過年度の調査と異なり、主要昆虫類調査の調査地点として設定した区内のほぼ全域に広がる30地点全ての地点において調査を実施した。その結果本年度はアオモンイトトンボ、オオヤマトンボ、ノシメトンボなど7科27種が確認された。

本年度の確認種数は1985年度(17種)、1990年度(15種)に比べると多くなっており、2000年度(29種)に引き続き、比較的多い確認種数となった(表VI-2参照)。

本年度新たに確認された種としては、オオアオイトトンボ、ミヤマサナエ、ネキトンボの3種が挙げられる。

オオアオイトトンボは赤塚城址の樹林周辺でのみ確認された。多くの場合、繁殖している水域からあまり離れない種であると考えられることから、幼虫も溜池公園のビオトープ池など、赤塚城址周辺の水域に生息しているものと考えられ、周辺を含めた地域に定着している可能性も高い。

ミヤマサナエは羽化殻および羽化直後の個体を確認したことから、荒川での発生は間違いないが、荒川下流域では本来、それほど個体数の多い種ではないと考えられる。また、羽化場所が河川の中流域から下流域までと広い範囲にばらけることから、ナゴヤサナエ同様に板橋区内では確認が難しい種であると思われる。

ネキトンボは2007年度に行われた北区昆虫・小動物調査(北区, 2007)においても赤羽周辺で確認されるなど、近年、都内を含め関東地方の南部で確認記録が増加している。本年度は赤塚溜池公園において1個体が確認されたのみであるが、今後増加する可能性がある。

一方、過年度に確認されており本年度確認されていない種は、イトトンボ科のセスジイトトンボ、オオイトトンボ、ムスジイトトンボ、キイトトンボ、トンボ科のマユタテアカネの5種が挙げられる。

そのうちオオイトトンボとキイトトンボの2種については2000年度の調査では、三園小学校のビオトープでのみ確認されたことから、移入種の可能性が高いとされている(板橋区, 2001)。

セスジイトトンボ、ムスジイトトンボについては個体数が少ないものの、北区昆虫・小動物調査(北区, 2007)において、荒川河川敷での生息が確認されている。そのため、荒川河川敷などには現在も生息している可能性があるが、これらの種の好む沈水植物や浮葉植物などの水生植物豊富な環境が板橋区内には現在ほとんどみられないことから、絶滅も危惧される。なお、1985年度にセスジイトトンボおよびムスジイトトンボが確認された浮間公園は1985年代には沈水植物が繁茂しており、水質も現在のものに

比べると極めて清澄なものであった。マユタテアカネは板橋区では2000年度にはじめて確認されたが、本年度調査では再確認することができなかった。定着している可能性があるものの、個体数はごく少ないものと思われる。本年度は確認できなかったものの、都内多摩地方のほか、神奈川県、埼玉県などの丘陵地では多産する種であることから、赤塚城址をはじめ、雑木林の比較的多く残される板橋区内においては、再確認が期待される。

以下に、今年度初めて確認されたオオアオイトトンボ、ミヤマサナエ、ネキトンボの3種(○印)および今年度は確認できなかった過年度の確認種であるセスジイトトンボ、オオイトトンボ、ムスジイトトンボ、キイトトンボ、マユタテアカネの5種(●印)について解説する。

#### ○オオアオイトトンボ

青森県から鹿児島県に至る本州・四国・九州に分布する。

平地や丘陵地の岸辺に木立のある池沼や湿地などに生息する。

板橋区内では本年度(2008年9月2日および2008年11月13日)に赤塚城址の林縁の草地において成虫各1個体が確認された。

#### ○ミヤマサナエ

青森県から鹿児島県に至る本州・四国・九州に分布する。

比較的大きな河川の上流域で産卵し、孵化したヤゴは流下しながら成長し、河川の中流域～下流域で羽化する。羽化した成虫の未熟個体は高い山の尾根筋などでみられ、成熟すると繁殖場所へ移動する。幼虫は流れの緩やかな砂泥底に生息し、水際の植物や石・護岸のコンクリート壁などに定位して羽化する。

板橋区内では本年度(2008年6月17日)に、荒川河川敷舟渡二・三丁目の捨て石のみられる荒川河岸において、羽化殻および羽化直後の個体が確認された。

### ○ネキトンボ

福島・新潟両県以西の本州・四国・九州に分布する。

丘陵地や低山地の樹木に覆われた抽水植物や浮葉植物が繁茂するやや深くて大きい池沼などに生息するが、時に人工的な池にも出現する。

板橋区内では本年度(2008年8月7日)に赤塚溜池公園のビオトープ池のほとりにおいて成虫1個体が確認された。

### ●セスジイトトンボ

北海道・本州・四国・九州に分布する。

平地や丘陵地の浮葉植物や沈水植物の繁茂する池沼や湖などに生息する。産卵はおもに浮葉植物や沈水植物の水面直下の生体組織内に行われる。

板橋区内では1985年度調査において浮間公園で確認されたほか、2000年度調査においては荒川河川敷で確認された。浮間公園については人工改変により水質が悪化し、沈水植物がみられなくなったため絶滅してしまった可能性が高いが、荒川河川敷については北区昆虫・小動物調査(北区, 2007)において確認されていることなどからも、現在も生息している可能性が高い。しかし、産卵に利用されると考えられる浮葉植物、沈水植物が豊富にみられる環境がごく少ないことから、生息状況については今後の動向が注目される。

### ●オオイトトンボ

北海道・本州・四国・九州に分布する。

平地や丘陵地の浮葉植物や沈水植物の繁茂する池沼や湖、水田などに生息する。産卵はおもに浮葉植物や沈水植物の水面直下の生体組織内に行われる。

板橋区内では1985年度調査において浮間公園および東板橋公園で確認されたほか、2000年度調査においては三園小学校のビオトープ池で確認された。浮間公園については1985年度調査以降確認されておらず、人工改変の影響により絶滅した可能性が高い。東板橋公園についても、園内の再造成が行われ、その後確認されていないことから、現在は生息していないと思われる。三園小学校のビオトープ池については本年度、調査を行っていないが、板橋区(2001)によると移入種の可能性が高いとされている。1985年度調査においては、浮間公園が最も確実な生息地であった。現在、浮間公園での再確認は非常に難しい状態であるが、荒川河川敷にはビオトープが造成され、新たな生息環境が創出されつつある。今後はこうした新たな生息環境となりうる場所を中心に再確認が望まれる。

### ●ムスジイトトンボ

宮城県以南の本州・四国・九州に分布する。

平地の浮葉植物や沈水植物の繁茂する池沼や湿地の溜まり水などに生息する。産卵はおもに浮葉植物や沈水植物の水面直下の生体組織内に行われる。

板橋区内では 1985 年度調査において浮間公園で確認された。浮間公園では 1985 年度調査以降は確認されておらず、セスジイトトンボ、オオイトトンボ同様に人工改変の影響により絶滅した可能性が高い。しかし、北区内では北区昆虫・小動物調査(北区, 2007)において、荒川河川敷で確認されており、板橋区内においても同様に生息している可能性があることから、今後の再確認が期待される。

### ●キイトトンボ

本州・四国・九州に分布する。

平地や低山地の抽水植物や沈水植物が茂る池沼や湿地、水田などに生息する。産卵はおもに抽水植物の葉や沈水植物などの水面直下の生体組織内に行われる。

板橋区内では 2000 年度調査において、三園小学校のビオトープ池で確認された。三園小学校のビオトープ池については本年度調査を行っていないが、過年度の調査ではその他の場所では確認されていないことと、板橋区(2001)によると移入種の可能性が高いとされていることから、区内では自然分布はしていないものと思われる。

### ●マユタテアカネ

北海道・本州・四国・九州に分布する。

平地から低山地の抽水植物が繁茂する池沼や湿地、水田など広範な止水域に生息し、ときに植生豊かな緩やかな流れにも生息する。産卵は水際の湿った泥や浅い水面に打水して行われる。

板橋区内では 2000 年度調査において、赤塚公園の林縁部に造成されたビオトープ池で確認された。樹林周辺を好む種であることから、雑木林の残される区内では再確認が期待される。

表VI-2 主要昆虫類調査経年確認状況一覧(トンボ類)

No.	科名	種名	学名	1985 (I)	1990 (II)	2000 (III)	2008 (IV)
1	イトトンボ	クロイトトンボ	<i>Cercion calamorum calamorum</i> (Ris)	●	●	●	●
2		セスジイトトンボ	<i>Cercion hieroglyphicum</i> (Brauer)	●		●	
3		オオイトトンボ	<i>Cercion sieboldii</i> (Selys)	●		●	
4		ムスジイトトンボ	<i>Cercion sexlineatum</i> (Selys)	●			
5		キイトトンボ	<i>Ceriagrion melanurum</i> Selys			●	
6		アジイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i> Brauer	●	●	●	●
7		アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i> (Rambur)	●	●	●	●
8	アオイトトンボ	ホソミオツネントンボ	<i>Indolestes peregrinus</i> (Ris)			●	●
9		アオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i> (Hansemann)			●	
10		オオアオイトトンボ	<i>Lestes temporalis</i> Selys				●
11	サナエトンボ	ミヤマサナエ	<i>Anisogomphus maacki</i> (Selys)				●
12		ウチウヤンマ	<i>Ictinogomphus clavatus</i> (Fabricius)			●	●
13		ナゴヤサナエ	<i>Stylurus nagovanus</i> (Asahina)			●	●
14	オニヤンマ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i> (Selys)			●	●
15	ヤンマ	クロスジヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i> Oguma			●	●
16		ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i> Brauer	●	●	●	●
17		ヤブヤンマ	<i>Polycanthagyna melanictera</i> (Selys)			●	●
18	エゾトンボ	オオヤマトンボ	<i>Ephthalma elegans</i> (Brauer)	●		●	●
19	トンボ	ショウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilia mariannae</i> Kiauta	●	●	●	●
20		コブキトンボ	<i>Deielia phaon</i> (Selys)	●		●	●
21		シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i> (Uhler)	●	●	●	●
22		オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum triangulare melania</i> (Selys)		●	●	●
23		ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i> (Fabricius)	●	●	●	●
24		コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i> (Burmeister)	●	●	●	●
25		チョウトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i> Selys		●	●	●
26		コノシメトンボ	<i>Sympetrum baccha matutinum</i> Ris		●	●	●
27		ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i> (Selys)	●	●	●	●
28		マユタテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i> (Selys)			●	
29		アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i> (Selys)	●	●	●	●
30		ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i> (Selys)	●	●	●	●
31		マイコアカネ	<i>Sympetrum kunkeli</i> (Selys)		●	●	●
32		リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i> Bartenef	●		●	●
33		ネキトンボ	<i>Sympetrum speciosum speciosum</i> Oguma				●
合計 7科33種				17種	15種	29種	27種

注 1) 和名および学名、種の配列は、基本的に九州大学農学部昆虫学研究室・日本野生生物研究センター編(1989,1990)に従った。

注 2) 1985 年度、1990 年度、2008 年度の確認種は現地調査での確認種である。

注 3) 2000 年度の確認種には現地調査以外の確認記録も含む。

表VI-3 に示したように、地点別の確認状況では浮間公園が最も多く 16 種、以下、赤塚城址の 14 種、赤塚溜池公園および荒川河川敷舟渡二・三丁目の 10 種などとなっている。水辺を有しない赤塚城址の確認種数が多くなっているのは特筆すべき点で、ホソミオツネントンボが越冬する、アカネ類などが未成熟期を過ごす、ナゴヤサナエなどの移動途中のトンボ類が休息をするといった利用がみられ、トンボ類の生息環境として重要な役割を果たしていることが示唆された。

表VI-3 トンボ類地点別確認状況一覧(1/3)  
(地点1：成増四丁目緑地～地点10：昆虫公園)

No.	科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
			成増 四丁目 緑地	成増 五丁目 公園	赤塚 城址	赤塚 溜池 公園	赤塚 不動の滝	赤塚 植物園	赤塚 公園 大門	赤塚 公園 徳丸ヶ丘 緑地	赤塚 公園 辻山	昆虫 公園
1	イトトンボ	クロイトトンボ						●				
2		アジアイトトンボ							●			
3		アオモンイトトンボ										
4	アオイトトンボ	ホソミオツネトンボ			●							
5		オオアオイトトンボ			●							
6	サナエトンボ	ミヤマサナエ										
7		ウチワヤンマ										
8		ナゴヤサナエ			●							
9	オニヤンマ	オニヤンマ			●	●						
10	ヤンマ	クロスジギヤンマ			●	●		●				
11		ギヤンマ										
12		ヤブヤンマ										
13		エゾトンボ	オオヤマトンボ									
14	トンボ	ショウジョウトンボ				●		●				
15		コフキトンボ										
16		シオカラトンボ	●		●	●		●	●	●	●	
17		オオシオカラトンボ		●	●	●		●	●	●	●	●
18		ウスバキトンボ	●		●		●		●	●	●	
19		コシアキトンボ			●	●	●	●	●		●	
20		チョウトンボ										
21		コノシメトンボ	●		●			●		●		
22		ナツアカネ			●			●		●		●
23		アキアカネ			●	●	●				●	
24		ノシメトンボ	●		●	●				●		
25		マイコアカネ			●					●		●
26		リスアカネ				●				●		
27		ネキトンボ				●						
合計 7科27種			4種	1種	14種	10種	3種	8種	5種	8種	5種	3種

表VI-3 トンボ類地点別確認状況一覧(2/3)  
(地点11：西徳第二公園～地点20：荒川河川敷舟渡四丁目ビオトープ)

No.	科名	種名	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
			西徳第二 公園	西台 公園	日暮台 公園	前野 公園	志村 城山 公園	小豆沢 公園	見次 公園	徳丸ヶ原 公園	荒川 河川敷 新河岸 一～三丁目	荒川 河川敷 舟渡四丁目 (ビオトープ)
1	イトトンボ	クロイトトンボ										
2		アジアイトトンボ										●
3		アオモンイトトンボ										●
4	アオイトトンボ	ホソミオツネトンボ									●	●
5		オオアオイトトンボ										
6	サナエトンボ	ミヤマサナエ										
7		ウチワヤンマ										
8		ナゴヤサナエ										
9	オニヤンマ	オニヤンマ										
10	ヤンマ	クロスジギヤンマ						●				
11		ギヤンマ									●	●
12		ヤブヤンマ										
13		エゾトンボ	オオヤマトンボ									
14	トンボ	ショウジョウトンボ				●						●
15		コフキトンボ							●			
16		シオカラトンボ						●	●	●	●	●
17		オオシオカラトンボ				●	●	●	●	●	●	●
18		ウスバキトンボ						●	●	●	●	●
19		コシアキトンボ				●		●	●	●	●	●
20		チョウトンボ										
21		コノシメトンボ		●				●	●			
22		ナツアカネ	●	●	●							
23		アキアカネ		●		●			●	●		●
24		ノシメトンボ		●							●	
25		マイコアカネ	●								●	
26		リスアカネ		●					●	●		
27		ネキトンボ										
合計 7科27種			2種	5種	1種	4種	1種	6種	7種	4種	5種	8種



表VI-3 トンボ類地点別確認状況一覧(3/3)  
 (地点 21 : 荒川河川敷舟渡二・三丁目～地点 30 : 板谷公園)

No.	科名	種名	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
			荒川河川敷舟渡二・三丁目	都立浮間公園	板橋区立城北公園	平和公園	安養院	都立城北中央公園	茂呂山公園	氷川神社	大山公園	板谷公園	
1	イトトンボ	クロイトトンボ		●									
2		アジアイトトンボ	●	●									
3		アオモンイトトンボ	●	●									
4	アオイトトンボ	ホソミオツネイトトンボ											
5		オオアオイトトンボ											
6	サナエトンボ	ミヤマサナエ	●										
7		ウチワヤンマ		●									
8		ナゴヤサナエ	●										
9	オニヤンマ	オニヤンマ											
10	ヤンマ	クロスジギンヤンマ		●				●					
11		ギンヤンマ		●									
12		ヤブヤンマ						●					
13	エソトンボ	オオヤマトンボ		●									
14	トンボ	ジョウジョウトンボ		●									
15		コフキトンボ	●	●									
16		シオカラトンボ	●	●	●	●		●		●			
17		オオシオカラトンボ		●				●	●				
18		ウスバキトンボ	●	●		●		●	●				
19		コシアキトンボ	●	●									
20		チョウトンボ	●	●									
21		コノシメトンボ						●			●		
22		ナツアカネ		●	●			●	●		●	●	●
23		アキアカネ	●						●				
24		ノシメトンボ		●				●	●				
25		マイコアカネ								●			
26		リスアカネ						●	●		●		
27	ネキトンボ												
合計 7科27種			10種	16種	2種	2種	5種	9種	2種	4種	1種	1種	

## ■重要種

表VI-4に示したように本年度調査ではホソミオツネトンボ、クロスジギンヤンマ、コノシメトンボなど17種の重要種が確認された。なお、重要種は表VI-5の選定基準に基づいて選定した。また、表VI-4の選定基準欄の①～④は表VI-5の選定基準の文献①～④に対応する。

表VI-4 トンボ類重要種一覧

No.	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
1	イトトンボ	アオモンイトトンボ				C
2	アオイトトンボ	ホソミオツネトンボ				B
3		オオアオイトトンボ				B
4	サナエトンボ	ミヤマサナエ				B
5		ウチワヤンマ				C
6		ナゴヤサナエ			NT	A
7	オニヤンマ	オニヤンマ				B
8	ヤンマ	クロスジギンヤンマ				C
9		ヤブヤンマ				B
10	エゾトンボ	オオヤマトンボ				C
11	トンボ	ショウジョウトンボ				C
12		チョウトンボ				C
13		コノシメトンボ				C
14		ナツアカネ				C
15		マイコアカネ				C
16		リスアカネ				B
17		ネキトンボ				C
合計 7科17種					1種	17種

表VI-5 重要種選定基準一覧

①	「文化財保護法」に基づく、国および県、市町村の天然記念物に指定されている種
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく国内希少野生動植物種および緊急指定種
③	「報道発表資料－「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」(環境省, 2007年8月)において絶滅、野生絶滅(EX)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT)、情報不足(DD)、絶滅のおそれのある地域個体群(LP)に指定されている種
④	「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998)の区部地域でAランク(絶滅の危機に瀕している種)、Bランク(絶滅の危機が増大している種)、Cランク(生息環境の変化によりAランクやBランクへの移行が危惧される種)、Dランク(野生で絶滅と判断される種)、Ep(地域限定種)、UK(現状不明)のいずれかのカテゴリーに指定されている種

## ■本年度確認された種の概況

以下に本年度確認された種の概況を示すとともに、種別の確認地点図も合わせて示す。

### ・クロイトトンボ

赤塚植物園および都立浮間公園の 2 地点で確認された。おもに水生植物の繁茂する水域で見られるが、人工的な水域に出現することもある。赤塚溜池公園や見次公園などの水域でも今後確認される可能性もある。

### ・アジイトトンボ

荒川河川敷周辺、都立浮間公園、赤塚公園大門地区など 4 地点で確認された。水生植物の生育する比較的開放的な池沼などでみられるが、人工的な水域に出現することもある。高島平地域(荒川河川敷周辺、浮間公園)で多くみられるが、赤塚公園大門地区など、まとまった水域から離れた地点でも確認された。

### ・アオモンイトトンボ

荒川河川敷周辺、都立浮間公園など 4 地点で確認された。水生植物の生育する池沼などでみられるが、人工的な水域に出現することもある。高島平地域(荒川河川敷周辺、浮間公園)でのみ確認されたが、確認された地点では、比較的普通にみられた。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998)において C ランクの重要種とされている。

### ・ホソミオツネトンボ

赤塚城址においてのみ確認された。温暖季には水生植物の生育する池沼、水田などでみられるが、越冬の時期には水辺を離れ、日当たりの良い樹林内などに集まる。晩秋には赤塚城址以外にも、こうした樹林のみられる場所では確認される可能性がある。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998)において B ランクの重要種とされている。

### ・オオアイトトンボ

赤塚城址においてのみ確認された。樹木の覆い被さった池沼、湿地などでみられるが、未成熟の個体は水辺を離れ、周辺の樹林内や林縁などでみられる。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998)において B ランクの重要種とされている。

#### ・ミヤマサナエ

荒川河川敷新河岸一～三丁目においてのみ確認された。比較的大きな河川の流域で見られる。上流域で産卵し、孵化したヤゴは流下しながら成長し、河川の中流域～下流域で羽化する。羽化した成虫の未熟個体は高い山の尾根筋などでみられ、成熟すると繁殖場所へ移動する。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）において B ランクの重要種とされている。

#### ・ウチワヤンマ

都立浮間公園においてのみ確認された。水生植物が生育するやや深く、広い開放水面を有する池沼などに生息するが、幅が広く、流れのほとんど無い水路などにもみられる。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）において C ランクの重要種とされている。

#### ・ナゴヤサナエ

赤塚城址および荒川河川敷舟渡二・三丁目の 2 地点で確認された。比較的大きな河川の流域で見られる。成虫は中流域で産卵し、孵化したヤゴは流下しながら成長し、河川の中流域～下流域で羽化する。荒川河川敷舟渡二・三丁目では羽化殻が、赤塚城址では上流へ移動途中と思われる未成熟成虫が確認された。

本種は「一報道発表資料－哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて」（環境省, 2007 年 8 月）において準絶滅危惧 (NT)、また「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）においては A ランクの重要種とされている。

#### ・オニヤンマ

赤塚城址および赤塚溜池公園の 2 地点で確認された。河床が砂礫底の清澄な流れに生息し、成虫もおもにその周辺で見られるが、飛翔力があり、ときに水辺から離れた場所で見られることもある。赤塚城址では成虫が、赤塚溜池公園では幼虫が確認されている。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）において B ランクの重要種とされている。

#### ・クロスジギンヤンマ

赤塚溜池公園、都立浮間公園（水生植物園）など 6 地点で確認された。水生植物が生育し、樹陰のみられる池沼などに生息する。開放的な水域を好むギンヤンマとすみ分

けている。赤塚地域で多くみられ、赤塚植物園の池などの狭小な水域でも確認されている。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）において C ランクの重要種とされている。

#### ・ギンヤンマ

荒川河川敷新河岸一～三丁目、荒川河川敷舟渡四丁目（ビオトープ）、都立浮間公園の 3 地点で確認された。比較的広い開放水面を有する水域に好んで生息する。本年度の調査では広い開放水面のみられる地点に限って確認された。

#### ・ヤブヤンマ

都立城北中央公園においてのみ確認された。おもに樹陰のある池沼などに生息するが、閉鎖的な環境であれば小規模な水域でもみられる。ときに防火用水升などで幼虫がみられる。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）において B ランクの重要種とされている。

#### ・オオヤマトンボ

都立浮間公園においてのみ確認された。水生植物が生育する深く、大きな池沼などに生息し、大きな湖にも多産する

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）において C ランクの重要種とされている。

#### ・ショウジョウトンボ

赤塚溜池公園、赤塚植物園、都立浮間公園など 5 地点で確認された。水生植物が生育する池沼や湿地などに生息する。水生植物（抽水植物）の生育する水域で確認された。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）において C ランクの重要種とされている。

#### ・コフキトンボ

見次公園、荒川河川敷舟渡二・三丁目、都立浮間公園の 3 地点で確認された。ヨシやマコモ、ガマなどが茂るやや富栄養化した池沼や湿地などに生息する。ショウジョウトンボなどに比較するとやや水質の悪い水域にも生息している。

#### ・シオカラトンボ

水域の有無を問わず多くの地点で確認されており、最多の 18 地点で確認された。

おもに水生植物が生育する池沼や湿地などに生息するが、広範な水域に生息可能で、公園の池など人工的な水域にもみられる。

#### ・オオシオカラトンボ

赤塚溜池公園、志村城山公園など 14 地点で確認された。水生植物が茂る池沼などに生息するが、樹林が縁にあるやや閉鎖的な環境を好む。明るい開放的な環境が好きなシオカラトンボとかなり明確に住み分けている。

#### ・ウスバキトンボ

赤塚城址、荒川河川敷新河岸一～三丁目など全調査地点半数にあたる 15 地点で確認された。おもに池沼や水田などに生息するが、公園の池やプール、貯水槽などの人工的な水域でもみられることがある。未成熟成虫は水辺を離れ、草地上などの開放的な空間を群れ飛ぶ。

#### ・コシアキトンボ

赤塚溜池公園、見次公園、都立浮間公園など 12 地点で確認された。樹林に覆われた、やや閉鎖的な、落葉などの堆積物の多い池沼に生息する。未成熟成虫は樹林周辺で見られる。コフキトンボと同様にやや水質の悪い水域にも生息している。

#### ・チョウトンボ

荒川河川敷舟渡二・三丁目および都立浮間公園の 2 地点で確認された。ヨシやマコモ、ガマなど草丈の高い水生植物が繁茂した泥深い池沼などに生息する。都立浮間公園では数個体がまとまって飛翔している姿がみられた。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998) において C ランクの重要種とされている。

#### ・コノシメトンボ

赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区、氷川神社など 9 地点で確認された。水生植物が茂る池沼や水田などに生息する。樹陰や林縁環境のみられる地点で確認されており、水辺から離れた樹林周辺でもみられた。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998) において C ランクの重要種とされている。

#### ・ナツアカネ

赤塚公園大門地区、西台公園など全調査地点の半数にあたる 15 地点で確認された。水生植物が茂る池沼や湿地などに生息する。コノシメトンボ同様、樹陰や林縁環境の

みられる地点で確認されており、水辺から離れた樹林周辺でもみられた。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）において C ランクの重要種とされている。

#### ・アキアカネ

赤塚不動の滝、都立城北中央公園など 11 地点で確認された。おもに水生植物が茂る池沼や湿地などに生息するが、学校のプールなど比較的水深の深い人工的な水域にもみられる。最も普通のアカトンボとされているが、本年度は個体数が少なかった。

#### ・ノシメトンボ

西台公園、安養院など 9 地点で確認された。水際に植物が茂る水深の浅い開放的な池沼、水田などに生息する。未成熟成虫は水辺を離れ、樹林周辺などでみられる。アキアカネ同様、普通の種であるが、本年度は個体数が少なかった。

#### ・マイコアカネ

西徳第二公園、茂呂山公園など 5 地点で確認された。水生植物が茂る、落葉など植物性の堆積物の多い池沼などに生息する。個体数はそれほど多くはないが、常盤台地域(茂呂山公園)でも確認された。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）において C ランクの重要種とされている。

#### ・リスアカネ

徳丸ヶ原公園、氷川神社など 8 地点で確認された。樹林などに覆われた閉鎖的な落葉などの植物性堆積物の多い池沼などに生息する。本年度の調査開始前には再確認は難しいと思われたが、本年度は前回調査(2000 年度)に比べ、個体数が多かった。確認された地点は各地域に散らばっており、都心部に近い、常盤台地域(安養院、城北中央公園)や板橋地域(氷川神社)でも確認されている。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）において B ランクの重要種とされている。

#### ・ネキトンボ

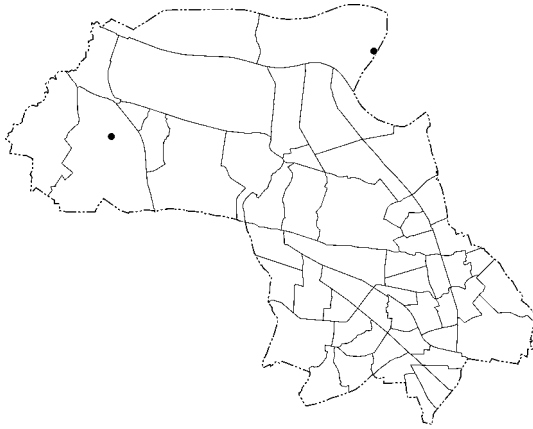
赤塚溜池公園においてのみ確認された。樹林に覆われた水生植物の茂る、やや深くて大きな池沼などに生息するが、ときに遊水池など人工的な水域にもみられる。本年度調査では 1 地点のみの確認であったが、移動性が高い種であることから、都立浮間公園や見次公園などで今後確認される可能性もある。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）において C

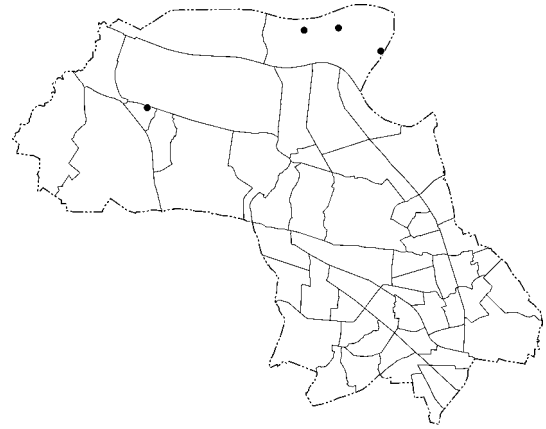
ランクの重要種とされている。



トンボ類イトトンボ科

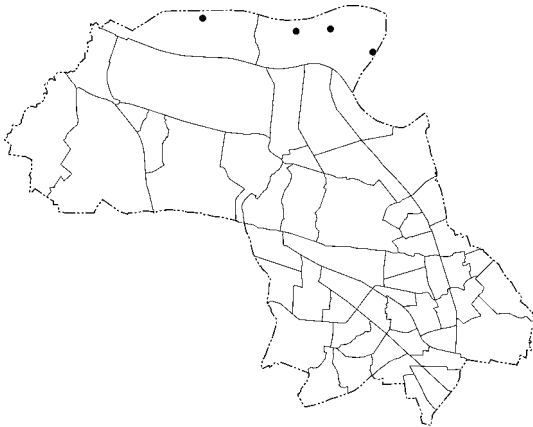


クロイトトンボ

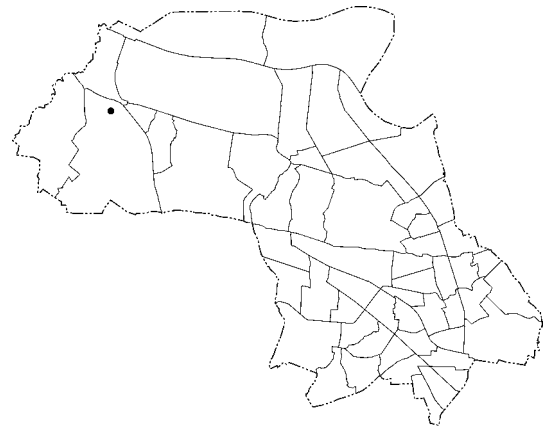


アジアイトトンボ

アオイトトンボ科

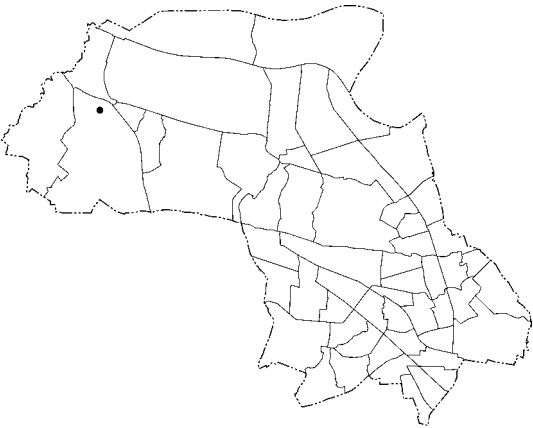


アオモンイトトンボ

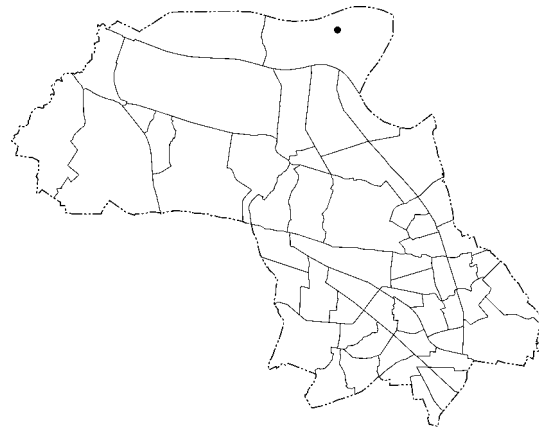


ホソミオツネントンボ

サナエトンボ科

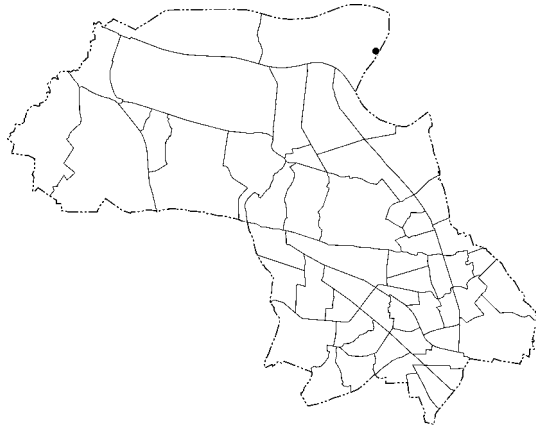


オオアオイトトンボ

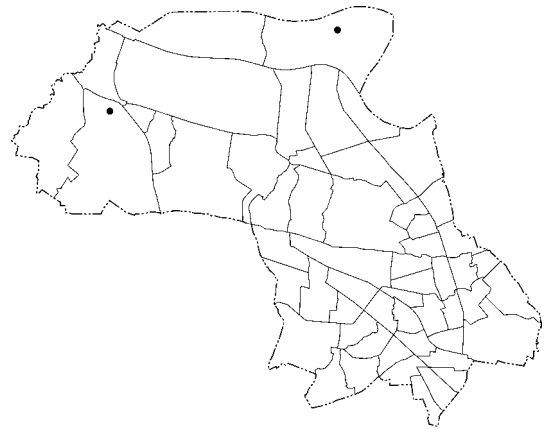


ミヤマサナエ

サナエトンボ科

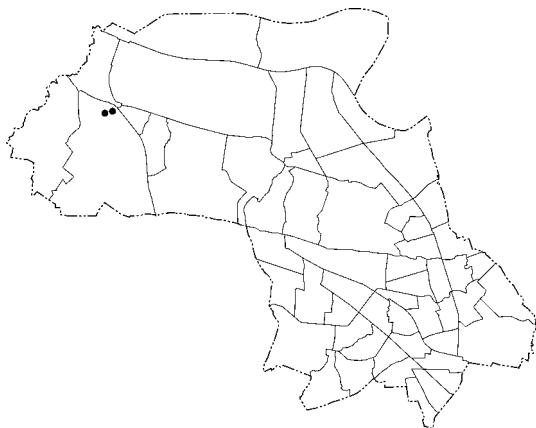


ウチワヤンマ



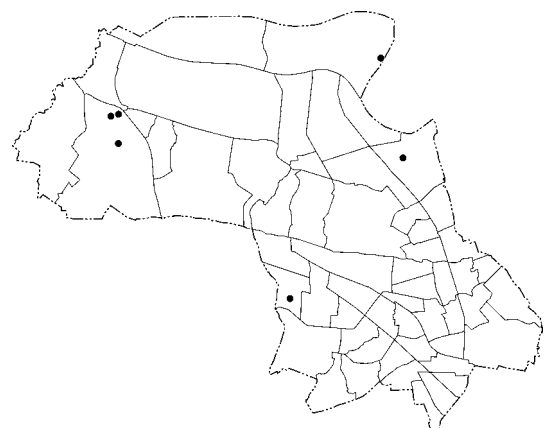
ナゴヤサナエ

オニヤンマ科

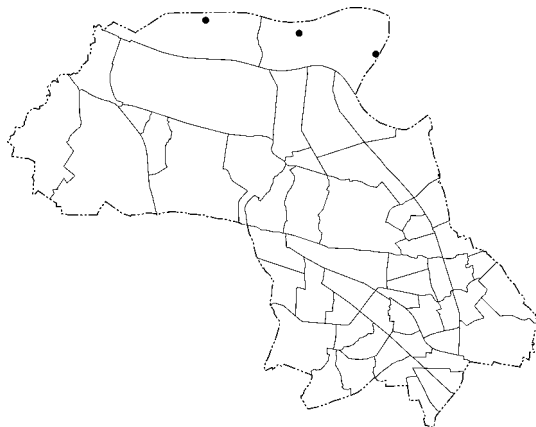


オニヤンマ

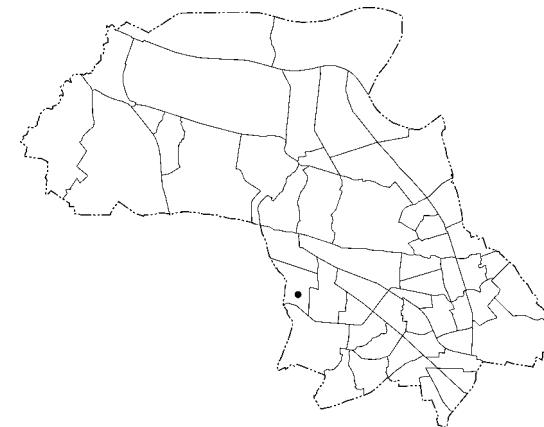
ヤンマ科



クロスジギンヤンマ

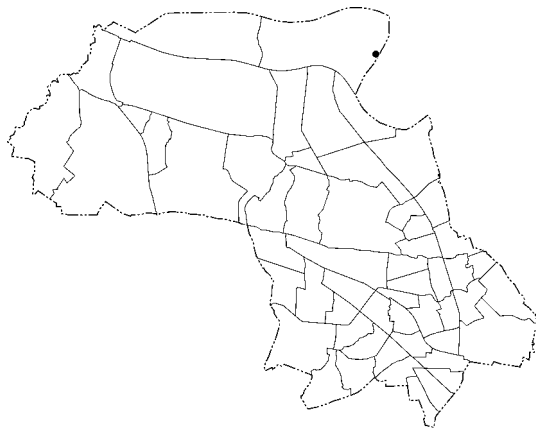


ギンヤンマ



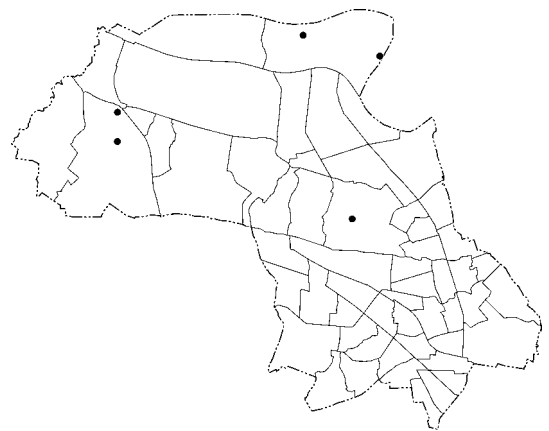
ヤブヤンマ

エゾトンボ科

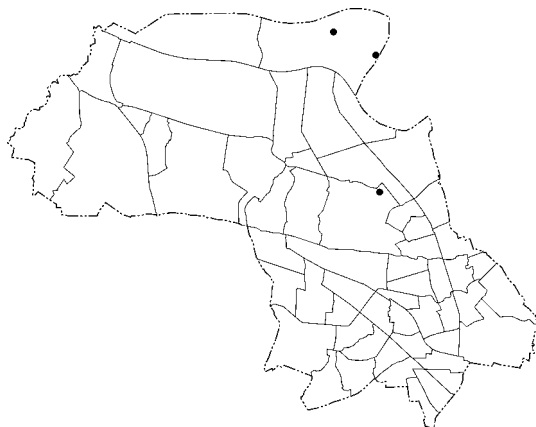


オオヤマトンボ

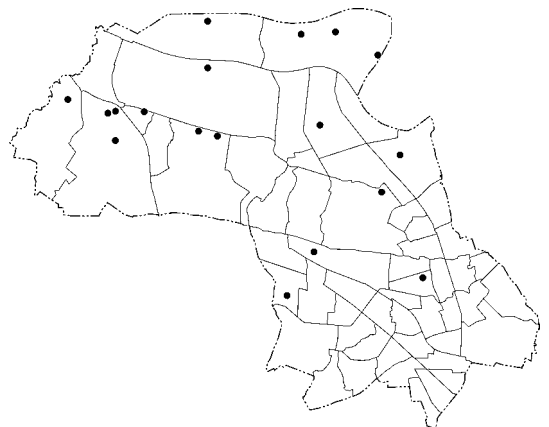
トンボ科



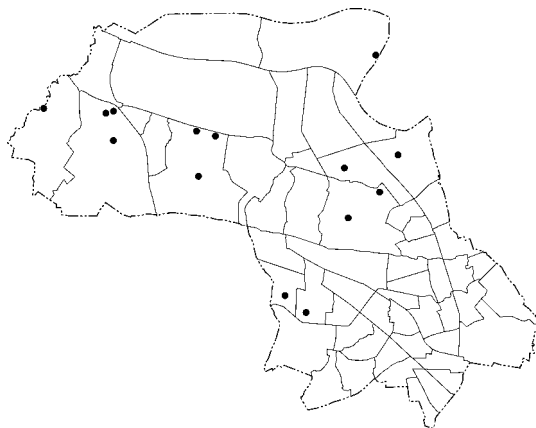
ショウジョウトンボ



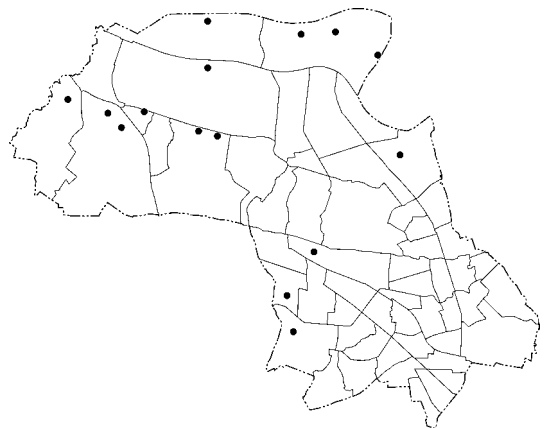
コフキトトンボ



シオカラトンボ

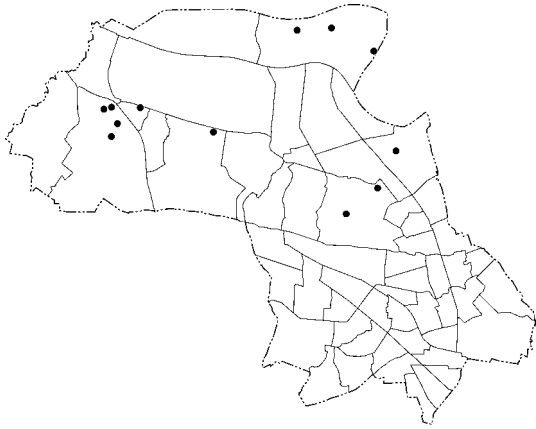


オオシオカラトンボ

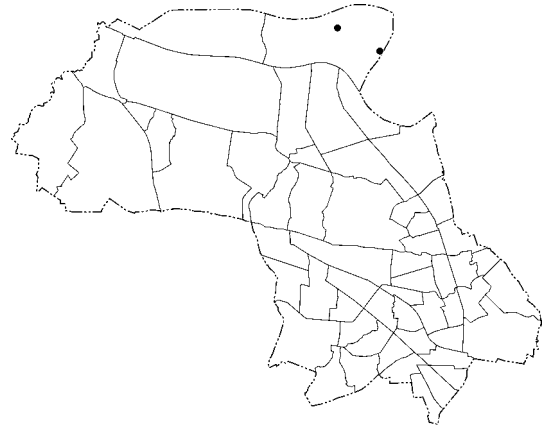


ウスバキトンボ

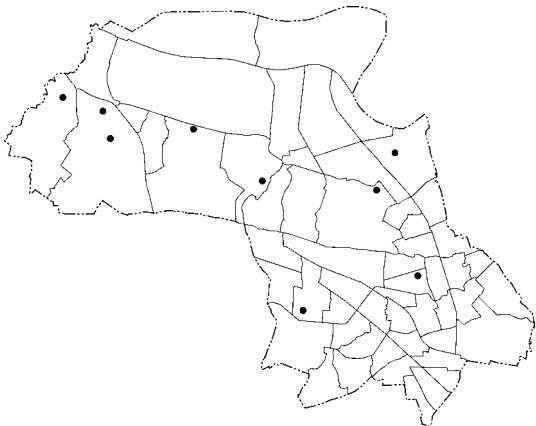
トンボ科



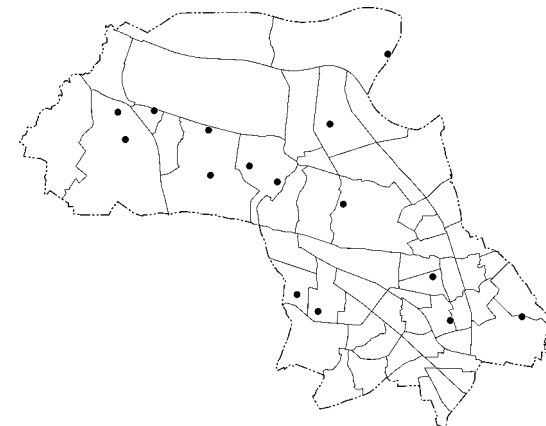
コシアキトンボ



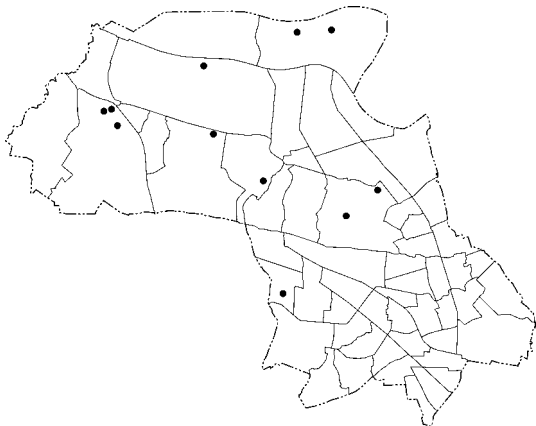
チョウトンボ



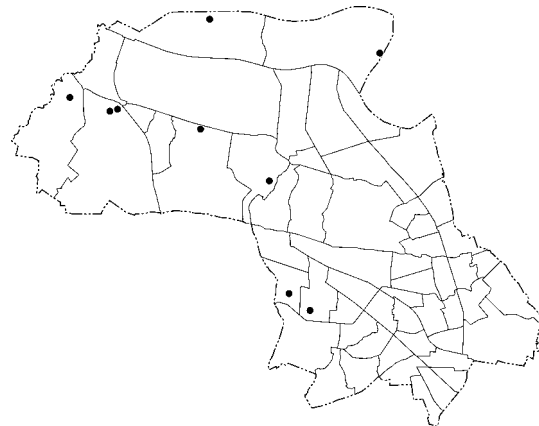
コノシメトンボ



ナツアカネ

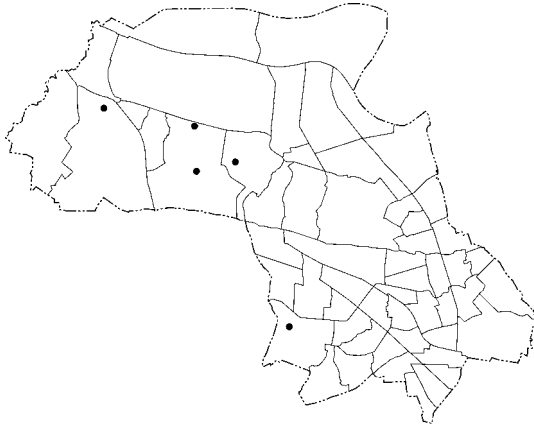


アキアカネ

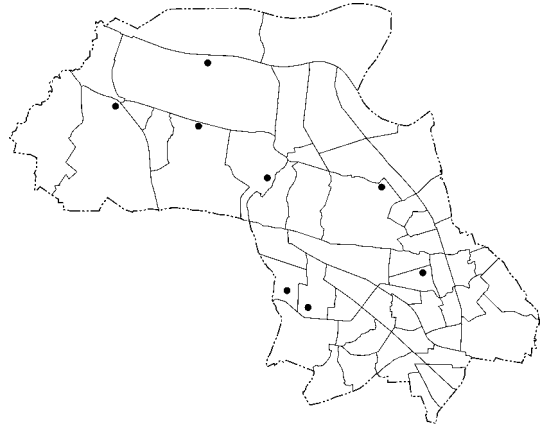


ノシメトンボ

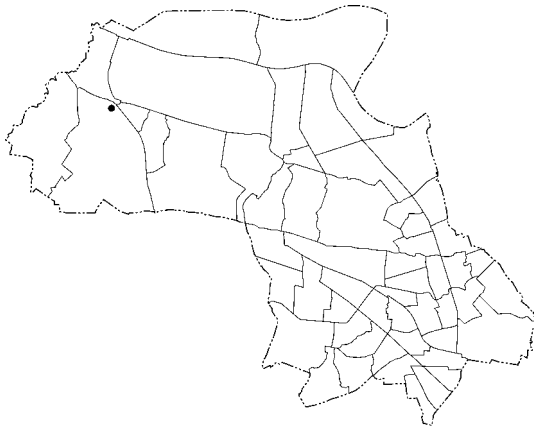
トンボ科



マイコアカネ



リスアカネ



ネキトンボ

## VI-1-ii. バッタ類(カマキリ類・ナナフシ類)

### ■調査結果の概要

本年度調査は、主要昆虫類調査の調査地点として設定した区内のほぼ全域に広がる30地点全ての地点において調査を実施した。その結果、本年度はマダラカマドウマ、エンマコオロギ、シバズなど12科48種のバッタ類が確認された。カマキリ類は1科4種(ハラビロカマキリ、コカマキリ、チョウセンカマキリ、オオカマキリ)、ナナフシ類は1科1種(ナナフシ)であった。

本年度の確認種数は過年度の1985年度(26種)、1990年度(30種)、2000年度(41種)のいずれの調査年度よりも多い結果となった(表VI-6参照)。

本年度新たに確認された種としては、ヤブキリ、ヒメギス、コバネヒメギス、ホシササキリ、ハヤシノウマオイ、ヒメコオロギ、クマコオロギ、キンヒバリ、クルマバッタ、ショウリヨウバッタモドキの10種が挙げられる。

ハヤシノウマオイについては、過年度の1990年度、2000年度と継続してウマオイ属の一種(*Hexacentrus* sp.)が確認されている。ウマオイ属の一種は確認された地点から本種であると考えられることから、本種は以前から板橋区内に生息していたと思われる。

ヤブキリについては、1960年代の古い記録があることから、個体数はごく少ないものの、板橋区内には以前から生息していたものと考えられる。本年度は日暮台公園でのみ確認されているが、個体数が少ないことと出現時期が他のおもなバッタ類に比べると異なることから、確認されにくい種であると考えられる。最盛期(7~8月)に頻繁に調査を行えば、赤塚城址など新たな地点でも確認される可能性がある。

コバネヒメギスは荒川河川敷新河岸一~三丁目においてのみ、少数が確認された。河川敷のみで確認されたことから、以前から生息していたものか、上流域などから移入してきたものなのかは不明である。

クルマバッタは荒川河川敷新河岸一~三丁目、荒川河川敷舟渡二・三丁目の荒川河川敷の2地点でのみ確認された。河川敷のみで確認されたことから、以前から生息していたものか、上流域などから移入してきたものなのかは不明である。

ショウリヨウバッタモドキは赤塚城址、荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)の2地点で確認された。荒川河川敷には複数の個体がみられたが、赤塚城址ではバッタ広場にて1個体がみられたのみである。今後の個体数増加が望まれる。

その他の新たに確認された種である、ヒメコオロギ、クマコオロギ、キンヒバリ、ヒメギス、ホシササキリの5種はいずれも荒川河川敷でのみ確認された。全ての種ともに比較的多くみられたことから、以前から生息していたものと考えられ、夜間調査の実施など調査頻度の違いにより、確認できなかったものと思われる。

一方、過年度に確認されているが、本年度確認されなかった種はカマドウマ、テラニシアリツカコオロギ、ニセハネナガヒシバッタ、コバネヒシバッタの4種が挙げら

れる。

カマドウマについては、2000 年度調査において赤塚公園で確認されたが、赤塚公園周辺は当時と比較して環境に大きな変化がみられないと思われることから、現在も生息しているものと思われる。

テラニシアリツカコオロギは、2000 年度調査において板橋地域のトラップにて確認された。現在も生息していると思われるが、板橋区内の生息状況はほとんど不明であり、現況の把握が望まれる。

ニセハネナガヒシバツタについては、2000 年度調査において、荒川で確認された。2000 年度調査以外の確認記録が見当たらないため、板橋区内の生息状況は明らかではないが生息しているとするれば、荒川流域の可能性が高いと思われる。

コバネヒシバツタについては、1985 年度調査以降、2000 年度調査まで継続的に確認された。1980 年代には赤塚公園周辺のほか、志村地域の日暮台公園や常盤台地域の茂呂山公園など斜面樹林の残された地点で確認されたが、1990 年代以降は赤塚公園周辺でのみ確認された。赤塚公園周辺は良好な樹林が残されていることから、現在も本種が生息しているものと思われるが、以前に比べ個体数が減少している可能性がある。

以下に、今年度初めて確認されたヤブキリ、ヒメギス、コバネヒメギス、ホシササキリ、ハヤシノウマオイ、ヒメコオロギ、クマコオロギ、キンヒバリ、クルマバツタ、ショウリョウバツタモドキの 10 種(○印)および今年度は確認できなかった過年度の確認種であるカマドウマ、テラニシアリツカコオロギ、ニセハネナガヒシバツタ、コバネヒシバツタの 4 種(●印)について解説する。

### ○ヤブキリ

本州(瀬戸内海沿岸～太平洋沿岸茨城県まで)・四国(瀬戸内海沿岸)に分布する。

河畔林内の深い藪、街路樹や庭木の樹上などに生息する。

板橋区内では本年度(2008 年 7 月 11 日)に、日暮台公園の斜面林内の樹上において、成虫 1 個体が確認された。

### ○ヒメギス

北海道・本州・四国・九州に分布する。

おもに平地から山地の湿った草地などに生息する。

板橋区内では本年度(2008 年 7 月 9 日および 2008 年 8 月 20 日)に荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)および荒川河川敷舟渡二・三丁目の草地において、合計 3 個体の成虫が確認された。

### ○コバネヒメギス

北海道・本州・四国・九州に分布する。

湿性草地、乾性草地のどちらにも生息し、林縁部の藪などにもみられる。

板橋区内では本年度(2008年7月9日)に荒川河川敷新河岸一～三丁目の草地において成虫1個体が確認された。

#### ○ホシササキリ

本州・四国・九州に分布する。

シバ、メシバ、チガヤなどが放置され、膝丈ほどに伸びた草地に生息する。

板橋区内では本年度(2008年7月9日)に、荒川河川敷舟渡四丁目(ピオトープ)および荒川河川敷舟渡二・三丁目の草地において、合計3個体の成虫が確認された。

#### ○ハヤシノウマオイ

本州・四国・九州に分布する。

草丈の高い草原、林縁、マント群落などに生息する。

板橋区内では、過年度調査においても本種と考えられるウマオイ属の一種が確認されており、以前より生息していたものと思われる。本年度(2008年7月21日および2008年7月22日)は、赤塚城址および赤塚公園大門地区で林下や林縁の草地において成虫数個体が確認された。

#### ○ヒメコオロギ

本州・四国・九州に分布する。

河原のヨシ原、山道沿いの藪などに生息する。

板橋区内では本年度(8月～10月)に、荒川河川敷(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ピオトープ、舟渡二・三丁目)の草地において多数の個体が確認された。

#### ○クマコオロギ

本州・四国・九州に分布する。

おもに湿った草地に生息する。

板橋区内では本年度(8月20日)に、荒川河川敷新河岸一～三丁目、荒川河川敷舟渡二・三丁目の草地において数個体が確認された。

#### ○キンヒバリ

本州・四国・九州に分布する。

おもにヨシ、ガマ、カヤツリグサなどの生育する草地に生息するが林縁など半日陰の湿地をより好む。

板橋区内では本年度(6月～7月)に、荒川河川敷(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ピオトープ、舟渡二・三丁目)の草地において数個体が確認された。



### ○クルマバツタ

本州・四国・九州に分布する。

おもに草地に生息し、都市部などではほとんどみられない。

板橋区内では本年度(2008年8月20日および2008年8月21日)に、荒川河川敷新河岸一〜三丁目および荒川河川敷舟渡二・三丁目の草地において、合計3個体の成虫が確認された。

### ○ショウリョウバツタモドキ

本州・四国・九州に分布する。

チガヤ、ススキなどのイネ科植物の草原に生息する。

板橋区内では本年度(2008年8月20日および2008年8月21日)に、赤塚城址(バツタ広場)および荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)のイネ科草地において、合計3個体の成虫が確認された。

### ●カマドウマ

北海道・本州・四国・九州に分布する。

おもに洞穴や人家近くに生息するが、海岸の岩の割れ目や、台地の林内などにもみられる。

板橋区内では2000年度調査において、赤塚公園および常盤台1で確認された。赤塚公園周辺は当時と比較して環境に大きな変化がみられないことから、現在も生息しているものと思われ、再確認される可能性が高いと考えられる。

### ●テラニシアリツカコオロギ

本州(西部)・四国・九州に分布する。

トビイロケアリ、ハヤシケアリ、カワラケアリなどのケアリ亜属のアリの巣内からみつかっている。

板橋区内では2000年度調査において、板橋地域(栄町・加賀)のトラップで確認された。板橋区内の生息状況はほとんど不明であり、現況の把握が望まれる。

### ●ニセハネナガヒシバツタ

関東地方以南の本州・四国・九州に分布する。

おもに河原の砂地などの湿った裸地に生息するが、造成地の水溜まり跡の湿った地表などにみられることもある。

板橋区内では2000年度調査において、荒川で確認された。2000年度調査以外の確認記録が見当たらないため、板橋区内の生息状況は明らかではないが、生息しているとすれば、荒川流域の可能性が高いと思われる。

### ●コバネヒシバツタ

本州・四国・九州に分布する。

林縁や林床に生息する。

板橋区内では1985年度調査以降、2000年度調査まで継続的に確認された。1980年代には赤塚公園周辺のほか、志村地域の日暮台公園や常盤台地域の茂呂山公園など斜面樹林の残された地点で確認されたが、1990年代以降は赤塚公園周辺でのみ確認された。赤塚公園周辺は良好な樹林が残されていることから、現在も本種が生息しているものと思われるが、以前に比べ個体数が減少している可能性があり、再確認が望まれる。

表VI-6 主要昆虫類調査経年確認状況一覧(バッタ類)

No.	科名	種名	学名	1985 (I)	1990 (II)	2000 (III)	2008 (IV)
1	コロギス	コロギス	<i>Prosopogryllacris japonica</i> (Matsumura et Shiraki)		●	●	●
2	カマドウマ	カマドウマ	<i>Diestrammena apicalis</i> Brunner			●	●
3		マダラカマドウマ	<i>Diestrammena japonica</i> Blatchllye	●	●	●	●
4	キリギリス	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis orientalis</i> Uvarov				●
5		ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i> Bey-Bienko				●
6		コバネヒメギス	<i>Chizuella bonneti</i> Bolivar				●
7		ウスイロササキリ	<i>Conocephalus chinensis</i> (Redtenbacher)	●	●	●	●
8		コバネササキリ	<i>Conocephalus japonicus</i> (Redtenbacher)			●	●
9		ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i> (Le Guillou)				●
10		ササキリ	<i>Conocephalus melas</i> (de Haan)			●	●
11		クビキリギス	<i>Euconocephalus thunbergii</i> (Stal)	●	●	●	●
12		ヒメクサキリ	<i>Ruspolia jezoensis</i> (Matsumura et Shiraki)			●	●
13		クサキリ	<i>Ruspolia lineosus</i> (Walker)			●	●
14		ハヤシノウマオイ	<i>Hexacentrus japonicus</i> Karny				●
		ウマオイ属の一種	<i>Hexacentrus</i> sp.				●
15	ツユムシ	セスジツユムシ	<i>Ducetia japonica</i> (Thunberg)	●	●	●	●
16		サトクダマキモドキ	<i>Holochlora japonica</i> Brunner	●	●	●	●
17		ツユムシ	<i>Phaneroptera falcata</i> (Poda)	●	●	●	●
18	コオロギ	ヒメコオロギ	<i>Comidogryllus nipponensis</i> (Shiraki)				●
19		ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campester</i> Matsuura	●	●	●	●
20		ミツカドコオロギ	<i>Loxoblemmus doenitzii</i> Stein	●	●	●	●
21		モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i> Matsuura			●	●
22		クマコオロギ	<i>Mitius minor</i> (Shiraki)				●
23		タンボコオロギ	<i>Modicogryllus siamensis</i> Chopard	●	●	●	●
24		エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i> (Ohmachi et Matsuura)	●	●	●	●
25		ツツレサセコオロギ	<i>Velarifictorus mikado</i> (Saussure)	●	●	●	●
		コオロギ科の一種	<i>Gryllidae</i> gen. sp.				●
26	マツムシ	アオマツムシ	<i>Trujalia hibinonis</i> (Matsumura)	●	●	●	●
27		カヤコオロギ	<i>Euscyrus japonicus</i> (Shiraki)	●			●
28		ヒロバネカントン	<i>Oecanthus eurvelutra</i> Ichikawa			●	●
29		カントン	<i>Oecanthus longicauda</i> Matsumura		●	●	●
30	ヒバリモドキ	ヤマトヒバリ	<i>Homoeoxipha obliterata</i> (Caudell)	●			●
31		ウスグモスズ	<i>Metiochodes genii</i> (Furukawa)		●	●	●
32		キンヒバリ	<i>Natula matsurui</i> Sugimoto				●
33		クサヒバリ	<i>Svistella bifasciata</i> (Shiraki)	●	●	●	●
34		マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i> (Matsumura)	●	●	●	●
35		シバズ	<i>Polionemobius mikado</i> (Shiraki)		●	●	●
36		ヤチズ	<i>Pteronemobius ohmachi</i> (Shiraki)	●	●	●	●
37	カナタタキ	カナタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i> (Matsumura)		●	●	●
38	アリツカコオロギ	テラニシアリツカコオロギ	<i>Myrmecophilus teranishii</i> Teranishi			●	●
39	ケラ	ケラ	<i>Grylotalpa orientalis</i> Burmeister		●	●	●
40	ノミバッタ	ノミバッタ	<i>Xya japonica</i> (de Haan)	●	●	●	●
41	ヒシバッタ	ハネナガヒシバッタ	<i>Euparatettix insularis</i> Bei-Bienko	●	●	●	●
42		ニセハネナガヒシバッタ	<i>Ergatettix dorsifer</i> (Walker)			●	●
43		コバネヒシバッタ	<i>Formosatettix larvatus</i> Bei-Bienko	●	●	●	●
44		ハラヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i> (Bolivar)	●	●	●	●
45	オンブバッタ	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i> (Motschulsky)	●	●	●	●
46	バッタ	ショウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea</i> (Thunberg)	●	●	●	●
47		マダラバッタ	<i>Aiolopus tamulus</i> (Fabricius)			●	●
48		クルマバッタ	<i>Gastrimargus marmoratus</i> (Thunberg)				●
49		ショウリョウバッタモドキ	<i>Gonista bicolor</i> (de Haan)				●
50		トノサマバッタ	<i>Locusta migratoria</i> Linnaeus	●	●	●	●
51		クルマバッタモドキ	<i>Oedaleus infernalis</i> Saussure		●	●	●
52		コバネイナゴ	<i>Oxya yezoensis</i> Shiraki	●	●	●	●
53		ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i> (Bolivar)			●	●
54		イボバッタ	<i>Trilophidia annulata japonica</i> Saussure	●	●	●	●
合計 14科54種				26種	30種	41種	48種

注 1) 和名および学名、種の配列は、基本的に九州大学農学部昆虫学研究室・日本野生生物研究センター編(1989,1990)に従った。

注 2) 1985年度、1990年度、2008年度の確認種は現地調査での確認種である。

注 3) 2008年度に確認されたコオロギ科の一種は既に確認された種である可能性が高いことからここでは確認種数に含めなかった。

表VI-7 に示したように、地点別の確認状況では広い草地環境がみられる荒川河川敷の地点の確認種数が多く、荒川河川敷舟渡二・三丁目が 32 種、荒川河川敷舟渡四丁目が 31 種、荒川河川敷新河岸一～三丁目が 30 種(うちカマキリ類 1 種、バッタ類 29 種)となった。荒川河川敷以外では、赤塚城址の 27 種(うちカマキリ類 3 種、バッタ類 23

種、ナナフシ類1種)が最も多く、以下、都立浮間公園の14種、赤塚不動の滝および赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区の12種などとなった。広範な草地在みられる荒川河川敷や自然度の高い良好な樹林を有する赤塚城址で確認種数が多くなった。

表VI-7 バッタ類地点別確認状況一覧(1/3)  
(地点1：成増四丁目緑地～地点10：昆虫公園)

No.	科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
			成増四丁目緑地	成増五丁目公園	赤塚城址	赤塚溜池公園	赤塚不動の滝	赤塚植物園	赤塚公園大門	赤塚公園徳丸ヶ丘緑地	赤塚公園辻山	昆虫公園	
1	カマキリ (カマキリ目)	ハラビロカマキリ			●			●	●	●		●	
2		コカマキリ			●					●			
3		チョウセンカマキリ											
4		オオカマキリ			●	●	●	●			●	●	
1	コロギス	コロギス			●								
2	カマドウマ	マダラカマドウマ			●								
3	ケラ	ケラ											
4	コオロギ	ヒメコオロギ											
5		ハラオカメコオロギ											
6		ミツカドコオロギ											
7		モリオカメコオロギ			●				●	●	●		
8		クマコオロギ											
9		タンボコオロギ											
10		エンマコオロギ			●				●				
11		ツツレサセコオロギ			●			●	●	●			
		コオロギ科の一種											
12		マツムシ	アオマツムシ			●				●	●	●	
13			ヒロハネカンタン										
14	カンタン				●						●		
15	ヒバリモドキ	ウスグモスズ			●			●		●			
16		キンヒバリ											
17		クサヒバリ											
18		マダラスズ			●		●			●			
19		シバスズ			●					●			
20		ギチスズ											
21	カネタタキ	カネタタキ			●				●	●	●	●	
22	キリギリス	セスジツユムシ			●				●				
23		サトクダマキモドキ											
24		ツユムシ											
25		コバネヒメギス											
26		ヒメギス											
27		ヤブキリ											
28		ウスイロササキリ											
29		コバネササキリ											
30		ホシササキリ											
31		ササキリ			●								
32		クビキリギス			●			●		●			
33		ヒメクサキリ			●								
34		クサキリ				●							
35			ハヤシノウマオイ			●				●			
36		オンブバッタ	オンブバッタ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
37	バッタ	ショウリョウバッタ			●		●		●	●			
38		マダラバッタ											
39		クルマバッタ											
40		ショウリョウバッタモドキ			●								
41		トノサマバッタ					●						
42		クルマバッタモドキ			●	●	●						
43		コバネイナゴ			●			●					
44		ツチイナゴ											
45		イボバッタ			●		●			●			
46		ヒシバッタ	ハネナガヒシバッタ										
47		ハラヒシバッタ			●	●	●						
48	ノミバッタ	ノミバッタ					●						
1	ナナフシ(ナナフシ目)	ナナフシ			●				●				
合計 12科48種(バッタ類) カマキリ類1科4種、ナナフシ類1科1種			1種	1種	27種	5種	12種	4種	11種	12種	6種	4種	

表VI-7 バッタ類地点別確認状況一覧(2/3)

(地点 11：西徳第二公園～地点 20：荒川河川敷舟渡四丁目ビオトープ)

No.	科名	種名	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
			西徳第二公園	西台公園	日暮台公園	前野公園	志村城山公園	小豆沢公園	見次公園	徳丸ヶ原公園	荒川河川敷新河岸一～三丁目	荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)
1	カマキリ (カマキリ目)	ハラビロカマキリ								●		
2		コカマキリ										
3		チョウセンカマキリ										●
4		オオカマキリ										
1	コロギス	コロギス										
2		マダラカマドウマ										
3		ケラ										●
4		コオロギ										●
5		ハラオカメコオロギ									●	●
6		ミツカドコオロギ										●
7		モリオカメコオロギ			●				●		●	
8		クマコオロギ									●	
9		タンボコオロギ									●	●
10		エンマコオロギ									●	●
11		ツツレサセコオロギ									●	●
		コオロギ科の一種		●								
12	マツムシ	アオマツムシ										
13		ヒロバナカンタン										●
14		カンタン										●
15	ヒバリモドキ	ウスグモスズ					●	●			●	●
16		キンヒバリ									●	●
17		クサヒバリ									●	●
18		マダラスズ									●	●
19		シバズ									●	●
20		ギチスズ									●	●
21	カネタタキ						●	●		●	●	
22	キリギリス	セスジツユムシ									●	●
23		サトクダマキモドキ									●	●
24		ツユムシ									●	●
25		コバナヒメギス									●	●
26		ヒメギス									●	●
27		ヤブキリ			●							●
28		ウスイロササキリ									●	●
29		コバナササキリ									●	●
30		ホシササキリ									●	●
31		ササキリ									●	●
32		クビキリギス			●						●	●
33		ヒメクササキリ									●	●
34		クササキリ									●	●
35		ハヤシノウマオイ										
36	オンブバッタ			●	●			●		●	●	
37	バッタ	ショウリヨウバッタ									●	●
38		マダラバッタ									●	●
39		クルマバッタ									●	●
40		ショウリヨウバッタモドキ									●	●
41		トノサマバッタ									●	●
42		クルマバッタモドキ									●	●
43		コバナイナゴ									●	●
44		ツチイナゴ									●	●
45		イボバッタ									●	●
46		ヒシバッタ									●	●
47	ハラヒシバッタ									●	●	
48	ノミバッタ									●	●	
1	ナナフシ(ナナフシ目)	ナナフシ	●			●	●					
合計 12科48種(バッタ類) カマキリ類1科4種、ナナフシ類1科1種			1種	1種	4種	2種	3種	4種	0種	1種	30種	31種

表VI-7 バッタ類地点別確認状況一覧(3/3)

(地点21：荒川河川敷舟渡二・三丁目～地点30：板谷公園)

No.	科名	種名	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
			荒川河川敷舟渡二・三丁目	都立浮間公園	板橋区立城北公園	平和公園	安養院	都立城北中央公園	茂呂山公園	氷川神社	大山公園	板谷公園	
1	カマキリ (カマキリ目)	ハラビロカマキリ											
2		コカマキリ							●				
3		チョウセンカマキリ											
4		オオカマキリ			●								
1	コロギス	コロギス											
2	カマドウマ	マダラカマドウマ											
3	ケラ	ケラ											
4	コオロギ	ヒメコオロギ	●										
5		ハラオカメコオロギ	●	●									
6		ミツカドコオロギ	●	●									
7		モリオカメコオロギ		●			●						
8		クマコオロギ	●										
9		ダンボコオロギ	●										
10		エンマコオロギ	●	●				●					
11		ツツレサセコオロギ	●	●									
			コオロギ科の一種										
12		マツムシ	アオマツムシ	●	●								
13			ヒロバネカンタン	●									
14	カンタン		●										
15	ヒバリモドキ	ウスグモズ	●	●				●					
16		キンヒバリ	●										
17		クサヒバリ		●									
18		マダラスズ	●							●			
19		シバズ	●	●									
20		ヤチズ	●										
21	カネタタキ	カネタタキ	●	●									
22	キリギリス	セスジツユムシ									●	●	
23		サトクダマキモドキ				●							
24		ツユムシ	●										
25		コバネヒメギス											
26		ヒメギス	●										
27		ヤブキリ											
28		ウスイロササキリ	●										
29		コバネササキリ	●										
30		ホシササキリ	●										
31		ササキリ											
32		クビキリギス	●										
33		ヒメクサキリ											
34		クサキリ	●										
35			ハヤシノウマオイ										
36	オンブバッタ	オンブバッタ	●	●		●	●	●					
37	バッタ	ショウリョウバッタ	●	●		●		●					
38		マダラバッタ											
39		クルマバッタ	●										
40		ショウリョウバッタモドキ											
41		トノサマバッタ	●										
42		クルマバッタモドキ											
43		コバネイナゴ	●	●									
44		ツチイナゴ	●										
45		イボバッタ	●		●			●	●				
46		ヒシバッタ	●										
47		ハラヒシバッタ	●				●	●					
48	ノミバッタ	ノミバッタ											
1	ナナフシ(ナナフシ目)	ナナフシ											
合計 12科48種(バッタ類) カマキリ類1科4種、ナナフシ類1科1種			32種	14種	2種	3種	3種	5種	5種	1種	1種	1種	

## ■重要種

表VI-8 に示したように本年度調査ではコロギス、キンヒバリ、ヤチスズ、クルマバツタ、ショウリョウバッタモドキの 5 種の重要種が確認された。なお、重要種はトンボ類と同様に表VI-5 の選定基準に基づいて選定した。また、表VI-8 の選定基準欄の①～④は表VI-5 の選定基準の文献①～④に対応する。

表VI-8 バッタ類重要種一覧

No.	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
1	コロギス	コロギス				C
2	ヒバリモドキ	キンヒバリ				B
3		ヤチスズ				C
4	バッタ	クルマバッタ				C
5		ショウリョウバッタモドキ				C
		合計 3科5種				5種

## ■本年度確認された種の概況

以下に本年度確認された種の概況を示すとともに、種別の確認地点図も合わせて示す。

### カマキリ類

#### ・ハラビロカマキリ

赤塚植物園、徳丸ヶ原公園など 6 地点で確認された。おもに林内や林縁などの樹木上に生息しているが、都市部でも公園や住宅地などの樹木の多い環境ではみられることがある。斜面樹林のみられる地点では、本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性がある。

#### ・コカマキリ

赤塚城址、赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区、茂呂山公園の 3 地点で確認された。林内、河川敷の草地、耕作地など生息環境は広く、住宅地などでもみられる。広範な環境に生息する種であることから、本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性がある。

#### ・チョウセンカマキリ

荒川河川敷新河岸一～三丁目においてのみ確認された。草地や畑地、河川敷の草原など、明るく開けた環境を好み、都市部でもみられることがある。開放的な広い草地などを好む種であることから、板橋区内では荒川河川敷以外では確認が難しいと思われる。

#### ・オオカマキリ

赤塚溜池公園、昆虫公園など 7 地点で確認された。おもに林道沿いや林縁の茂みなどに生息する。樹木の多い公園などやや人工的な環境でもみられるが、広い草原など開放的な環境は好まない。ハラビロカマキリ同様、斜面樹林のみられる地点などでは、本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性がある。

### ナナフシ類

#### ・ナナフシ

赤塚城址、志村城山公園など 4 地点で確認された。おもに雑木林やその林縁の樹上に生息する。赤塚地域や志村地域などの斜面樹林がみられる地点では、本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性がある。

### バッタ類

#### ・コロギス

赤塚城址においてのみ確認された。広葉樹林に生息する。赤塚公園周辺では他の地点においても確認される可能性があるが、板橋区内では個体数はごく少ないものと思われる。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）において C ランクの重要種とされている。

#### ・マダラカマドウマ

赤塚城址においてのみ確認された。樹林内の樹洞などで普通にみられるが、しばしば洞穴や人家にも入る。赤塚公園周辺では個体数も多いと思われ、他の地点においても確認される可能性が高い。



#### ・ケラ

荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)においてのみ確認された。おもに水田の畦や池沼の周囲などの湿った草地に生息する。荒川河川敷には広範囲に生息しているものと思われ、他の地点においても確認される可能性がある。

#### ・ヒメコオロギ

荒川河川敷の3地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)にみられるヨシやオギなどの草地において多数の個体が確認された。河原のヨシ原や山道沿いの藪などに生息する。荒川河川敷には広い範囲に生息しているものと思われる。

#### ・ハラオカメコオロギ

荒川河川敷の3地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)および都立浮間公園の4地点で確認された。草原や市街地に普通にみられる。ごく普通の種であることから本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性があるが、樹林のみられる地点では**モリオカメコオロギ**との混生に注意が必要である。

#### ・ミツカドコオロギ

荒川河川敷の舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目および都立浮間公園の3地点で確認された。おもに畑地脇や河川敷の草地などに生息する。荒川河川敷には広く生息しているものと思われるが個体数は少ない。

#### ・モリオカメコオロギ

赤塚公園大門地区や日暮台公園など9地点で確認された。**ハラオカメコオロギ**などと混生すると樹林内で多くみられるが、しばしば河原などでもみられる。板橋区内には**ハラオカメコオロギ**も多数生息していることから、本種は樹林周辺で多くみられる。

#### ・クマコオロギ

荒川河川敷の新河岸一～三丁目および舟渡二・三丁目の2地点で確認された。おもに湿潤な草地に生息する。荒川河川敷には広く生息しているものと思われる。

#### ・タンボコオロギ

荒川河川敷の3地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)の草地で確認された。おもに暖地の湿地などに生息する。荒川河川敷には広く生息しているものと思われる。

#### ・エンマコオロギ

赤塚公園大門地区、荒川河川敷の3地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)など7地点で確認された。耕作地の周辺や河川敷の草地などに生息する。赤塚城址、赤塚公園大門地区などの赤塚地域や荒川河川敷や都立浮間公園などの高島平地域では健在であるが、その他の地域では常盤台地域(都立城北中央公園)の確認のみである。

#### ・ツツレサセコオロギ

赤塚不動の滝、荒川河川敷の3地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)など8地点で確認された。赤塚地域や高島平地域でのみ確認されているが都市部でもみられるごく普通の種であることから、本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性がある。

#### ・アオマツムシ

赤塚公園辻山地区、都立浮間公園など6地点で確認された。都市公園の植栽樹や道路沿いの街路樹上でもごく普通にみられる。赤塚地域や高島平地域でのみ確認されているが都市部でもみられるごく普通の種であることから、本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性が高い。

#### ・ヒロバネカント

荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)および荒川河川敷舟渡二・三丁目の2地点で確認された。河川敷や林縁の藪などに生息する。荒川河川敷でのみみられ、やや局所的である。

#### ・カント

赤塚城址、赤塚公園辻山地区および荒川河川敷の3地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)で確認された。おもに山地や河川沿い、海岸のク

ズなどが茂る草原に生息する。板橋区内では赤塚地域や荒川河川敷に生息地が限定されると思われる。

#### ・ウスグモスズ

赤塚植物園、茂呂山公園など 8 地点で確認された。樹上性で、おもに公園の緑地や人家の生け垣などに生息しているが、河口のヨシ原などでみられることもある。住宅地周辺にも比較的普通にみられることから、本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性が高い。

#### ・キンヒバリ

荒川河川敷の 3 地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)のヨシ原などで確認された。おもにヨシ、ガマ、カヤツリグサなどの生育する草地に生息するが林縁など半日陰の湿地をより好む。板橋区内では荒川河川敷に限って生息すると思われる。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998)において B ランクの重要種とされている。

#### ・クサヒバリ

荒川河川敷新河岸一～三丁目および都立浮間公園の 2 地点で確認された。林縁や市街地の生け垣などに生息する。1980 年代には板橋区内の多くの地域でみられた。本年度は 2 地点のみの確認であったことから、区内においては個体数が減少している可能性がある。

#### ・マダラスズ

赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区、氷川神社など 8 地点で確認された。河川敷の草地のほか、都市公園の植え込みなどにも生息する。都市部でも比較的普通にみられる種であることから、本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性が高い。

#### ・シバスズ

赤塚城址、荒川河川敷の 3 地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)など 6 地点で確認された。シバ地などの草丈のごく低い草地に生息し、環境があれば人工的な公園などでもみられる。荒川河川敷では広く生息しており、個体

数も多い。

#### ・ヤチスズ

荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)および荒川河川敷舟渡二・三丁目の2地点で確認された。放棄水田や河川敷などの湿った草地に好んで生息する。荒川河川敷でのみみられ、局所的である。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998)においてCランクの重要種とされている。

#### ・カネタタキ

赤塚公園辻山地区、大山公園など13地点で確認された。都市公園や住宅地の生け垣などにもごく普通にみられる。都市部でも普通にみられる種であることから、本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性が非常に高い。

#### ・セスジツユムシ

赤塚公園大門地区や荒川河川敷新河岸一～三丁目など4地点で確認された。樹上や高茎の草本上などに生息する。マント群落を好むほか、人家近くの空き地や庭の灌木などにもみられる。本年度は赤塚城址、赤塚公園大門地区などの赤塚地域や荒川河川敷で確認されたが、過年度に確認された志村地域では確認されなかった。板橋区内では、個体数がやや減少傾向にあると思われるが、本年度確認されなかった志村地域などの地点においては今後確認される可能性もある。

#### ・サトクダマキモドキ

荒川河川敷新河岸一～三丁目および平和公園の2地点で確認された。樹上性で、おもに樹木の周辺、林縁などに生息するが、平地では都市公園や人家の庭に広がっている。本来樹林性の種であるが、都心部に近い平和公園などでも確認されたことから、市街地周辺にも進出していることが考えられ、本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性もある。

#### ・ツユムシ

荒川河川敷の3地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)の草地で確認された。公園、河原、荒れ地などの明るい草地に生息する。比較的草丈

の高い環境を好む。荒川河川敷では広い範囲で多数の個体が確認されたが、過年度の調査で確認された赤塚公園(赤塚城址)などの赤塚地域をはじめとするその他の地点では確認されなかった。荒川河川敷以外では、個体数が減少している可能性がある。

#### ・コバネヒメギス

荒川河川敷新河岸一～三丁目においてのみ確認された。湿性草地、乾性草地のどちらにも生息し、林縁部の藪などにもみられる。本年度調査ではじめて確認された種で、板橋区内の生息状況は明らかではない。いずれにしても、個体数は少なく、荒川河川敷に限って生息している可能性が高い。

#### ・ウスイロササキリ

荒川河川敷の3地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)の草地で確認された。海岸や公園などの乾いた草地でもみられるが、おもに水田脇や湿地周辺などの湿った草地に生息する。荒川河川敷では広い範囲で多数の個体が確認されたが、過年度の調査で確認された赤塚公園(赤塚城址)などの赤塚地域をはじめとするその他の地点では確認されなかった。荒川河川敷以外では、個体数が減少している可能性がある。

#### ・コバネササキリ

荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)および荒川河川敷舟渡二・三丁目の2地点の草地で確認された。水田や湿地周辺のイネ科草原に生息するが、生息地は限定される。過年度調査においても、荒川河川敷においてのみ確認されていることから、板橋区内では荒川河川敷に限って生息しているものと考えられる。

#### ・ホシササキリ

荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)および荒川河川敷舟渡二・三丁目の2地点の草地で確認された。シバ、メヒシバ、チガヤなどが放置され、膝丈ほどに伸びた草地に生息する。本年度はじめて確認された種で、板橋区内では荒川河川敷に限って生息しているものと考えられるが、普通種であることと、複数が比較的広い範囲に生息していたことから、以前から生息していた可能性もある。

#### ・ササキリ

赤塚城址においてのみ確認された。他の多くのササキリ類と異なり、林縁部を好み、

やや薄暗い環境に生息する。過年度調査においても赤塚城址の斜面林の林縁部においてのみ確認された。板橋区内では個体数はごく少なく、この地域に限って生息しているものと思われる。

#### ・クビキリギス

赤塚不動の滝、荒川河川敷の 3 地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)など 7 地点で確認された。おもに水田周囲の土手、堤防などに生息する。緑の多い住宅地などでもみられることがある。赤塚城址、赤塚公園大門地区などの赤塚地域や荒川河川敷でおもに確認されているが、志村地域の日暮台公園でも確認されている。住宅地や線路脇の法面などにもみられることもあるため、本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性がある。

#### ・ヒメクサキリ

赤塚城址においてのみ確認された。赤塚城址では斜面林下のササ藪の中にみられた。同所では複数の個体を確認したが、板橋区内においては、過年度調査を含め赤塚城址でのみ確認されている。

#### ・クサキリ

赤塚溜池公園および荒川河川敷の 3 地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)で確認された。畦道、土手、空き地などの比較的浅い草地に多く生息する。荒川河川敷では広範囲から複数個体が得られており、比較的安定した生息状況にあるものと思われる。

#### ・ハヤシノウマオイ

赤塚城址および赤塚公園大門地区の 2 地点で確認された。草丈の高い草原、林縁、マント群落などに生息する。ハヤシノウマオイとしては本年度はじめての確認であるが、板橋区内では過年度調査においても、本種と考えられるウマオイ属の一種が確認されていたことから、以前より生息していたものと思われる。確認された 2 地点では複数個体が確認され比較的安定した生息状況にあるものと思われるが、生息地はやや限定されるものと思われる。

#### ・オンブバッタ

バッタ類中最多の 20 地点で確認された。おもに草丈の低い草地に生息しているが、人家や畑地などにも多くみられる。区内のほぼ全域にみられ、安定した生息状況にあるものと思われる。そのため本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性が高い。

#### ・ショウリョウバッタ

赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区、都立浮間公園など 10 地点で確認された。明るい草原に普通にみられ、開発された郊外の空き地などにも生息する。市街地の周辺などにも生息するが、**オンブバッタ**よりは環境選択性が強いようである。そのため赤塚城址、赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区などの赤塚地域、荒川河川敷では安定した生息状況にあるが、その他の地点では散発的である。

#### ・マダラバッタ

荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)においてのみ確認された。荒れ地や海岸、河原などで普通にみられ、比較的草丈の低い草地を好む。確認地点では複数の個体が確認され安定した生息状況と思われるが、板橋区内の生息地は現状では荒川河川敷に限定されるようである。

#### ・クルマバッタ

荒川河川敷新河岸一～三丁目および荒川河川敷舟渡二・三丁目の 2 地点で確認された。おもに草地に生息し、都市部などではほとんどみられない。板橋区内では本年度はじめて確認された種である。以前から生息していたかどうかは不明であるが、いずれにしても個体数は少なく、生息地は荒川河川敷に限定されるようである。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998)において C ランクの重要種とされている。

#### ・ショウリョウバッタモドキ

赤塚城址(バッタ広場)および荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)の 2 地点で確認された。おもに、チガヤ、ススキなどのイネ科植物の草原に生息する。本年度はじめて確認された種である。赤塚城址、荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)ともに個体数は少なく、特に赤塚城址はバッタ広場の狭い範囲に少数が生息しているものと思われる。

生息環境が比較的限定される種であることから、生息地点においては今後の生息状況の動向が注目される。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）において C ランクの重要種とされている。

#### ・トノサマバッタ

赤塚不動の滝（滝上の広場）、荒川河川敷新河岸一～三丁目、荒川河川敷舟渡二・三丁目の 3 地点で確認された。イネ科やカヤツリグサ科を食草とし、おもに河川敷などの比較的広い草地に生息するが、造成地のような人工的な環境にもみられる。過年度調査においては赤塚公園周辺、荒川河川敷以外の地点でも、個体数が少ないながら確認されているが、本年度調査では確認されなかった。

#### ・クルマバッタモドキ

赤塚城址、荒川河川敷新河岸一～三丁目など 5 地点で確認された。裸地に近い低茎の草地に多くみられる。赤塚城址、赤塚不動の滝などの赤塚地域や荒川河川敷では個体数が多く、安定した生息状況であるが、その他の地点では本年度調査では確認されなかった。生息地は限定されるものと思われる。

#### ・コバネイナゴ

赤塚城址、都立浮間公園など 6 地点で確認された。おもに水田内やその周辺、池沼の周囲などの湿った草地に生息し、イネ科植物を食害する。本年度は赤塚城址、赤塚植物園などの赤塚地域や荒川河川敷、都立浮間公園などの高島平地域では、個体数が多く、安定した生息状況であるが、その他の地点では本年度は確認されなかった。

#### ・ツチイナゴ

荒川河川敷舟渡四丁目（ビオトープ）および荒川河川敷舟渡二・三丁目の 2 地点で確認された。草原でクズなどが繁茂した環境に生息し、イネ科植物よりクズを好んで食べる。本年度の調査では個体数も少なく、荒川河川敷に限って確認されたことから、板橋区内の生息地はごく限定されるものと思われる。

#### ・イボバッタ

赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区、板橋区立城北公園など 8 地点で確認された。強い日差



しや乾燥に強く、地面の露出した場所に生息している。裸地があれば比較的狭い範囲にも出現することから、西徳第二公園や小豆沢公園などの志村地域では本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性がある。

#### ・ハネナガヒシバツタ

荒川河川敷の 3 地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)で確認された。裸地から草地に生息し、湿った環境を好む。過年度調査においても荒川河川敷においてのみ確認されたことから、板橋区内の生息地は荒川河川敷に限定されるようである。

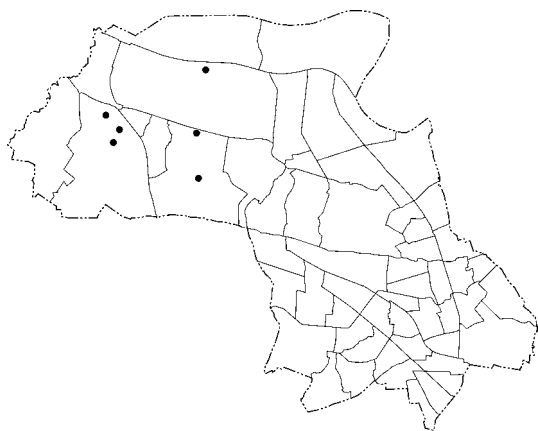
#### ・ハラヒシバツタ

荒川河川敷の 3 地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)、茂呂山公園など 9 地点で確認された。おもに乾燥した草地に生息するが、湿った草地でもみられる。板橋区内の比較的広い範囲で確認されていることから、本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性がある。

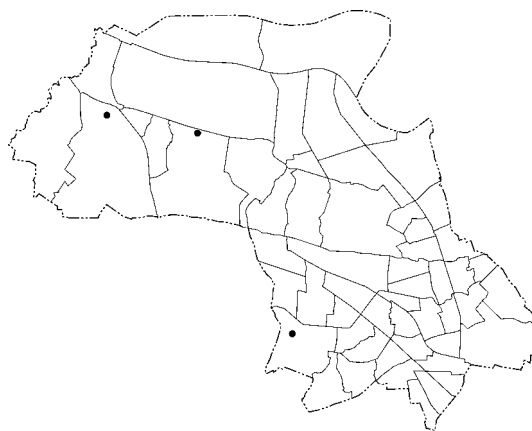
#### ・ノミバツタ

赤塚不動の滝、前野公園の 2 地点で確認された。やや湿った砂質の裸地に生息し、畑地や河川敷に多い。本年度確認された地点の環境と同様の環境はその他の地点でもみられることから、本年度確認されなかった地点においても今後確認される可能性が高い。

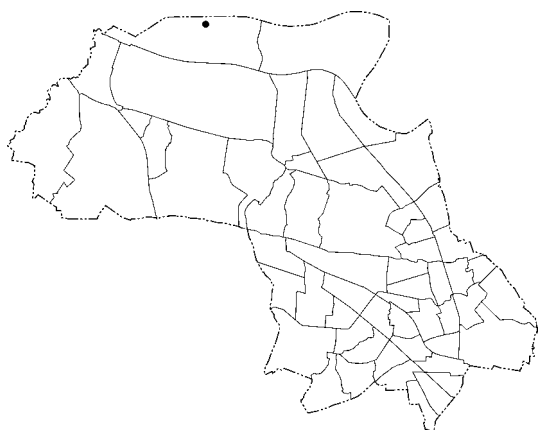
カマキリ類カマキリ科



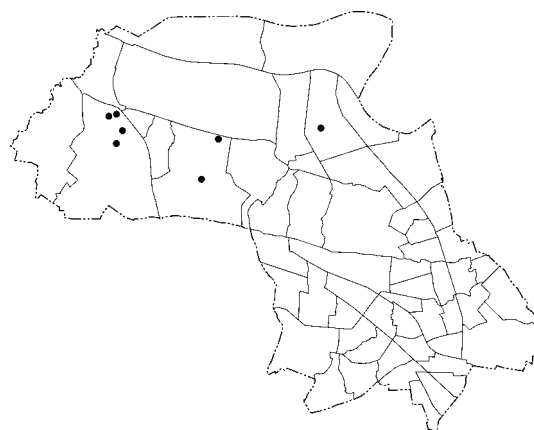
ハラビロカマキリ



コカマキリ

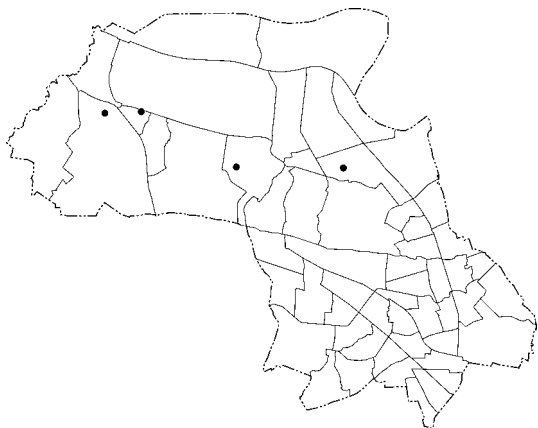


チョウセンカマキリ



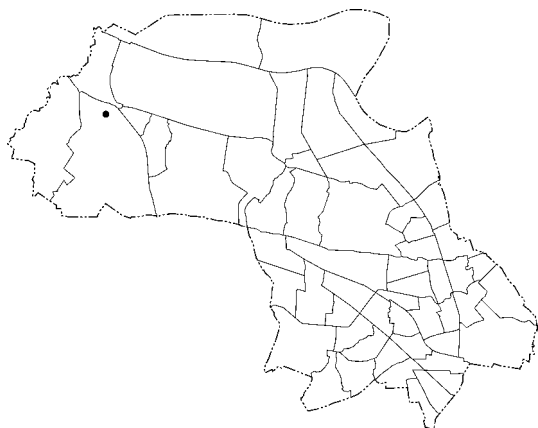
オオカマキリ

ナナフシ類ナナフシ科



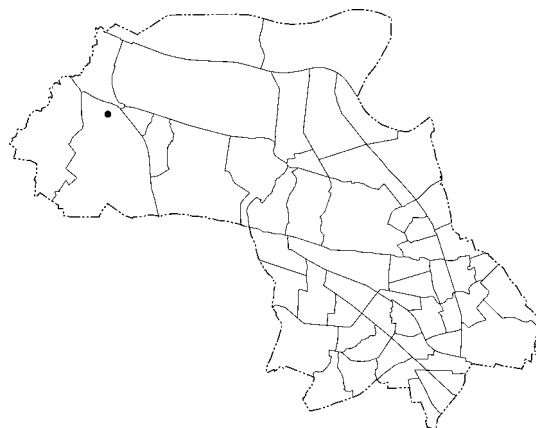
ナナフシ

バッタ類コロギス科



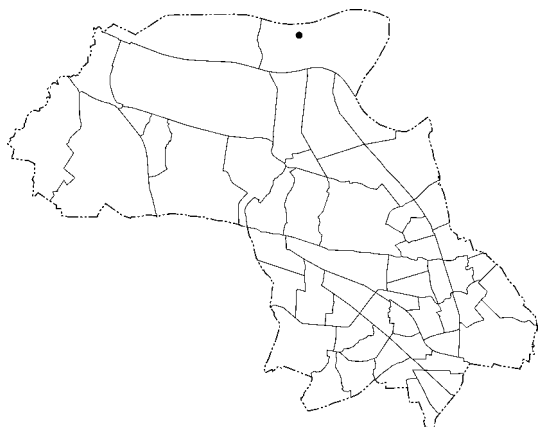
コロギス

カマドウマ科



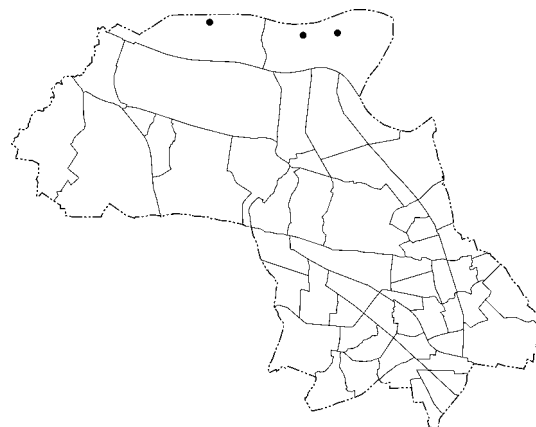
マダラカマドウマ

ケラ科

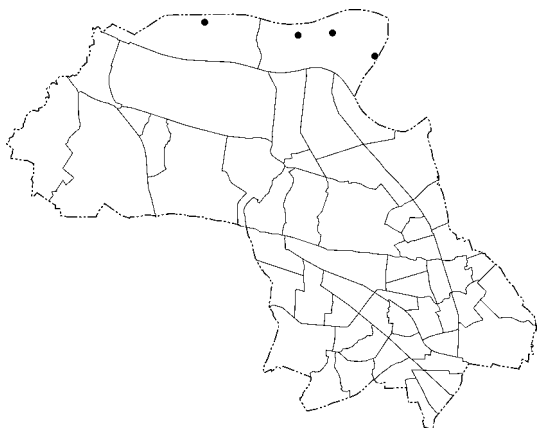


ケラ

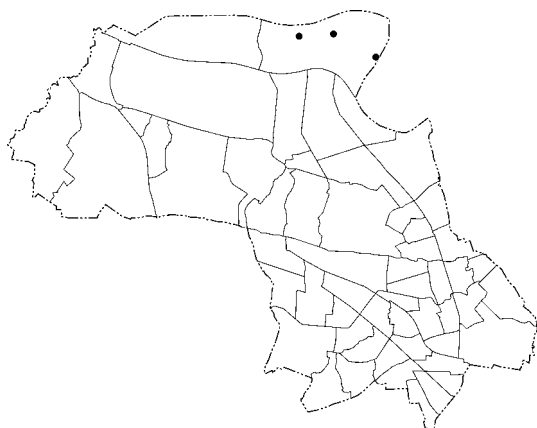
コオロギ科



ヒメコオロギ

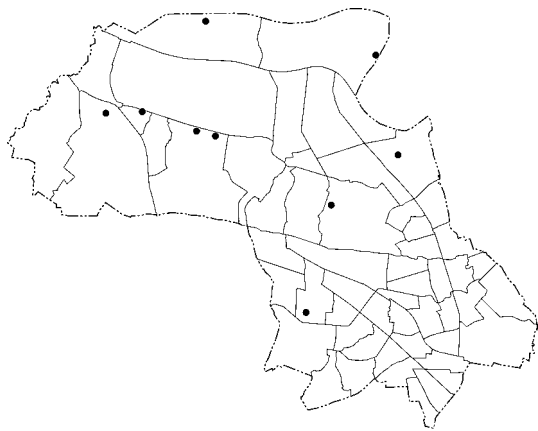


ハラオカメコオロギ

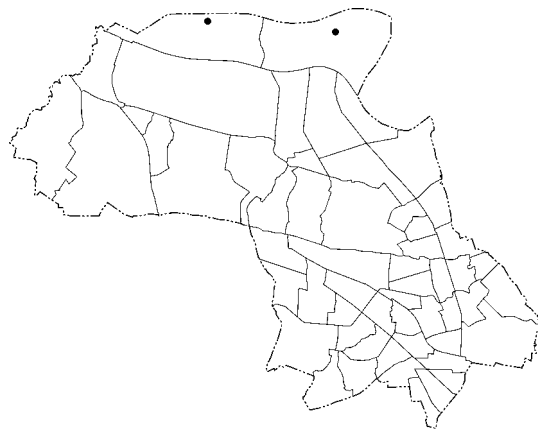


ミツカドコオロギ

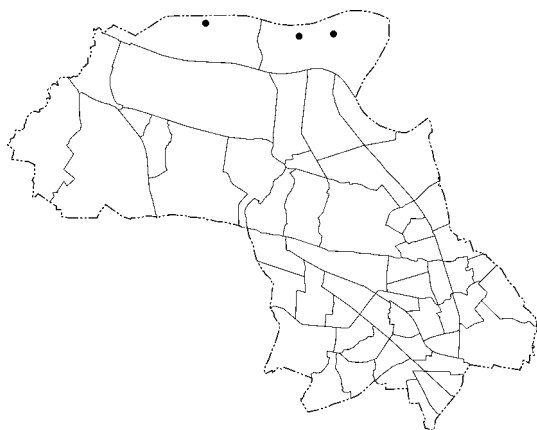
コオロギ科



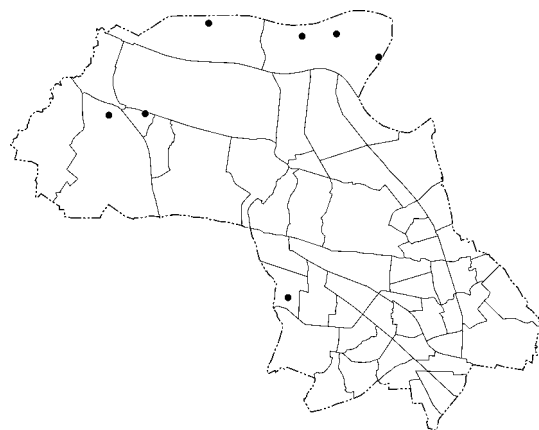
モリオカメコオロギ



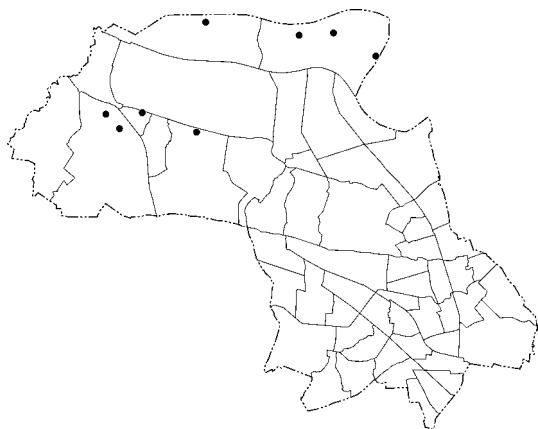
クマコオロギ



タンボコオロギ

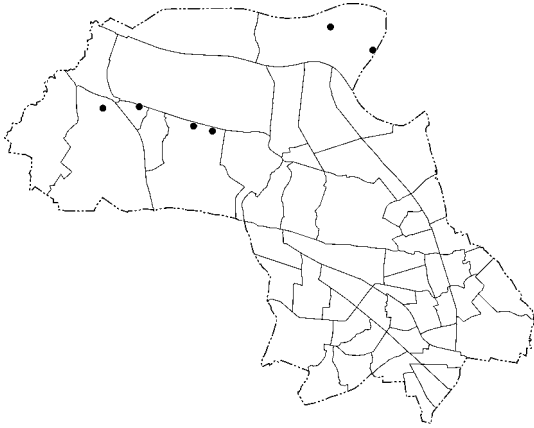


エンマコオロギ

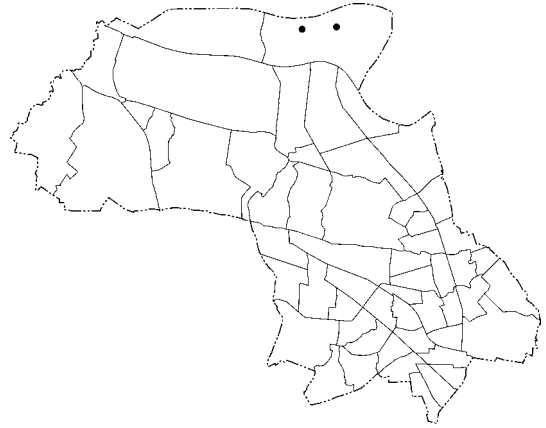


ツヅレサセコオロギ

マツムシ科

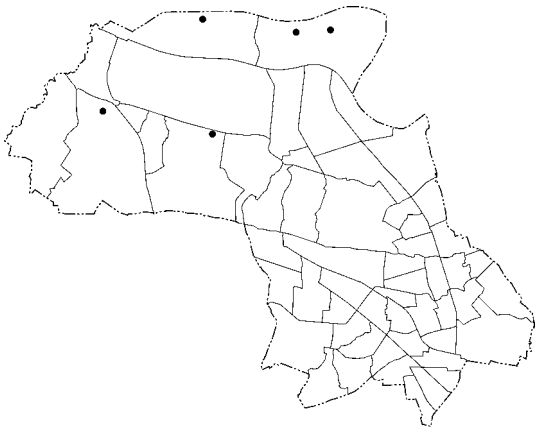


アオマツムシ

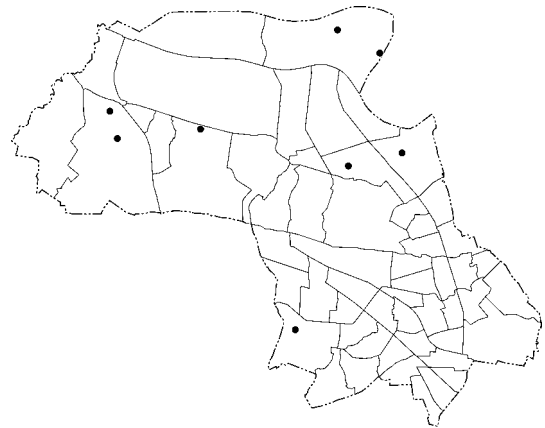


ヒロバネカンタン

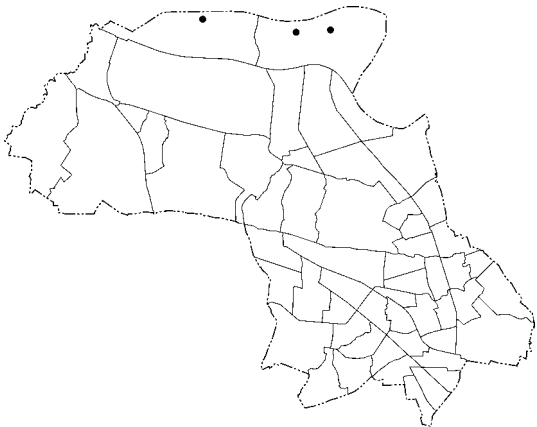
ヒバリモドキ科



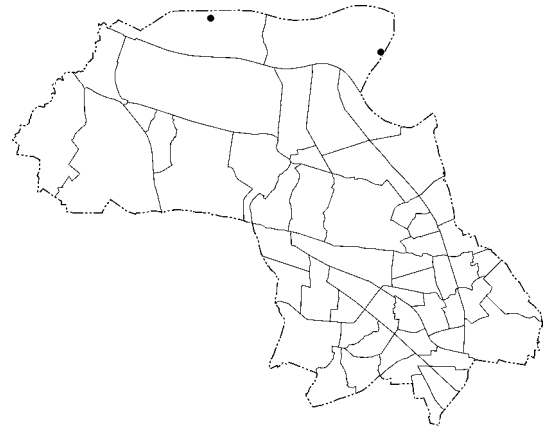
カンタン



ウスグモスズ

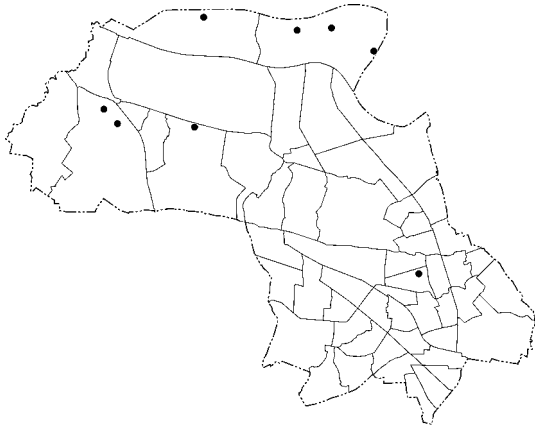


キンヒバリ

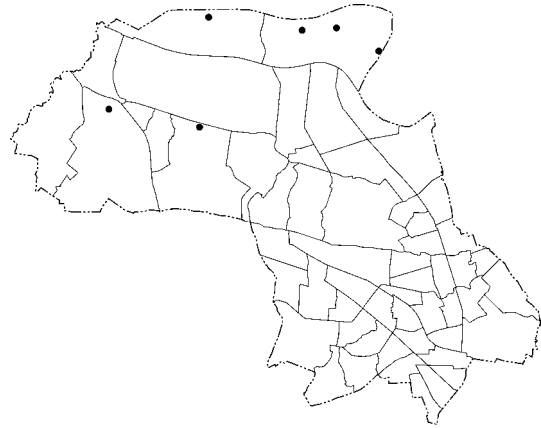


クサヒバリ

ヒバリモドキ科

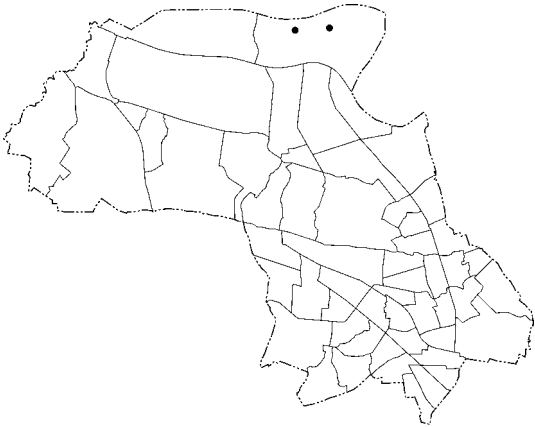


マダラスズ

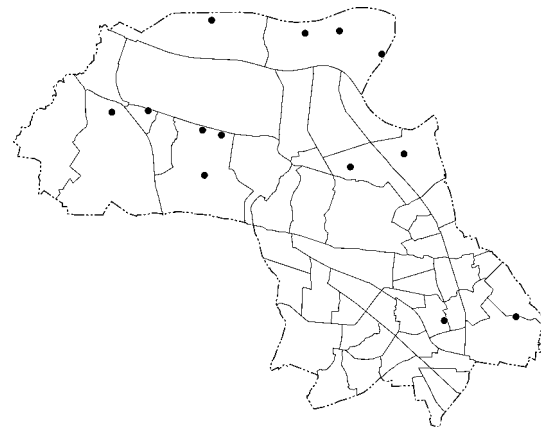


シバズ

カネタタキ科

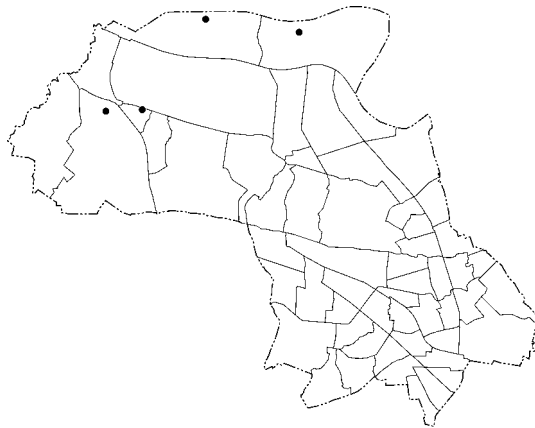


ヤチスズ

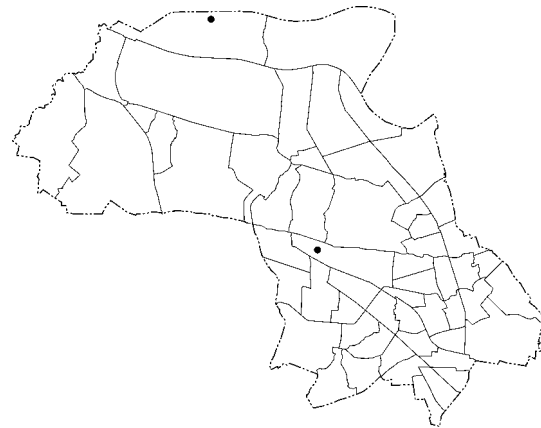


カネタタキ

キリギリス科

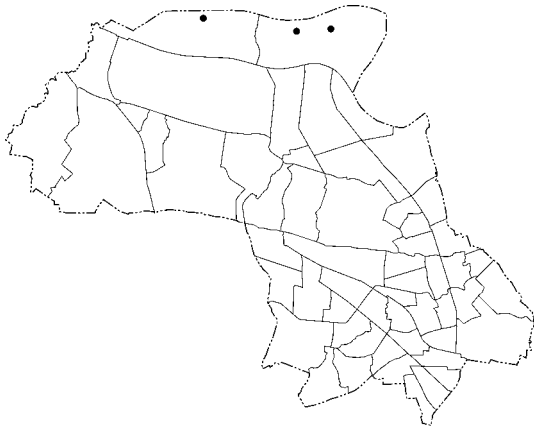


セスジツユムシ

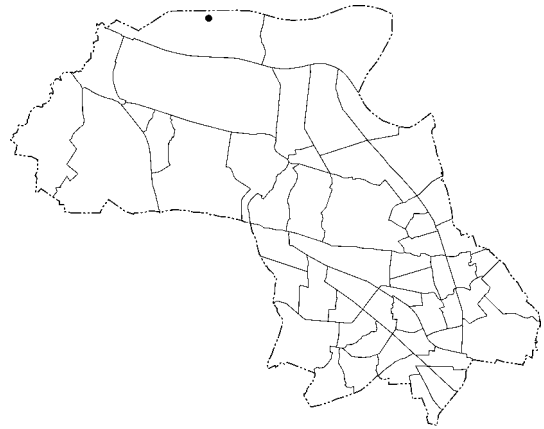


サトクダマキモドキ

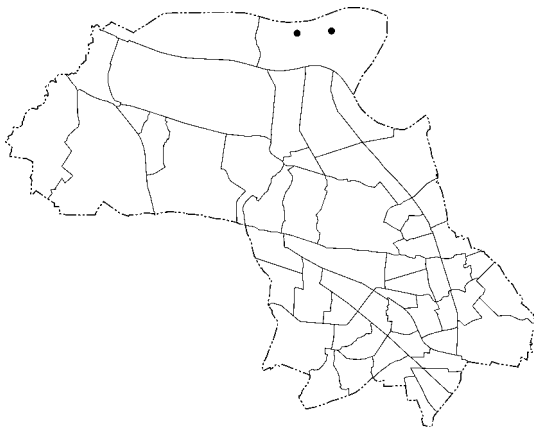
キリギリス科



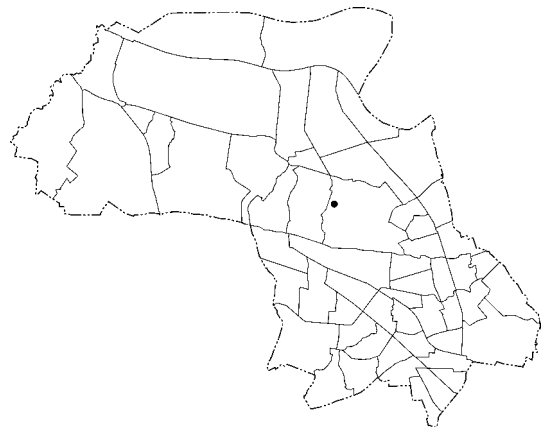
ツユムシ



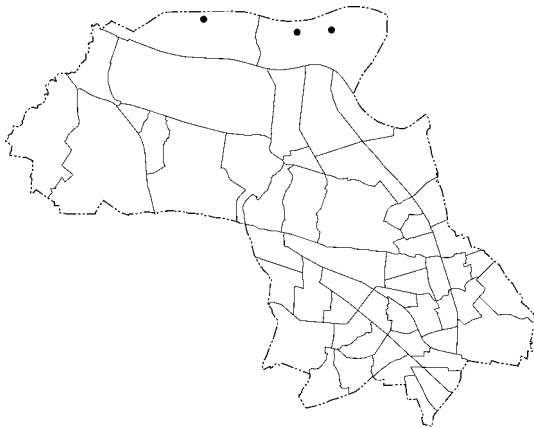
コバネヒメギス



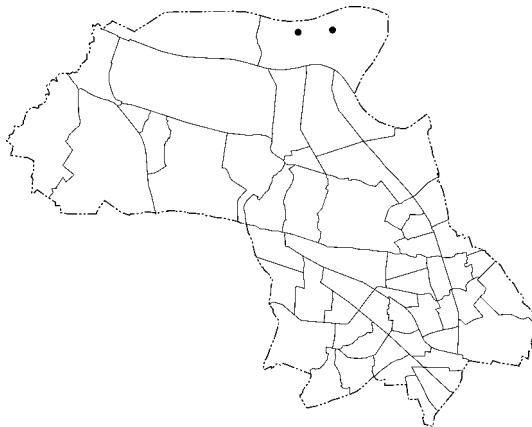
ヒメギス



ヤブキリ

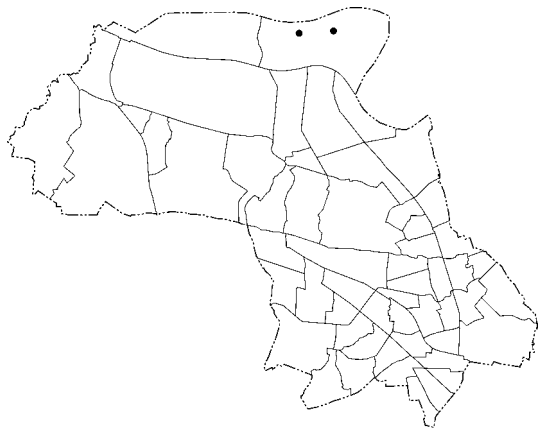


ウスイロササキリ

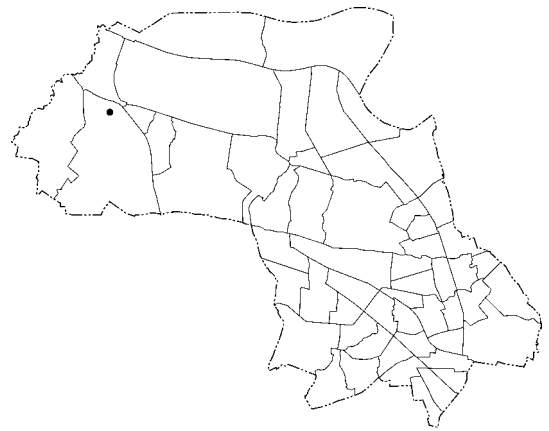


コバネササキリ

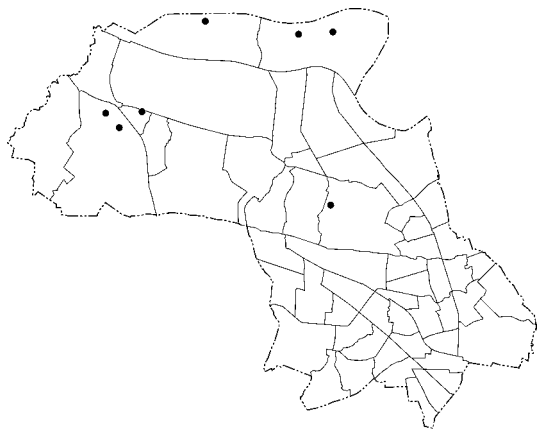
キリギリス科



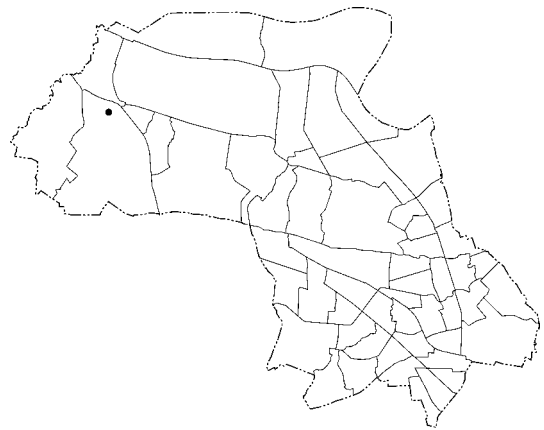
ホシササキリ



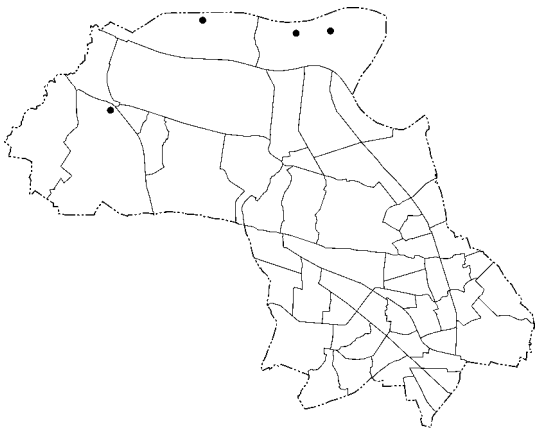
ササキリ



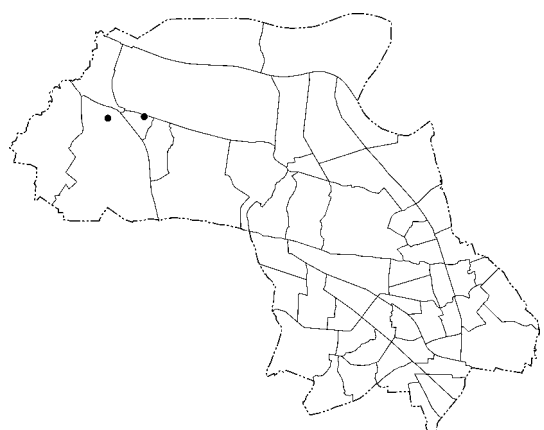
クビキリギス



ヒメクサキリ



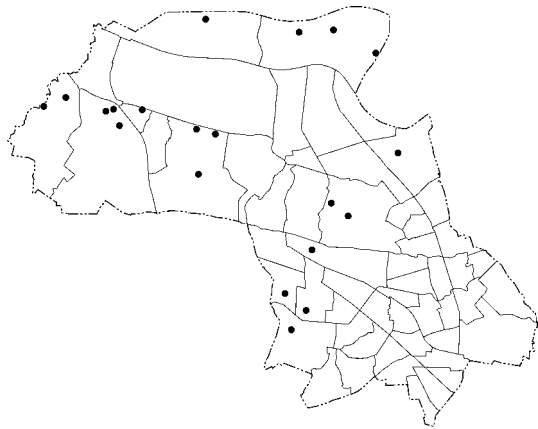
クサキリ



ハヤシノウマオイ

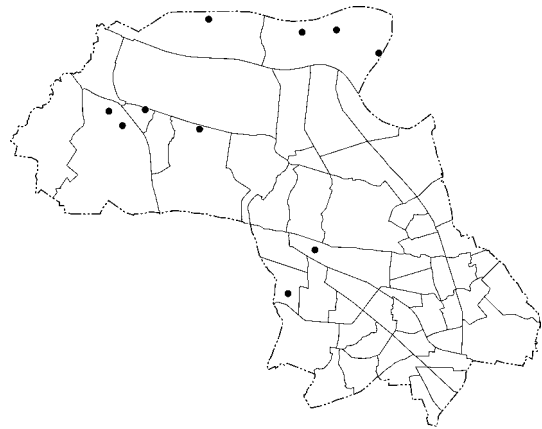


オンブバッタ科

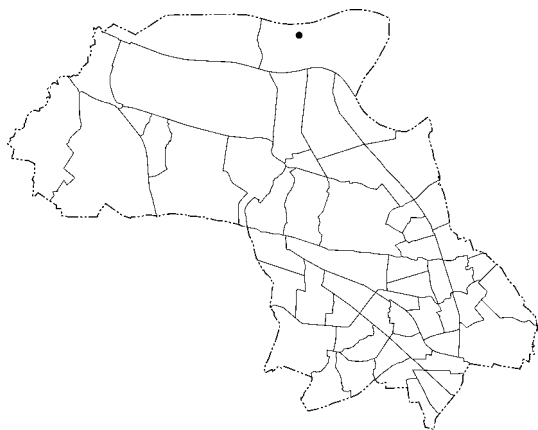


オンブバッタ

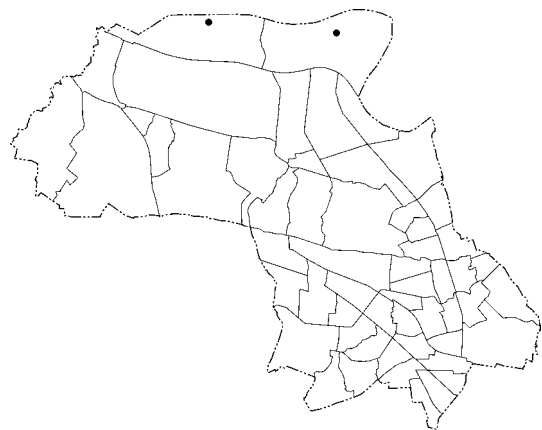
バッタ科



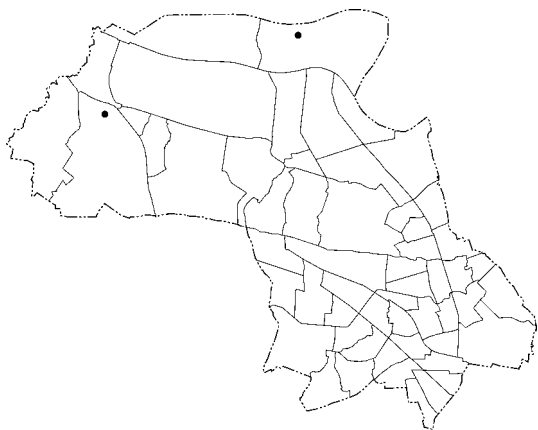
ショウリョウバッタ



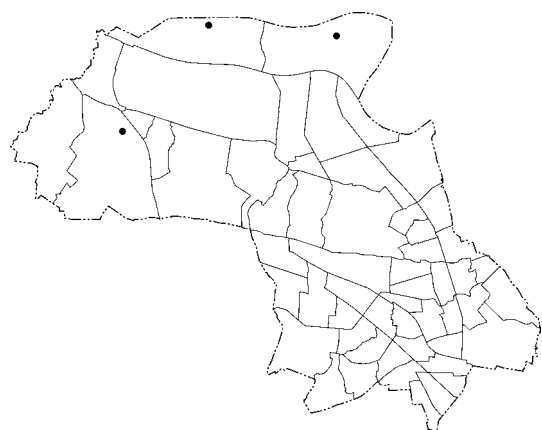
マダラバッタ



クルマバッタ

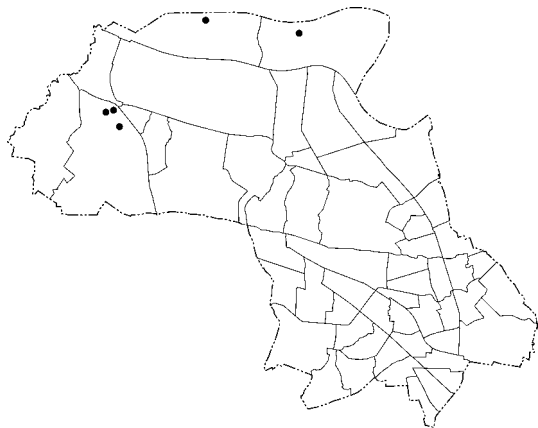


ショウリョウバッタモドキ

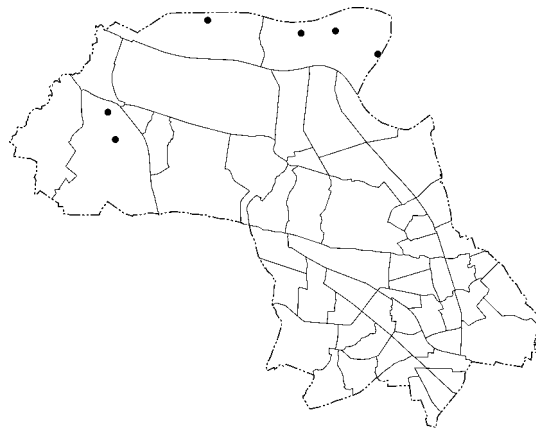


トノサマバッタ

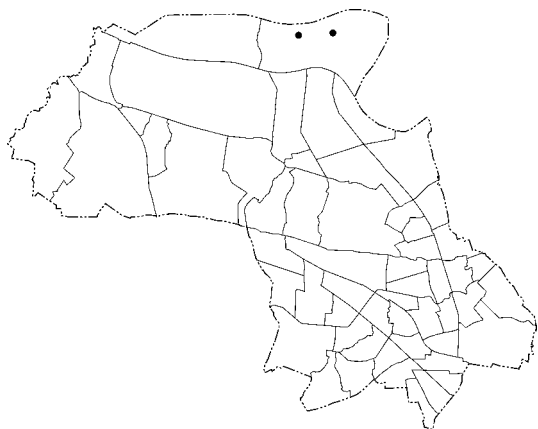
バッタ科



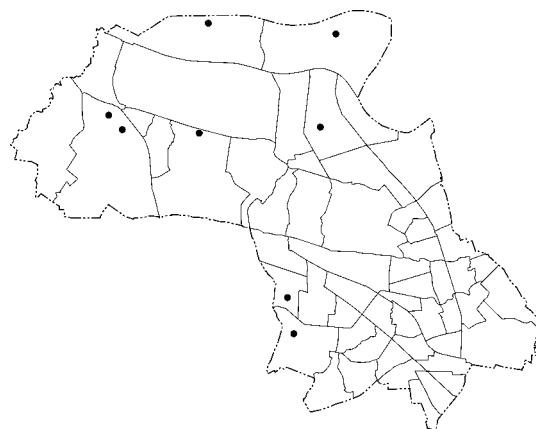
クルマバッタモドキ



コバネイナゴ

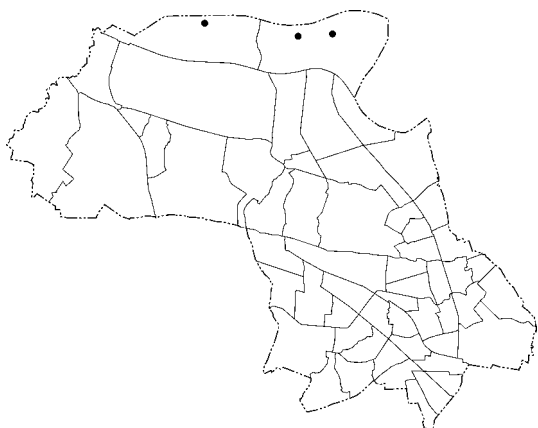


ツチイナゴ

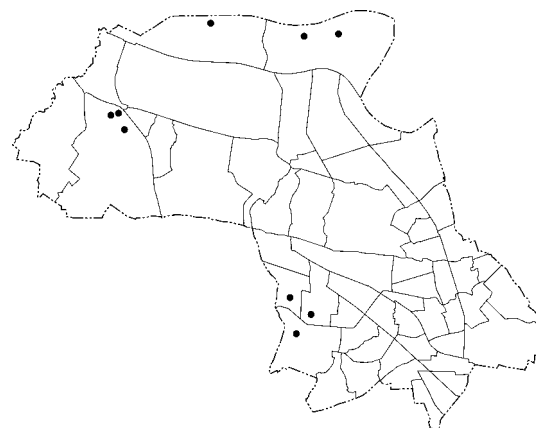


イボバッタ

ヒシバッタ科

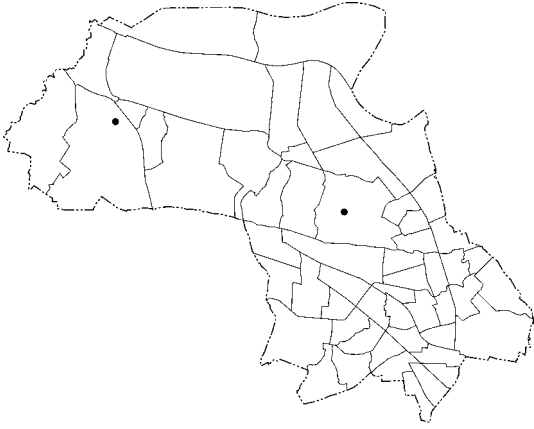


ハネナガヒシバッタ



ハラヒシバッタ

ノミバッタ科



ノミバッタ

## VI-1-iii. チョウ類

### ■調査結果の概要

本年度の調査は過年度の調査と異なり、主要昆虫類調査の調査地点として設定した区内のほぼ全域に広がる 30 地点全ての地点において調査を実施した。その結果、本年度はイチモンジセセリ、ツバメシジミ、キタテハなど 9 科 46 種が確認された。

本年度の確認種数は 1985 年度 (21 種)、1990 年度 (26 種) に比べると多くなっており、2000 年度 (33 種) に引き続き、比較的多い確認種数となった (表 VI-9 参照)。

本年度新たに確認された種としては、ミヤマチャバネセセリ、アサギマダラ、アカホシゴマダラなど 10 種が挙げられる。

ミヤマチャバネセセリは過去の記録としては 1985 年度の文献記録 (板橋区, 1986) があるのみである。本年度調査では荒川河川敷新河岸一～三丁目においてのみ確認された。個体数は少ないものの、この地点の上流側に広がるオギ草地に以前から生息していた可能性がある。

モンキアゲハは過去の記録としては 1985 年度の文献記録 (板橋区, 1986) があるのみである。本年度調査では赤塚城址においてのみ確認された。千葉県や神奈川県南部では個体数が多いが、暖地性・樹林性の種であるためか、都内、特に 23 区内では少ないようである。板橋区内においてもごく少ない種であると考えられ、本年度の調査で確認された個体が、板橋区内で発生したものなのか、羽化後飛来したものなのかは判然としない。

ナガサキアゲハは文献調査も含めて、本年度調査ではじめて確認された種である。本年度調査では赤塚城址および赤塚公園辻山地区の 2 地点で確認された。以前は関東地方ではあまりみられなかったが、近年分布を北に拡げており、神奈川県南部などでは定着しており、個体数も多い。本年度確認された個体が板橋区内で発生したものなのかは不明であるが、都内においても年々確認記録が増加している。

アカシジミは過去の記録としては 1985 年度の文献記録 (板橋区, 1986) があるのみである。本年度調査では赤塚城址および赤塚溜池公園の 2 地点で確認された。以前から生息していたものと思われるが、個体数は少なく、赤塚城址周辺の斜面林にのみ生息しているものと思われる。

ムラサキツバメは文献調査も含めて、本年度調査ではじめて確認された種である。本年度の調査では赤塚公園辻山地区、徳丸ヶ原公園の 2 地点で確認された。ナガサキアゲハ同様、分布を北に拡げている種であり、植栽されたマテバシイなどを食草とする。街路樹などマテバシイの生育している場所において、分布を拡げており、すでに

栃木県内にも定着しているともいわれている。

**アサギマダラ**は過去の記録としては 1985 年度の文献記録(板橋区, 1986)があるのみである。本年度調査では赤塚城址においてのみ確認された。定着の北限はおおよそ関東地方付近とされているが、温暖季に北上し、秋季に南へ回帰する移動が知られており、温暖季には定着地域より北の地域でもみられる。本年度調査で確認された個体が、温暖季の移動途中であった個体か、定着していた個体であるかは不明である。夏季には高山の草地などで多数の個体をみることがある。

**ツマグロヒョウモン**は、文献調査も含めて、本年度調査ではじめて確認された種である。本年度の調査では市街地周辺を含め、23 地点で確認された。以前は西南日本にのみ分布していた種で近年分布を北に拡げている。急速に分布を拡げているようで既に板橋区内では定着しているようである。

**アカホシゴマダラ**は、文献調査も含めて、本年度調査ではじめて確認された種である。本年度の調査では赤塚城址、赤塚公園大門地区など赤塚地域の 4 地点で確認された。**アカホシゴマダラ**は南西諸島に生息する在来種であるが、関東地方でみられる個体は大陸から人為的に移入された別亜種で、23 区内を含む、都内各所に分布を拡げている。板橋区内では既に定着しているようで、赤塚城址では多数の幼虫も確認されている。

**ヒオドシチョウ**は過去の記録としては 1985 年度の文献記録(板橋区, 1986)があるのみである。本年度の調査では赤塚城址においてのみ確認された。幼虫が確認されたことから、来年度以降の再確認が望まれる。板橋区内に定着しているかどうかは判然としないが、いずれにしても個体数はごく少ないものと思われる。

**コジャノメ**は過去の記録としては 1985 年度の文献記録(板橋区, 1986)があるのみである。本年度の調査では赤塚公園辻山地区においてのみ確認された。確認された個体が板橋区内に定着していたものなのかは不明である。

一方、過年度に確認されており本年度確認されていない種は**オオチャバネセセリ**、**ゴイシシジミ**、**クロコノマチョウ**の 3 種が挙げられる。

**オオチャバネセセリ**は、1985 年度調査において、赤塚城址など赤塚地域の 2 地点で確認されたが、その後板橋区内では確認されていない。本種は近年、平地を中心に各地で減少しており、その理由は不明である。北区の 20 年前の調査(北区 1988)では荒川河川敷で確認されているが、その後やはり確認されていない。また、都下の立川市周辺では 2000 年以前は多数の個体がみられた((株)生態計画研究所, 1999)が、その後確認されず、絶滅してしまった可能性が高い。

ゴイシジミは、1985 年度調査において日暮台公園においてのみ確認されている。ササ類の繁茂する藪に好んで生息することから、林床が開放的になった現在の日暮台公園には生息していないものと思われる。板橋区内に生息するとすれば赤塚城址周辺の樹林が有望で、再確認が期待される。

クロコノマチョウについては、2000 年度調査において確認された。2000 年度調査時には偶産とされており(板橋区, 2001)、本年度調査では確認されなかったことから、板橋区内の生息状況は不明である。近年、分布を北に拡げている種であることから、今後板橋区内の確認例が増加し、定着する可能性はある。

以下に、今年度初めて確認されたミヤマチャバネセセリ、モンキアゲハ、アカシジミなどの 10 種(○印)および今年度は確認できなかった過年度の確認種であるオオチャバネセセリ、ゴイシジミ、クロコノマチョウの 3 種(●印)について解説する。

#### ○ミヤマチャバネセセリ

本州・四国・九州に分布する。

草原や山間の路傍、湿地の周辺などに生息するが、生息地は限定される。

板橋区内では本年度(2008 年 8 月 21 日)に荒川河川敷新河岸一～三丁目の植え込み付近において成虫 1 個体が確認された。

#### ○モンキアゲハ

本州関東地方以西・四国・九州に分布する。

樹林の多い地域に生息し、尾根筋に飛来することが多い。

板橋区内では本年度(2008 年 8 月 24 日)に、赤塚城址において、成虫 1 個体が確認された。

#### ○ナガサキアゲハ

近年分布を北に拡げており、現在ではおおよそ関東地方南部以西の本州・四国・九州に分布すると考えられる。

林縁などを好んで飛翔するが、食草との関係から人家周辺にも多くみられる。

板橋区内では本年度(2008 年 8 月 20 日および 2008 年 9 月 10 日)に赤塚城址および赤塚公園辻山地区において成虫各 1 個体が確認された。

### ○アカシジミ

北海道・本州・四国・九州に分布する。

クヌギ、コナラなどの生育する雑木林に生息する。

板橋区内では本年度(5月～6月)に赤塚城址および赤塚溜池公園において成虫数個体が確認された。

### ○ムラサキツバメ

近年分布を北に拡げており、現在ではおおよそ本州関東地方以西・四国・九州に分布すると考えられる。

本来は常緑樹林内に生息するが、食草であるマテバシイの移入・植栽に伴って、生息範囲を拡げている。

板橋区内では本年度(2008年10月16日および2008年10月19日)に、徳丸ヶ原公園および赤塚公園辻山地区において成虫1個体、幼虫1個体が確認された。

### ○アサギマダラ

関東地方以西の本州太平洋岸・四国・九州に分布する。温暖季には高山や北日本でも移動してきた個体が確認される。

成虫はおもに樹林周辺に生息する。

板橋区内では本年度(2008年6月1日および2008年10月18日)に、赤塚城址において成虫各1個体が確認された。

### ○ツマグロヒョウモン

近年分布を北に拡げており、現在ではおおよそ本州関東地方以西・四国・九州に分布すると考えられる。

田畑の周辺、人家の庭、荒地などでよくみられる。

板橋区内では本年度(5月～10月)に、区内のほぼ全域において多数の個体が確認された。

### ○アカホシゴマダラ

南西諸島に生息する在来種であるが、関東地方で見られる個体は大陸から人為的に移入された別亜種で、23区内を含む、都内各所に分布を拡げている。

成虫は食草のあるところに多くみられるため、板橋区内ではエノキのみられる雑木

林の周辺などに多い。

板橋区内では本年度(6月～10月)に赤塚城址、赤塚公園辻山地区など赤塚地域の4地点で多数の成虫、幼虫が確認された。

#### ○ヒオドシチョウ

北海道・本州・四国・九州に分布する。

おもに樹林周辺に生息するが、社寺の境内や人家の周辺、公園などの食草にも幼虫が群がっていることがある。都市部などではほとんどみられない。

板橋区内では本年度(2008年4月27日)に、赤塚城址において幼虫を確認・保護し、羽化(2008年6月1日)を確認した。

#### ○コジャノメ

本州・四国・九州に分布する。

樹林周辺や林内の空隙地に多く生息する。

板橋区内では本年度(2008年9月10日)に、赤塚公園辻山地区において、成虫1個体が確認された。

#### ●オオチャバネセセリ

北海道・本州・四国・九州に分布する。

日当たりの良い草原やササ原に多くみられる。

板橋区内では1985年度調査において赤塚城址で確認されたが、それ以降は確認されていない。周辺地域における近年の確認状況からみても、板橋区内に生息していた個体群は絶滅してしまった可能性が高い。

#### ●ゴイシジミ

北海道・本州・四国・九州に分布する。

ササ類が茂る薄暗い樹林周辺に生息する。

板橋区内では1985年度調査において日暮台公園で確認されたが、それ以降は確認されていない。林内に生息する小型のチョウなので、赤塚地域などには生き残っている可能性があると思われ、再確認が望まれる。



### ●クロコノマチョウ

近年分布を北に拡げており、現在ではおおよそ本州関東地方以西・四国・九州に分布すると考えられる。

薄暗い樹林内に生息する。

板橋区内では2000年度調査において確認され、今後の定着の可能性が示唆されたが、本年度は確認されなかった。区内の生息の現況は不明であるが、近年、分布を北に拡げていることから、今後確認例が増加し、定着する可能性はある。

表VI-9 主要昆虫類調査経年確認状況一覧(チョウ類)

No.	科名	種名	学名	1985 (I)	1990 (II)	2000 (III)	2008 (IV)
1	セセリチョウ	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i> (Menetries)	●	●	●	●
2		ギンイチモンジセセリ	<i>Leptalina unicolor</i> (Bremer et Grey)			●	●
3		イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i> (Bremer et Grey)	●	●	●	●
4		ミヤマチャバネセセリ	<i>Pelopidas jansonis</i> (Butler)				●
5		チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias oberthueri</i> Evans			●	●
6		オオチャバネセセリ	<i>Polytremis pellucida pellucida</i> (Murray)	●			
7		キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus flavus</i> (Murray)		●	●	●
8	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ	<i>Byasa alcinous alcinous</i> (Klug)			●	●
9		アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon nipponum</i> (Fruhstorfer)	●	●	●	●
10		カラスアゲハ	<i>Papilio bianor dehaanii</i> C. Felder et R. Felder		●	●	●
11		モンキアゲハ	<i>Papilio helenus nicconicolens</i> Butler				●
12		キアゲハ	<i>Papilio machaon hippocrates</i> C. et R. Felder		●	●	●
13		ナガサキアゲハ	<i>Papilio nannon thunbergii</i> von Siebold				●
14		クロアゲハ	<i>Papilio protenor demetrius</i> Stoll		●	●	●
15	ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i> Linnaeus	●	●	●	●	
16	シロチョウ	ツマキチョウ	<i>Anthocharis scolymus</i> Butler	●	●	●	●
17		モンキチョウ	<i>Colias erate poliographus</i> Motschulsky	●	●	●	●
18		キチョウ	<i>Eurema hecabe</i> (Linnaeus)		●	●	●
19		スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete melete</i> Menetries	●	●	●	●
20		モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i> Boisduval	●	●	●	●
21	シジミチョウ	ミスイロオナガシジミ	<i>Antigius attilia attilia</i> (Bremer)	●	●	●	●
22		ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i> (de l'Orza)	●	●	●	●
23		ツバメシジミ	<i>Everes argiades hellotia</i> (Menetries)	●	●	●	●
24		アカシジミ	<i>Japonica lutea lutea</i> (Hewitson)				●
25		ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i> (Linnaeus)		●	●	●
26		ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i> (Matsumura)	●	●	●	●
27		ムラサキツバメ	<i>Narathura bazalus turbata</i> (Butler)				●
28		ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica</i> (Murray)			●	●
29		ゴイシシジミ	<i>Taraka hamada hamada</i> (H. Druce)	●			
30		ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i> (Menetries)	●	●	●	●
31	ウラギンシジミチョウ	ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i> de Niceville		●	●	●
32	テングチョウ	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i> Fruhstorfer	●			●
33	マダラチョウ	アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i> (Moore)				●
34	タテハチョウ	コムラサキ	<i>Apatura metis substituta</i> Butler			●	●
35		ツマクロヒヨウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i> (Linnaeus)				●
36		ヒメアカタテハ	<i>Cynthia cardui</i> (Linnaeus)		●	●	●
37		アカホシゴマダラ	<i>Hestina assimilis shirakii</i> Shirozu				●
38		ゴマダラチョウ	<i>Hestina japonica</i> (C. et R. Felder)	●		●	●
39		ルリタテハ	<i>Kaniska canace nojaponicum</i> (von Siebold)			●	●
40		コムシジ	<i>Neptis sappho intermedia</i> W. B. Prver		●	●	●
41		ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i> (Stichel)				●
42		キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i> (Linnaeus)	●	●	●	●
43		アカタテハ	<i>Vanessa indica</i> (Herbst)			●	●
44	ジャノメチョウ	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i> (Hewitson)	●	●	●	●
45		クロノマチョウ	<i>Melanitis phedima oitensis</i> Matsumura			●	
46		コジャノメ	<i>Mycalesis francisca perdiccas</i> Hewitson				●
47		ヒメジャノメ	<i>Mycalesis gotama fulginia</i> Fruhstorfer	●	●	●	●
48		サトキマダラヒカゲ	<i>Neone goshkevitschii</i> (Menetries)	●	●	●	●
49		ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i> Butler		●		●
合計 9科49種				21種	26種	33種	46種

注 1) 和名および学名、種の配列は、基本的に九州大学農学部昆虫学研究室・日本野生生物研究センター編(1989,1990)に従った。

注 2) 1985年度、1990年度、2008年度の確認種は現地調査での確認種である。

表VI-10 に示したように、地点別の確認状況では赤塚城址が圧倒的に多く 39 種が確認された。以下、赤塚公園辻山地区の 26 種、赤塚公園徳丸ヶ原緑地地区の 24 種、荒川河川敷舟渡二・三丁目の 23 種、赤塚公園大門地区の 22 種などとなっている。荒川河川敷舟渡二・三丁目を除くと、まとまった自然度の高い樹林の残されている赤塚地域での確認個体数が多くなった。

表VI-10 チョウ類地点別確認状況一覧(1/3)

(地点1：成増四丁目緑地～地点10：昆虫公園)

No.	科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
			成増 四丁目 緑地	成増 五丁目 公園	赤塚 城址	赤塚 溜池 公園	赤塚 不動の滝	赤塚 植物園	赤塚 公園 大門	赤塚 公園 徳丸ヶ丘 緑地	赤塚 公園 辻山	昆虫 公園
1	セセリチョウ	ダイミョウセセリ	●	●	●		●	●		●		●
2		ギンイチモンジセセリ										
3		イチモンジセセリ	●		●	●	●	●		●	●	
4		ミヤマチヤバネセセリ										
5		チヤバネセセリ			●				●			
6		キマダラセセリ		●	●			●		●		●
7	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ			●			●	●	●		●
8		アオスジアゲハ	●			●	●		●	●		●
9		カラスアゲハ			●				●		●	
10		モンキアゲハ			●				●		●	
11		キアゲハ	●	●	●			●		●	●	
12		ナガサキアゲハ			●						●	
13		クロアゲハ	●	●	●			●	●	●	●	●
14		ナミアゲハ	●	●	●			●	●	●	●	●
15	シロチョウ	ツマキチョウ				●	●		●		●	●
16		モンキチョウ										
17		キチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
18		スジグロシロチョウ			●					●		
19		モンシロチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
20	シジミチョウ	ミスズイロオナガシジミ			●				●	●		●
21		ルリシジミ			●				●	●		●
22		ツバメシジミ			●							
23		アカシジミ			●	●						
24		ウラナシジミ			●					●		
25		ベニシジミ			●					●		
26		ムラサキツバメ			●					●	●	
27		ムラサキシジミ			●			●	●	●	●	
28		セマトシジミ	●	●	●			●	●	●	●	●
29		ウラギンシジミ			●	●		●	●	●	●	●
30	テングチョウ			●								
31	マダラチョウ			●								
32	タテハチョウ	コムラサキ			●						●	
33		ツマグロヒョウモン	●		●			●	●	●	●	●
34		ヒメアカタテハ			●	●		●	●	●	●	●
35		アカホシゴマダラ			●			●	●	●	●	●
36		ゴマダラチョウ			●	●		●	●	●	●	●
37		ルリタテハ	●		●			●	●	●	●	●
38		ヨミスジ	●	●	●	●		●	●	●	●	●
39		ヒオドシチョウ			●					●	●	●
40		キタテハ			●			●	●	●	●	●
41		アカタテハ			●			●	●	●	●	●
42	ジャノメチョウ	ヒカゲチョウ	●	●	●		●	●	●	●	●	●
43		コジャノメ			●						●	●
44		ヒメジャノメ	●	●	●					●	●	●
45		サトキマダラヒカゲ	●		●	●		●	●	●	●	●
46		ヒメウラナミジャノメ			●			●	●	●	●	●
合計 9科46種			15種	11種	39種	14種	18種	20種	22種	24種	26種	15種

表VI-10 チョウ類地点別確認状況一覧(2/3)

(地点11：西徳第二公園～地点20：荒川河川敷舟渡四丁目ビオトープ)

No.	科名	種名	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
			西徳第二公園	西台公園	日暮台公園	前野公園	志村城山公園	小豆沢公園	見次公園	徳丸ヶ原公園	荒川河川敷新河岸一～三丁目	荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)	
1	セセリチョウ	ダイミョウセセリ	●								●	●	
2		ギンイチョウセセリ									●	●	
3		イチョウセセリ	●		●	●		●	●	●	●	●	
4		ミヤマチョウセセリ									●	●	
5		チャバネセセリ	●									●	●
6		キマダラセセリ		●				●	●	●	●	●	●
7	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ						●	●	●	●	●	
8		アオスジアゲハ	●		●	●	●	●	●				
9		カラスアゲハ		●				●					
10		モンキアゲハ											
11		キアゲハ	●									●	
12		ナガサキアゲハ											
13		クロアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
14	ナミアゲハ	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	
15	シロチョウ	ツマキチョウ		●							●	●	
16		モンキチョウ									●	●	
17		キチョウ							●		●	●	
18		スジグロシロチョウ									●	●	
19		モンシロチョウ	●	●		●		●	●	●	●	●	
20	シジミチョウ	ミスイロオナガシジミ		●							●	●	
21		ルリシジミ			●			●	●			●	
22		ツバメシジミ									●	●	
23		アカシジミ										●	●
24		ウラナミシジミ										●	●
25		ベニシジミ									●	●	●
26		ムラサキツバメ									●	●	●
27		ムラサキシジミ									●	●	●
28		ギマツシジミ									●	●	●
29	ウラギンシジミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
30	テングチョウ												
31	マダラチョウ												
32	タテハチョウ	アサギマダラ											
33		コムラサキ									●	●	
34		ツマグロヒヨウモン	●			●	●	●	●	●	●	●	
35		ヒメアカタテハ										●	●
36		アカホシゴマダラ										●	●
37		ゴマダラチョウ	●		●				●				
38		ルリタテハ	●	●	●	●	●	●	●	●			
39		コムスジ	●	●	●	●	●	●	●	●			
40		ヒオドシチョウ										●	●
41	キタテハ										●	●	
42	ジャノメチョウ	アカタテハ											
43		ヒカゲチョウ	●	●	●								
44		コジャノメ											
45		ヒメジャノメ	●		●	●	●	●	●	●		●	●
46	サトキマダラヒカゲ	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	
47	ヒメウラナミジャノメ	●									●	●	
合計 9科46種			17種	12種	11種	10種	9種	15種	10種	11種	19種	19種	

表VI-10 チョウ類地点別確認状況一覧(3/3)

(地点21：荒川河川敷舟渡二・三丁目～地点30：板谷公園)

No.	科名	種名	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
			荒川河川敷舟渡二・三丁目	都立浮間公園	板橋区立城北公園	平和公園	安養院	都立城北中央公園	茂呂山公園	氷川神社	大山公園	板谷公園
1	セセリチョウ	ダイミョウセセリ							●			
2		ギンイチモンジセセリ	●									
3		イチモンジセセリ	●	●			●	●		●	●	
4		ミヤマチャバネセセリ										
5		チャバネセセリ	●				●		●			
6		キマダラセセリ						●				
7	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ										
8		アオスジアゲハ	●	●	●	●	●	●		●	●	●
9		カラサアゲハ		●			●					
10		モンキアゲハ										
11		キアゲハ	●	●	●	●				●		
12		ナガサキアゲハ										
13		クロアゲハ		●		●	●	●	●	●	●	●
14		ナミアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
15	シロチョウ	ツマキチョウ	●	●				●	●	●	●	
16		モンキチョウ	●	●				●				
17		キチョウ	●	●				●	●			
18		スジガロシロチョウ		●								
19	シジミチョウ	モンシロチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
20		ミスイロオナガシジミ										
21		ルリシジミ	●	●					●			
22		ツバメシジミ	●									
23		アカシジミ										
24		ウラナミシジミ										
25		ベニシジミ	●	●								
26		ムラサキツバメ										
27		ムラサキシジミ										
28	ギマトシジミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
29	ウラギンシジミ		●	●			●					
30	テングチョウ											
31	マダラチョウ											
32	タテハチョウ	アサギマダラ										
33		コムラサキ	●									
34		ツマグロヒョウモン	●	●			●	●	●	●		
35		ヒメアカタテハ	●	●				●				
36		アカホシゴマダラ										
37		ゴマダラチョウ	●	●	●	●	●					
38		ルリタテハ										
39		コミスジ	●				●	●	●			
40	ヒオドシチョウ											
41	キタテハ	●	●									
42	ジャノメチョウ	アカタテハ										
43		ヒカゲチョウ	●									
44		コジャノメ		●			●	●	●			
45		ヒメジャノメ	●	●	●	●	●	●	●			
46		サトキマダラヒカゲ										
		ヒメウラナミジャノメ	●									
合計 9科46種			23種	19種	8種	12種	13種	17種	11種	8種	6種	4種

## ■重要種

表VI-11 に示したように本年度調査ではギンイチモンジセセリ、テングチョウ、ヒオドシチョウなど 7 種の重要種が確認された。なお、重要種はトンボ類と同様に表VI-5 の選定基準に基づいて選定した。また、表VI-11 の選定基準欄の①～④は表VI-5 の選定基準の文献①～④に対応する。

表VI-11 チョウ類重要種一覧

No.	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
1	セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ			NT	
2	シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ				B
3		アカシジミ				D
4	テングチョウ	テングチョウ				A
5	タテハチョウ	コムスジ				A
6		ヒオドシチョウ				A
7	ジャノメチョウ	サトキマダラヒカゲ				A
		合計 5科7種			1種	6種

## ■本年度確認された種の概況

以下に本年度確認された種の概況を示すとともに、種別の確認地点図も合わせて示す。

### ・ダイミョウセセリ

成増五丁目公園、昆虫公園など 9 地点で確認された。林縁や林内の空隙地に多くみられる。斜面樹林のみられる赤塚公園大門地区、西台公園などでは今後確認される可能性がある。

### ・ギンイチモンジセセリ

荒川河川敷周辺の 3 地点で確認された。ススキ、オギ、チガヤなどの生育する比較的広い草地に生息する。生息環境の減少に伴い本種も減少している。荒川河川敷では複数の個体が確認されたが、板橋区内の生息地は荒川河川敷のみであるため、生息状況については、今後の動向に注意が必要である。

本種は「－報道発表資料－哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」(環境省, 2007 年 8 月)において準絶滅危惧(NT)

の重要種とされている。

#### ・イチモンジセセリ

前野公園、氷川神社など 22 地点で確認された。山間地、耕作地周辺、人家の庭などさまざまな場所でみられ、アベリアの花などによく集まる。板橋区内では市街地周辺も含め、ほぼ全域で確認されており、安定した生息状況である。西南日本の個体が温暖季には世代交代を繰り返しながら北上する種であることから、区内でも夏季以降の確認記録が多い。

#### ・ミヤマチャバネセセリ

荒川河川敷新河岸一～三丁目においてのみ確認された。草原や山間の路傍、湿地の周辺などに生息するが、生息地は限定される。埼玉県内の分布としては局地的であるが、隣接する戸田市や和光市に記録がある(埼玉昆虫談話会, 1998)。戸田市や和光市の荒川河川敷にはまとまった草地があることから、生息地の中心はこの辺りと思われる。板橋区内に生息しているかどうかは不明であるが、継続的な確認が期待される。

#### ・チャバネセセリ

西徳第二公園、平和公園など 7 地点で確認された。公園や河川敷の開放的な草地などで多くみられる。イチモンジセセリ同様、温暖季に西南日本から移動してきた個体がみられる種である。そのためか本年度の調査では全て夏季以降の確認であった。板橋区は土着の北限に近く、確認された個体が区内に定着していたものなのかは不明である。本年度の調査で確認されていない地点においても、開放的な環境がみられる地点では、今後確認される可能性がある。

#### ・キマダラセセリ

赤塚公園大門地区、見次公園など 15 地点で確認された。樹木の周辺や疎林内の草地などに好んで生息するが、ススキなどの生育する草地などでもみられる。板橋地域を除くと、広く確認されており、比較的安定した生息状況と思われる。赤塚公園辻山地区や都立浮間公園などでは確認される可能性があると思われる。

#### ・ジャコウアゲハ

赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区、小豆沢公園など 4 地点で確認された。おもに林縁でみら

れるが、訪花中や移動途中の個体を確認することも多い。板橋区内では幼虫も確認されているが、移入された可能性もあるという(板橋区, 2001)。食草の有無を除くと決まった環境への執着性は弱いようで、かつ移動性があることから、確認される地点は年によって多少異なるものと思われる。

#### ・アオスジアゲハ

赤塚不動の滝、板谷公園など 23 地点で確認された。樹林周辺を敏捷に飛翔するが、ヤブガラシなどに訪花するほか、植栽されたクスノキなども食草とするため、市街地周辺でも多くみられる。区内ではほぼ全域で多数の個体が確認されており安定した生息状況にあるものと思われる。

#### ・カラスアゲハ

赤塚城址、浮間公園など 7 地点で確認された。樹林周辺に好んで生息する。個体数はそれほど多くないが、板橋地域を除くと、樹林がみられる地点のみではあるが広い範囲で確認された。本来、それほど多産する種ではないことを考えると、本年度は比較的多くの個体が確認されたと思われる。

#### ・モンキアゲハ

赤塚城址においてのみ確認された。樹林の多い地域に生息し、尾根筋に飛来することが多い。本年度の調査で確認された個体が、板橋区内で発生したものなのか、羽化後飛来したものなのかは判然としない。いずれにしても板橋区内やその周辺では個体数はごく少ないものと思われる。

#### ・キアゲハ

赤塚公園辻山地区、茂呂山公園など 14 地点で確認された。日当たりの良い草原でよくみられ、アザミ類、ユリ類などに吸蜜に訪れる。成増五丁目公園や赤塚植物園などの赤塚地域、荒川河川敷や都立浮間公園などの高島平地域で多くみられた。ナミアゲハに比べると少ないものの、板橋区内には多くの個体が生息しており、比較的安定した生息状況であると思われる。なお、アゲハ類に総じて言えることであるが、移動性が強いいため、確認場所は年ごとに多少異なるものと思われる。



#### ・ナガサキアゲハ

赤塚城址および赤塚公園辻山地区の 2 地点で確認された。林縁などを好んで飛翔するが、食草との関係から人家周辺にも多くみられる。近年、北へ分布を拡げている種であり、以前は本種が生息していなかった横浜市などでも、すでに多数の個体がみられる。本年度の調査で確認された個体が、板橋区内で発生したものなのか、羽化後飛来したものなのかは不明であるが、いずれにしても現状では板橋区周辺には少ないものと思われる。

#### ・クロアゲハ

平和公園、大山公園など 25 地点で確認された。本来は日当たりの良い開放的な場所よりも樹林周辺の薄暗い環境に好んで生息するが、植栽されたミカン類も食草とするため、市街地周辺でも普通にみられる。板橋区内のほぼ全域にみられるごく普通の種である。

#### ・ナミアゲハ

板谷公園を除いた 29 地点で確認された。山深い場所には生息せず、平地の人家周辺などで多くみられる。都市部の公園や住宅地にもみられ、栽培されたミカン類を食草としている。本年度確認されなかった板谷公園周辺にも生息しているものと思われ、板橋区内の全域にみられるきわめて普通の種である。

#### ・ツマキチョウ

赤塚溜池公園、荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)など 10 地点で確認された。春季にのみみられ、日当たりのよい草地や林縁、畑地の周辺などに生息する。本年度の調査では赤塚城址や赤塚公園大門地区などの赤塚地域や荒川河川敷などでは多くみられたが、常盤台地域や板橋地域では確認されなかった。

#### ・モンキチョウ

赤塚城址や荒川河川敷の 3 地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)など 7 地点で確認された。田畑の周辺、牧場、堤防などに好んで生息する。日当たりの良い比較的広い草地環境を好むことから、荒川河川敷や都立浮間公園などの高島平地域では多くの地点で確認された。高島平地域、特に荒川河川敷は個体数も多く安定した生息状況である。

#### ・キチヨウ

小豆沢公園や都立城北中央公園など 15 地点で確認された。林縁や草地など広範な環境で見られる。板橋区内では、比較的普通にみられる種であると思われるが、本年度調査では赤塚溜池公園、赤塚公園大門地区などの赤塚地域や荒川河川敷などの高島平地域では多くの地点で確認されたが、板橋地域では確認されなかった。

#### ・スジグロシロチョウ

赤塚公園徳丸ヶ原緑地地区、都立浮間公園など 5 地点で確認された。おもに樹林周辺に生息する。本年度の調査では、市街地やその周辺には少なく、まとまった樹林のみ見られる赤塚城址や赤塚公園大門地区などの赤塚地域を除くと都立浮間公園でのみ確認された。

#### ・モンシロチョウ

日暮台公園および志村城山公園を除く 28 地点で確認された。耕作地の周辺に好んで生息し、キャベツなどを食害する。板橋区内の全域で見られるごく普通の種であると思われるが、開放的な場所を好んで飛翔することから、大部分が林内である地点などでは確認がやや難しいと思われる。

#### ・ミズイロオナガシジミ

赤塚公園大門地区、西台公園など 5 地点で確認された。初夏にのみ出現するゼフィルス類とよばれるチョウ類でクヌギ、コナラなどの生育する雑木林に生息する。過年度調査では、1985 年度調査(赤塚城址でのみ確認)で確認されていたが、以降は確認されていなかった。本年度調査では 1985 年度調査時より確認地点および個体数が増加し、安定した発生がみられた。今後も安定した生息状況であることが望まれる。なお、同様の樹林がみられる赤塚公園辻山地区や日暮台公園などでは生息している可能性がある。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998)において B ランクの重要種とされている。

#### ・ルリシジミ

小豆沢公園、氷川神社など 12 地点で確認された。樹林周辺、耕作地周辺、草原、人家の庭など広範な環境に生息する。確認地点数は比較的多く、確認地点の分布も区内

のほぼ全域に広がっているが、1地点にあまり多産せず、赤塚溜池公園、赤塚公園大門地区などの赤塚地域を除くと確認地点のまとまった地域は無い。

#### ・ツバメシジミ

赤塚城址および荒川河川敷の3地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)で確認された。道端や耕作地周辺、土手など日当たりの良い場所に好んで生息する。比較的広い開放的な草地がみられる地点でのみ確認された。池のほとりにまとまった草地のみられる都立浮間公園では確認される可能性がある。

#### ・アカシジミ

赤塚城址および赤塚溜池公園の2地点で確認された。ミズイロオナガシジミ同様、初夏にのみ出現するゼフィルス類とよばれるチョウ類でクヌギ、コナラなどの生育する樹林に生息する。本種は過年度調査では確認されず、1985年度の文献記録(板橋区, 1986)があるのみであった。ミズイロオナガシジミと異なり、赤塚城址周辺の樹林からのみ確認されており、生息状況の今後の動向が注目される。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998)においてDランクの重要種とされている。

#### ・ウラナミシジミ

赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区および荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)の2地点で確認された。幼虫がマメ科植物の花や実を食べることから、マメ科植物の栽培されている畑の周辺で多くみられる。土着の北限がおおよそ関東地方の南部以西であることと、確認された時期が8月の下旬以降であったことから、本年度確認された個体は、西南日本から移動してきた個体であると思われる。

#### ・ベニシジミ

徳丸ヶ原公園、都立浮間公園など7地点で確認された。日当たりの良い草原、堤防、田畑の周辺、道端などに生息する。普通にみられる種であるが、開放的な草地環境を好むことから確認地点は比較的限定される。荒川河川敷では個体数も多く、広範囲に分布している。

#### ・ムラサキツバメ

赤塚公園辻山地区および徳丸ヶ原公園の 2 地点で確認された。本来は常緑樹林内に生息するが、食草であるマテバシイが植栽されていれば市街地にもみられる。近年、マテバシイの移入・植栽に伴って、生息範囲を北へ広げている。本年度調査で確認された時期はいずれも 10 月であったことから、確認された個体が、移動してきたあるいは一時的に繁殖した個体であるか、定着した個体であるかは不明である。

#### ・ムラサキシジミ

赤塚城址や赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区など 5 地点で確認された。常緑樹林や落葉性のブナ科樹木の多い樹林に生息する。本年度の調査では赤塚地域に限って確認された。樹林のみられる地点では今後確認される可能性はあるが、個体数はやや少ないものと思われる。

#### ・ヤマトシジミ

見次公園を除く 29 地点で確認された。おもに開放的な草地に生息するが、食草であるカタバミが生育していれば、公園や住宅地でも普通にみられる。板橋区内の全域に分布していると思われ、個体数も多く、最も普通にみられる種の一つである。

#### ・ウラギンシジミ

赤塚公園辻山地区や都立浮間公園など 5 地点で確認された。林縁で多くみられるほか、動物の死骸や汚物、腐果に集まる。本年度の調査では赤塚地域(赤塚城址、赤塚公園辻山地区)のほか、都立浮間公園、板橋区立城北公園、都立城北公園など人工的な公園でも確認された。

#### ・テングチョウ

赤塚城址においてのみ確認された。食草であるエノキのみられる雑木林などに生息する。板橋区内の詳細な生息状況は不明であるが、個体数はごく少なく、生息地も赤塚地域や志村地域など樹林のみられる地域に限られるものと思われる。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998) において A ランクの重要種とされている。

#### ・アサギマダラ

赤塚城址においてのみ確認された。定着の北限は関東地方とされているが、温暖季に北上し、秋季に南へ回帰する移動が知られており、温暖季には定着地域より北の地域でもみられる。本年度調査で確認された個体が、温暖季の移動途中であった個体か、板橋区周辺に定着していた個体であるかは不明である。

#### ・コムラサキ

赤塚城址、赤塚公園辻山地区および荒川河川敷の3地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)で確認された。河川に沿ったヤナギ類の多く生育する樹林、ヤナギ類の多く植栽された公園や社寺の境内などに生息する。成虫はクヌギ、コナラなどの樹液にも集まることから樹林周辺でもみられる。本年度調査でもクヌギ、コナラなどの生育するまとまった樹林のみられる赤塚地域やヤナギ類の生育する荒川河川敷で確認されており、板橋区内の生息範囲もおおよそ調査結果に一致するものと思われる。なお、荒川河川敷では比較的多数の個体が確認されており、安定した生息状況であると思われる。

#### ・ツマグロヒョウモン

西徳第二公園、氷川神社など23地点で確認された。田畑の周辺、人家の庭、荒地などでよくみられる。食草はスミレ類であるが、パンジーなどの園芸種も食べることから市街地周辺でも多くみられる。以前は西南日本にのみ分布していた種のため、過年度調査では確認されていないが、近年分布を北に拡げている。急速に分布を拡げているようで、春から成虫がみられるなど、既に板橋区内では定着しているようである。

#### ・ヒメアカタテハ

赤塚植物園、荒川河川敷新河岸一～三丁目など10地点で確認された。田畑の周辺、人家の庭、土手に生息する。開放的な環境を好むため、日当たりの良い草地などのみられる地点でおもに確認された。荒川河川敷では個体数も多く安定した生息状況である。

#### ・アカホシゴマダラ

赤塚城址、赤塚公園大門地区など4地点で確認された。本種は南西諸島に生息する在来種であるが、関東地方でみられる個体は大陸から人為的に移入された別亜種であ

る。近年 23 区内を含む、都内各所に分布を拡げている。成虫は食草のあるところに多くみられるため、板橋区内ではエノキのみられる雑木林の周辺などに多い。過年度調査では確認されておらず、本年度調査では赤塚地域においてのみ確認された。

#### ・ゴマダラチョウ

昆虫公園、平和公園など 16 地点で確認された。雑木林周辺や食草であるエノキの植栽された公園などでみられる。本年度調査では板橋地域を除く広い範囲で確認されたことから、板橋区内においては、現状は比較的安定した生息状況であると思われるが、今後移入種であるアカホシゴマダラとの競合が懸念される。

#### ・ルリタテハ

赤塚城址、前野公園など 6 地点で確認された。樹林周辺で多くみられ、クヌギ、ニレ類などの樹液にもよく集まる。林縁や林内に生育するサルトリイバラがおもな食草であるが、市街地周辺では植栽されたホトトギス類などでも幼虫がみられることがある。本年度の調査では赤塚地域および志村地域においてのみ確認された。

#### ・コムスジ

小豆沢公園、安養院など 18 地点で確認された。日当たりの良い樹林周辺に多く生息する。クヌギ、ニレ類などの樹液にもよく集まる。本年度の調査では比較的まとまった樹林のみられる地点ではほとんどの地点で確認されたが、氷川神社など板橋地域の地点では確認されなかった。現状では板橋区内にみられる樹林性のチョウ類の中では最も普通にみられる種であるといえる。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998) において A ランクの重要種とされている。

#### ・ヒオドシチョウ

赤塚城址においてのみ確認された。おもに樹林周辺に生息する。社寺の境内や人家の周辺、公園などの食草にも幼虫が群がっていることもあるが、都市部などではほとんどみられない。本種は過年度調査では確認されず、1985 年度の文献記録(板橋区, 1986) があるのみであった。板橋区内では個体数がごく少なく、稀な種であると思われることから生息状況については今後の動向が注目される。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998) において A

ランクの重要種とされている。

#### ・キタテハ

赤塚不動の滝、荒川河川敷の3地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)など8地点で確認された。樹林周辺でもみられるが、河川敷などの開放的な環境に多い。本年度調査では赤塚城址や赤塚公園大門地区などの赤塚地域や荒川河川敷や都立浮間公園などの高島平地域においてのみ確認された。

#### ・アカタテハ

赤塚公園大門地区および赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区の2地点で確認された。耕作地周辺などの比較的開放的な環境、樹林周辺などのやや閉鎖的な環境のどちらでもみられる。本年度調査では前述の赤塚地域の2地点においてのみ確認された。板橋区内の個体数はやや少ないものと思われる。

#### ・ヒカゲチョウ

成増四丁目緑地、西台公園などの13地点で確認された。おもに樹林周辺や林内の空隙地などに生息する。本年度調査では、樹林のみられる地点においてのみ確認された(荒川河川敷舟渡二・三丁目は河畔林)。また、荒川河川敷舟渡二・三丁目を除くと赤塚地域、志村地域のみで確認されている。

#### ・コジャノメ

赤塚公園辻山地区においてのみ確認された。樹林周辺や林内の空隙地に多くみられる。本種は過年度調査では確認されず、1985年度の文献記録(板橋区, 1986)があるのみであった。板橋区内の詳細な生息状況は不明であるが、個体数はごく少ないものと思われる。

#### ・ヒメジャノメ

赤塚溜池公園、日暮台公園など22地点で確認された。樹林周辺のほか、耕作地周辺や草原などにも生息し、コジャノメに比べると明るい環境にもみられる。本年度調査では板橋地域を除く、ほぼ全域で確認され、前野公園や平和公園など市街地の公園でも確認された。

#### ・サトキマダラヒカゲ

成増四丁目緑地や茂呂山公園など 19 地点で確認された。ネザサ類の多くみられる樹林周辺などに生息し、クヌギ、コナラなどの樹液にも集まる。本来、樹林周辺にみられる種であるが、本年度調査では荒川河川敷や板橋地域を除く、ほぼ全域で確認され、徳丸ヶ原公園や都立城北中央公園など市街地の公園でもみられた。

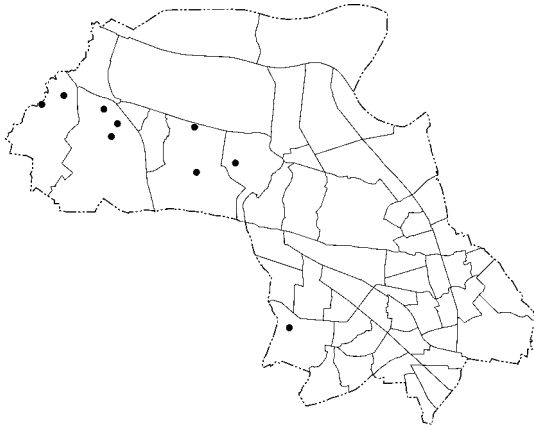
本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998) において A ランクの重要種とされている。

#### ・ヒメウラナミジャノメ

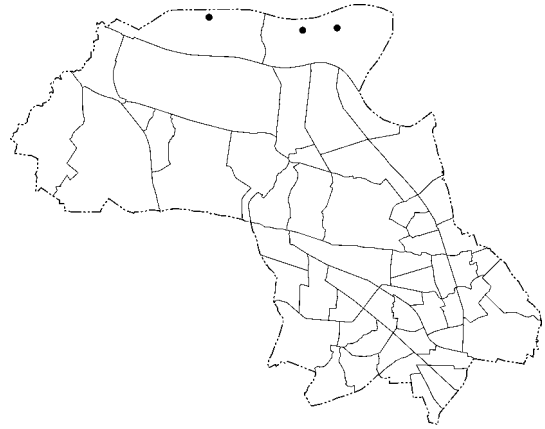
赤塚城址、荒川河川敷の 3 地点(新河岸一～三丁目、舟渡四丁目(ビオトープ)、舟渡二・三丁目)など 8 地点で確認された。おもに樹林内やその周辺に生息するが、草原などでもよくみられる。本年度調査では赤塚地域や荒川河川敷のほか、志村地域の昆虫公園や西徳第二公園でも確認されるなど、北部では比較的広い範囲でみられたが、未確認の地点も多く、やや局地的であった。また、常盤台地域および板橋地域では確認されなかった。



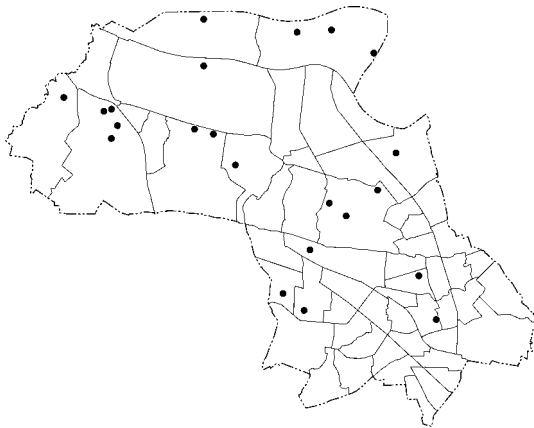
チョウ類セセリチョウ科



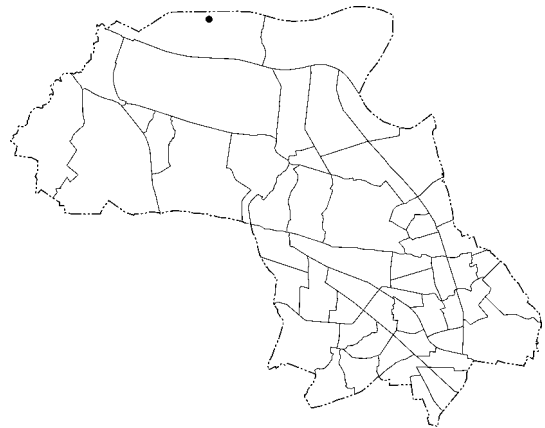
ダイミョウセセリ



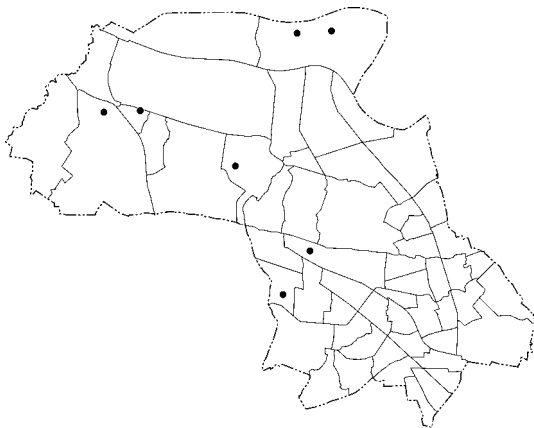
ギンイチモンジセセリ



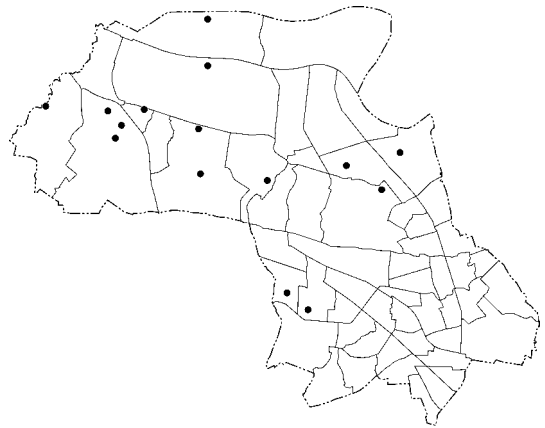
イチモンジセセリ



ミヤマチャバネセセリ

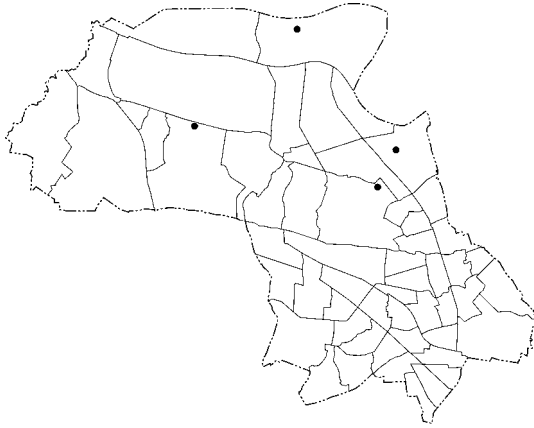


チャバネセセリ

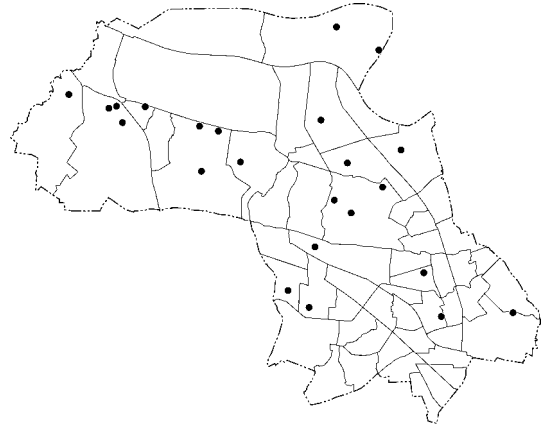


キマダラセセリ

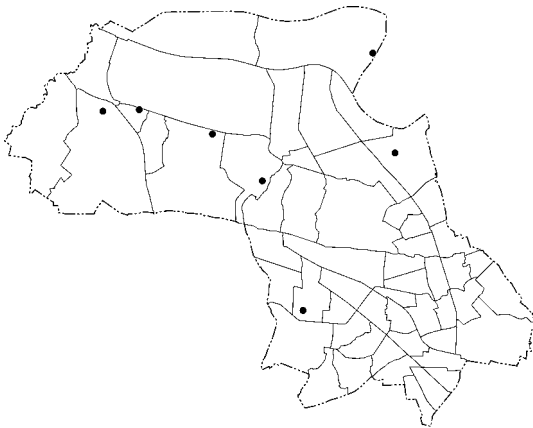
アゲハチョウ科



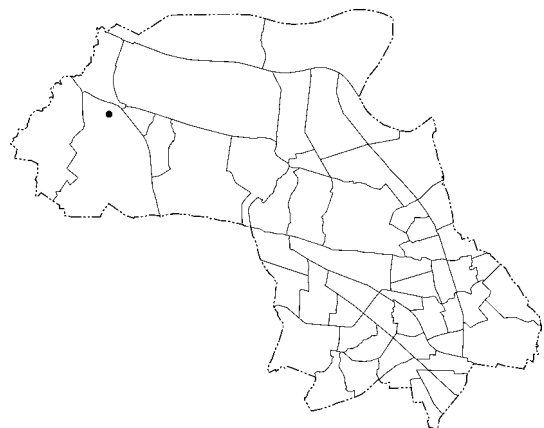
ジャコウアゲハ



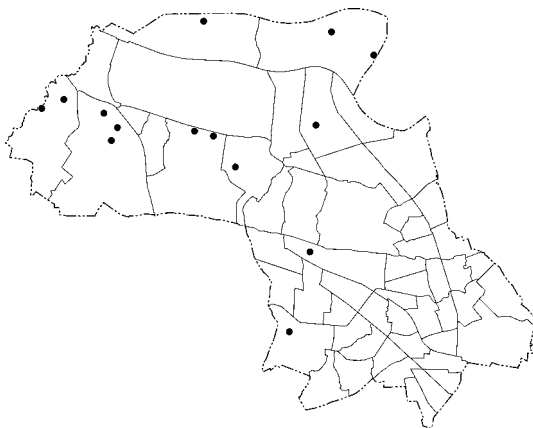
アオスジアゲハ



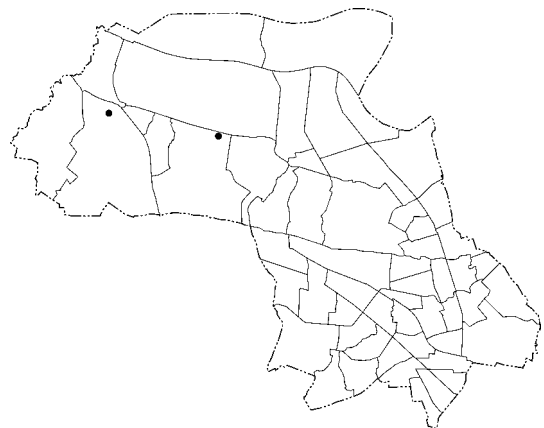
カラスアゲハ



モンキアゲハ

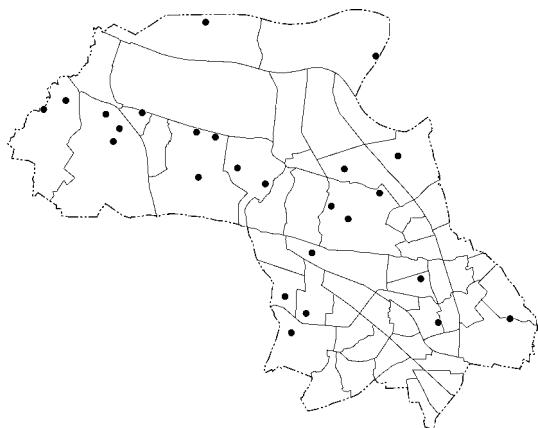


キアゲハ

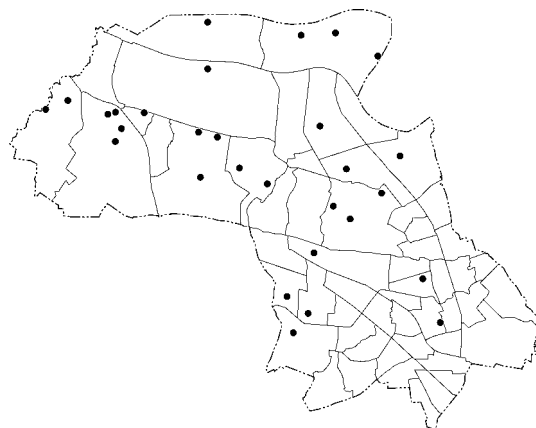


ナガサキアゲハ

アゲハチョウ科

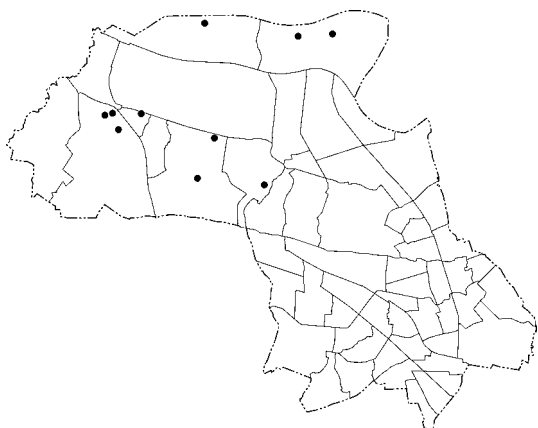


クロアゲハ

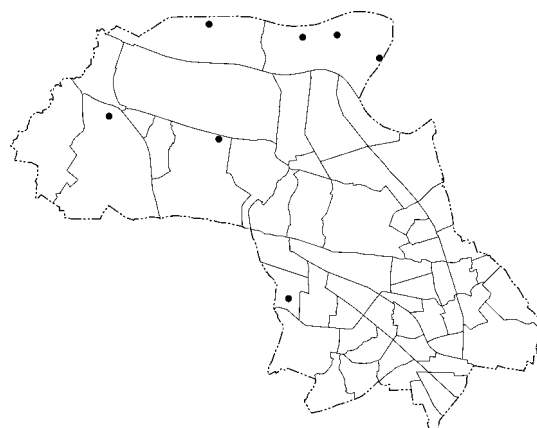


ナミアゲハ

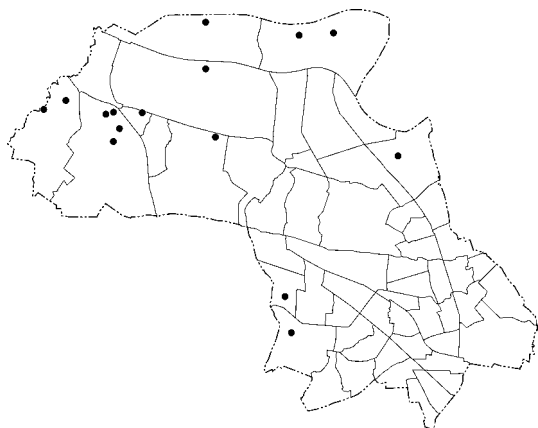
シロチョウ科



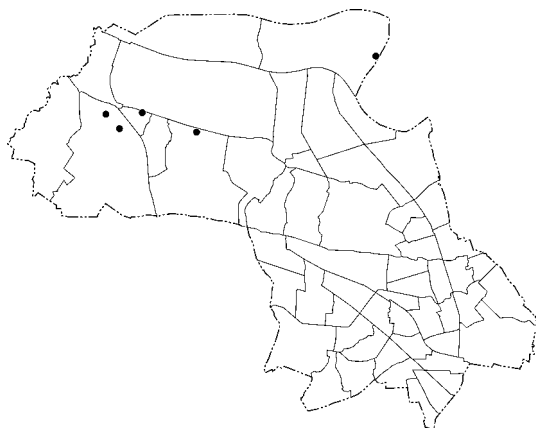
ツマキチョウ



モンキチョウ

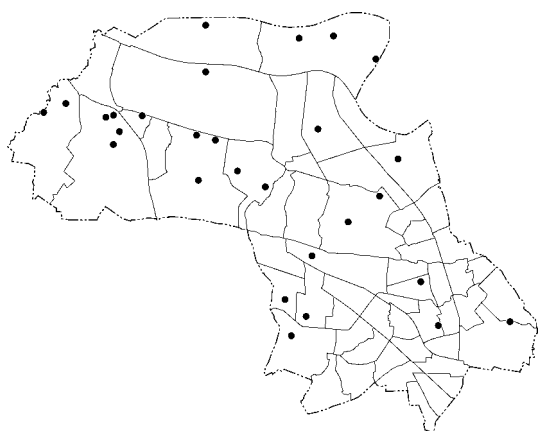


キチョウ



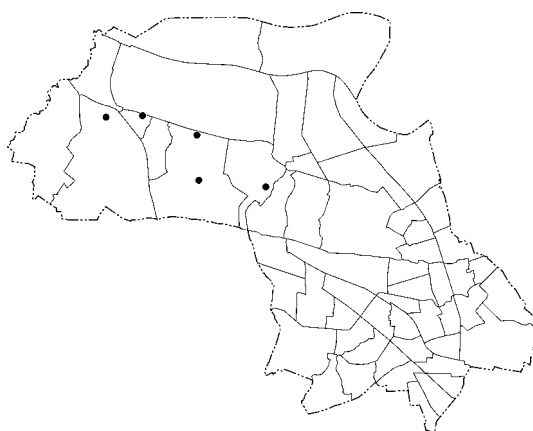
スジグロシロチョウ

シロチョウ科

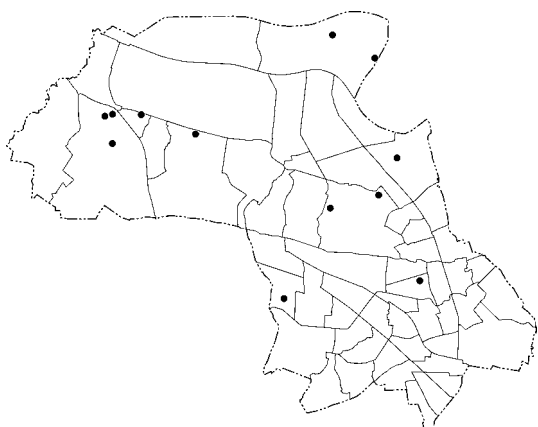


モンシロチョウ

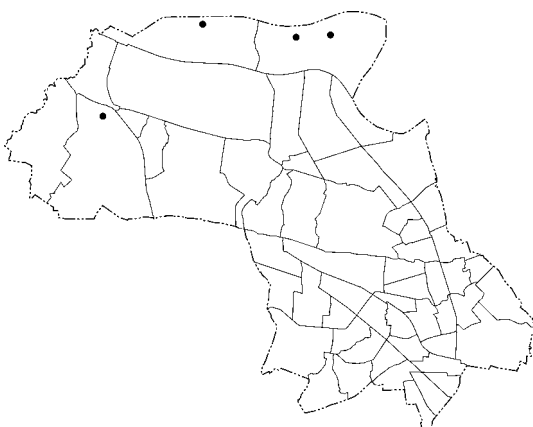
シジミチョウ科



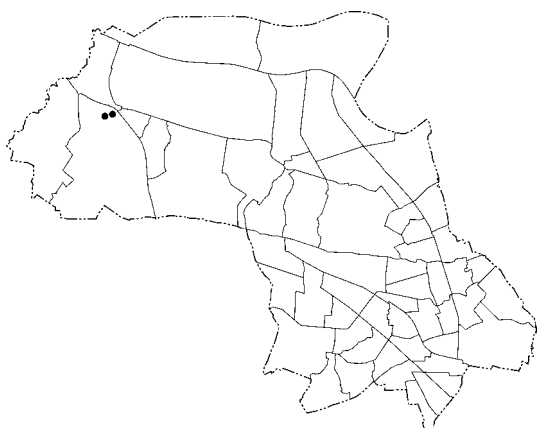
ミズイロオナガシジミ



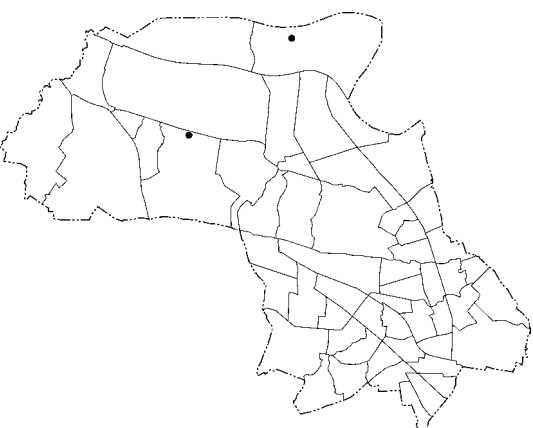
ルリシジミ



ツバメシジミ

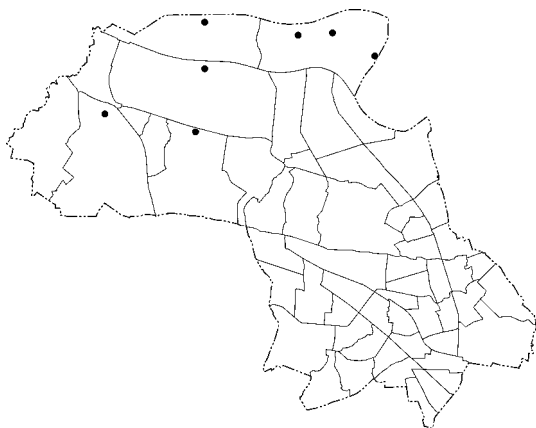


アカシジミ

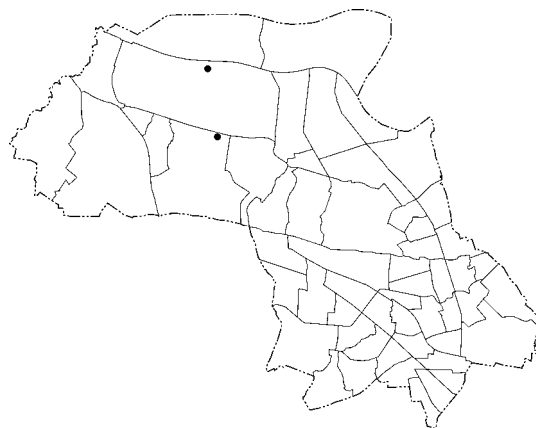


ウラナミシジミ

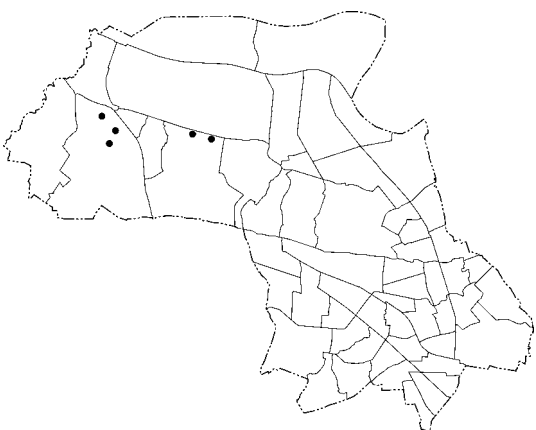
シジミチョウ科



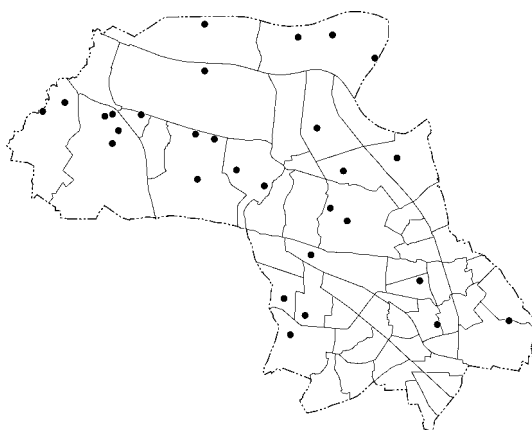
ベニシジミ



ムラサキツバメ

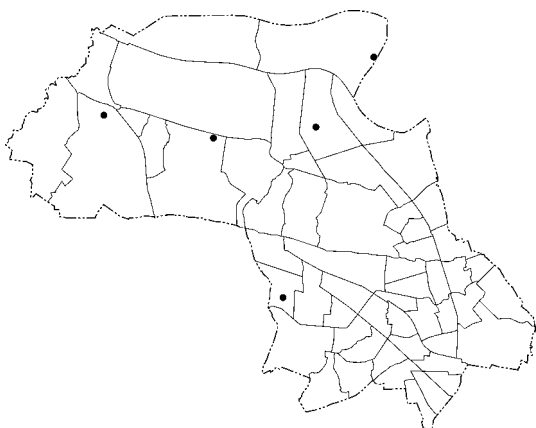


ムラサキシジミ



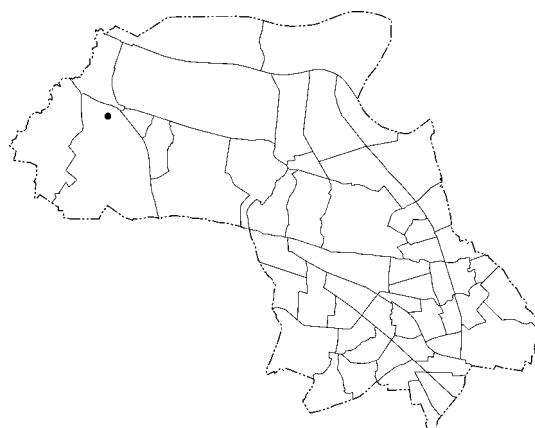
ヤマトシジミ

ウラギンシジミチョウ科



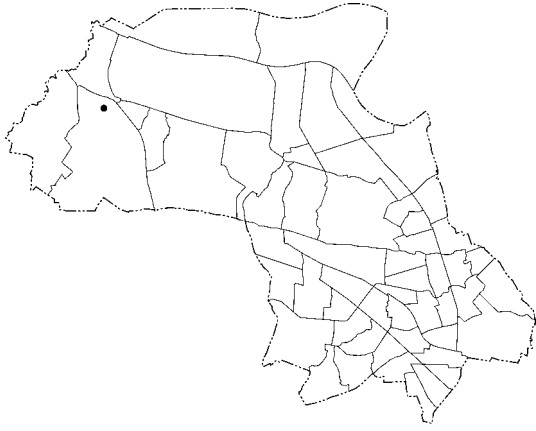
ウラギンシジミ

テングチョウ科



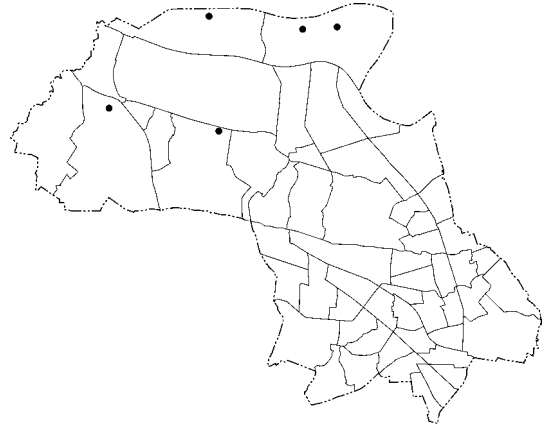
テングチョウ

マダラチョウ科

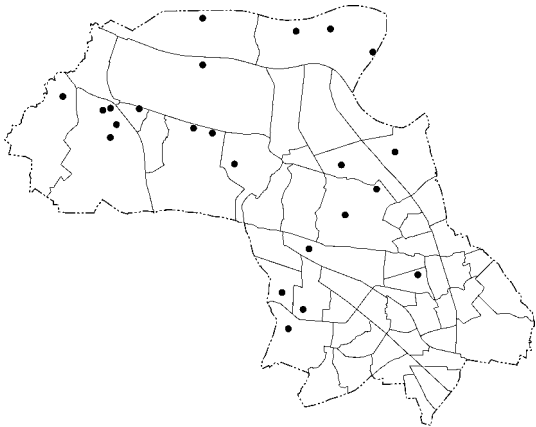


アサギマダラ

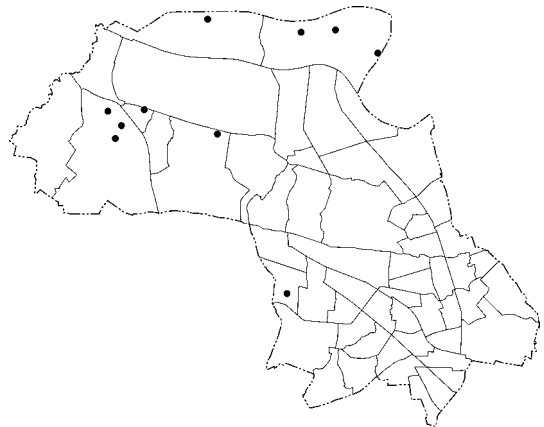
タテハチョウ科



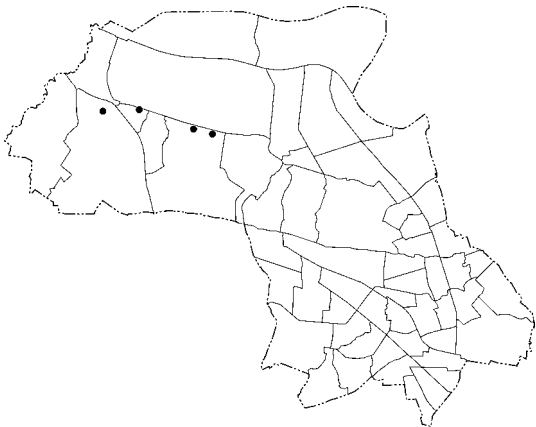
コムラサキ



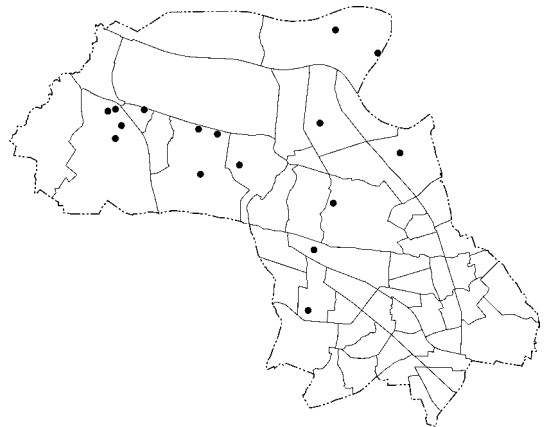
ツマグロヒョウモン



ヒメアカタテハ

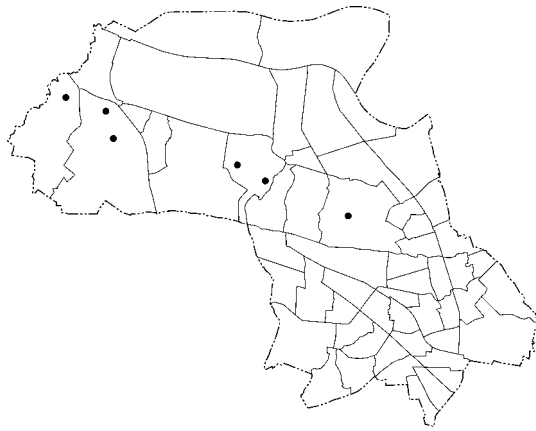


アカホシゴマダラ

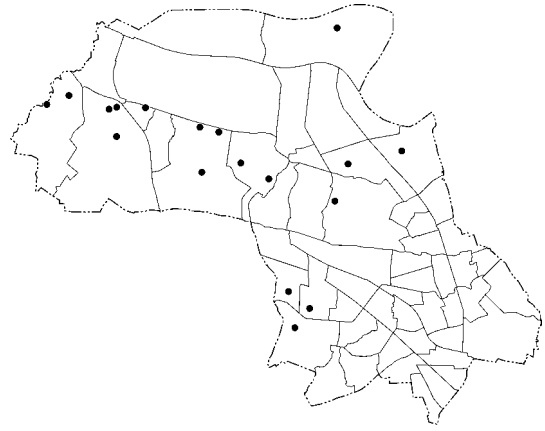


ゴマダラチョウ

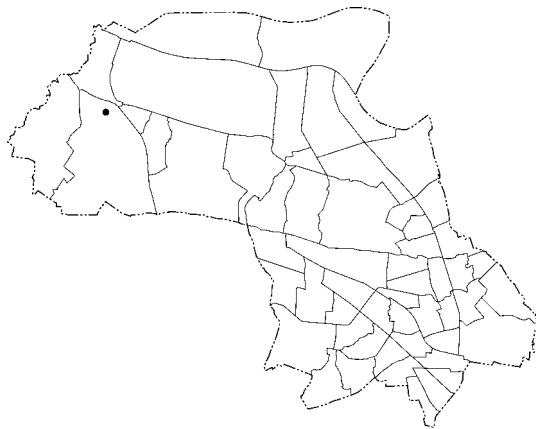
タテハチョウ科



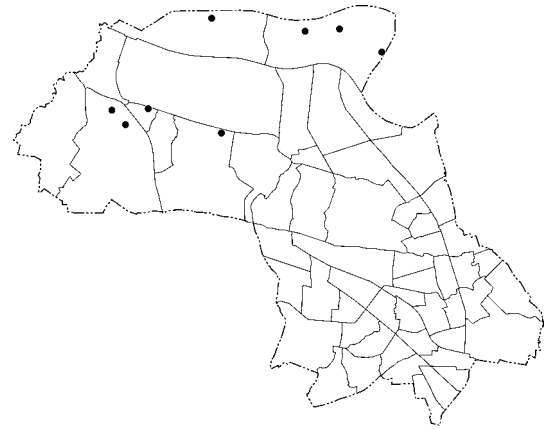
ルリタテハ



コムスジ

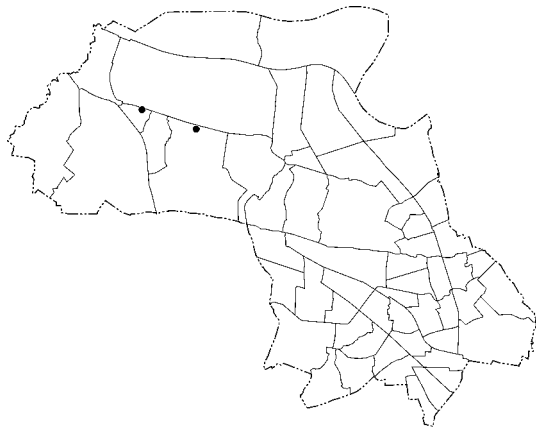


ヒオドシチョウ

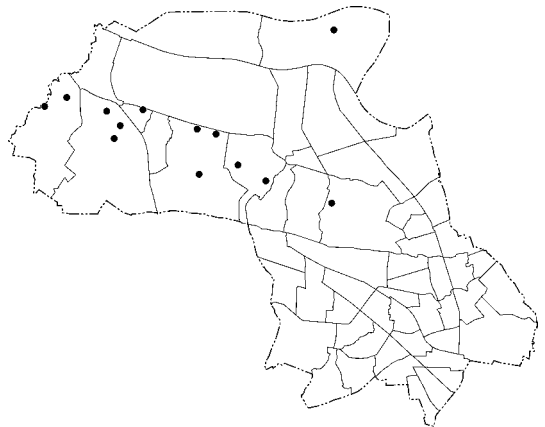


キタテハ

ジャノメチョウ科

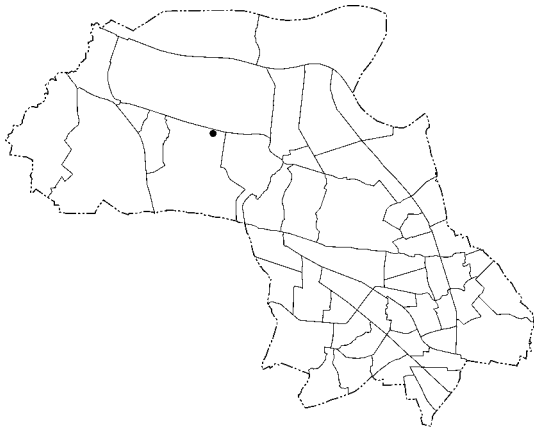


アカタテハ

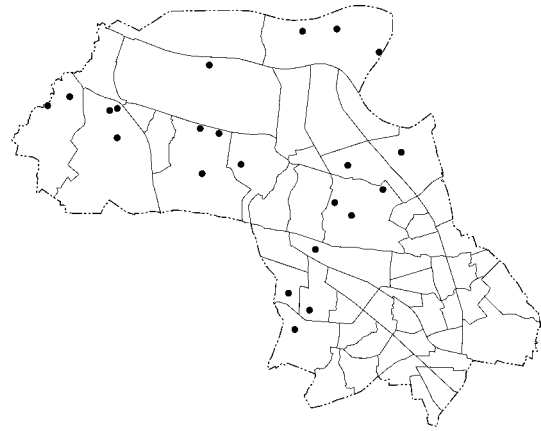


ヒカゲチョウ

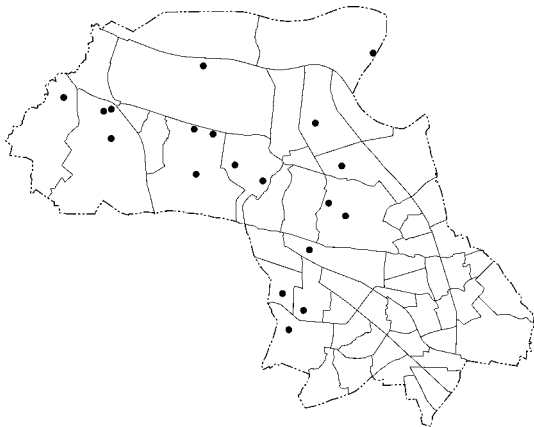
ジャノメチヨウ科



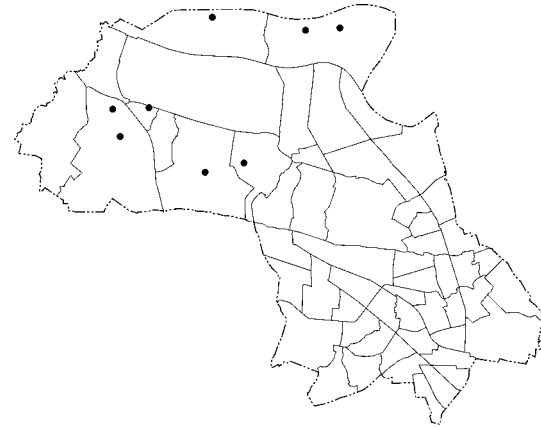
コジャノメ



ヒメジャノメ



サトマキマダラヒカゲ



ヒメウラナミジャノメ



#### VI-1-iv. 蛾類

板橋区の過去 2 回の昆虫調査（報告書は 1985 年度と 1990 年度）では蛾類も対象に含められ、貴重な記録となっている。しかしともに調査期間が短く、2 回の合計で 128 種（メイガ 33 種、シャクガ 20 種、ヤガ 50 種、その他 25 種）であり、地域の昆虫相や自然環境等を診断するには十分なものとはいえない。

今回は、板橋区の蛾類調査を日本蛾類学会の釣巻岳人氏に調査実施のご協力を頂き、主要昆虫類調査の中に加えさせていただいた。内容は、1998 年頃から 2008 年までの約 10 年間の結果を報告することとした。開始当初の 2 年間の採集は少数であるが、2000 年頃から本格的に地域の蛾類相を調べたものであり、年度や地域により粗密はあるが、今後の本格的な調査のための資料になると思われる。

#### ■板橋の蛾類相概観

東京都区部における近年の蛾類調査としては田中（1990、1996）のものがあり、板橋区のデータも掲載されている。その他のものは「文献 37」に解説されている。

国立科学博物館が 1996 年から 2005 年にかけて、都心部の皇居、赤坂御用地、常磐松御用邸、白金自然教育園で行った蛾類調査は陣容からも当然であるが、日本一の精度を持った調査であろう。今後の東京都区部や近郊の蛾類調査はこの結果と比較され、調査精度が判定され、調査地の自然環境を判断する基準になるであろう。

今回の板橋区の調査結果の精度をマドガからヤガの大蛾類で判定すると、総計で 496 種、皇居他の総計は 528 種であり、それなりの精度には達していると自負している。科別にみるとメイガ科+ツトガ科が皇居他 128 種に対し、板橋区は 109 種でこれは当方の調査の精度に問題がある。マダラメイガを中心に未同定で今回掲載を見送った種もいくつかあった。典型的なのがハマキガなどの小蛾類でこれは比較する段階にはないと思われる。

種数が多いヤガ科+トラガ科では皇居他が 212 種、板橋区では 214 種とほぼ匹敵する。これは板橋区の自然環境が都心部よりは豊かなことを示し、精度を一層あげればまだ板橋区の種数は増えるであろう。森林性の種が多いシャチホコガ科は皇居他が 7 種に対し、板橋区は 15 種で、当区には自然度が高い樹林地が残されていることを証明している。

シャクガ類をみると皇居他が 126 種、板橋区は 95 種である。同定が容易なエダシャク亜科のみで比較すると皇居他は 57 種、板橋区が 43 種である。シャクガ類の調査方法に問題があったと考えるのが妥当である。灯火採集をブラックライトのみで行い、水銀灯を使用しなかったことの影響等があると思われる。

## ■板橋区の自然環境

板橋区の基本計画による 5 つの地域区分、高島平地域、赤塚地域、志村地域、常盤台地域、板橋地域の区分は、現在では自然環境という点から見るとさして意味はないように見える。しかし都市化の進展という観点から、時代を追ってみるとそれなりの意味があり、その痕跡はいまだに残っていると言えるであろう。

高島平地域は 1960 年代までは広大な水田地帯であり、その自然相の痕跡は荒川河川敷に少しは残されている。赤塚地域は水田地帯とは荒川崖線の斜面により区切られる台地部の畑作地帯で、1970 年代前半までは農村的な環境が広がる地域であった。またこの斜面は雑木林となっており、埼玉県の和光市や新座市の平地雑木林とのつながりを当時は保っていた。志村地域も赤塚地域と似ているが、1950 年代には工業地域がかなりの割合を占めるようになっていった。常盤台地域は石神井川沿いに水田もあったが、畑地が多い地域であったが、1960 年代後半から急速に住宅地として市街地化されていった。板橋地域の開発は最も早く、1950 年代には住宅地域が大半を占めていたが、東京オリンピックの頃までは、空き地や畑も随所に残されていた。

本報告では板橋区に現在残っている自然環境の代表として、高島平地域の笹目橋から戸田橋までの荒川河川敷と、赤塚地域の現都立赤塚公園内の斜面林、特に雑木林の様相を最も多く残している城址地区と、板橋地域の都市化が比較的早く進み、現在自然地は全く残されていない栄町付近の 3 箇所の蛾類相を皇居などの結果と比較し解説する。なお、データについては 3 箇所以外の地点のものについても掲載した。

## ■赤塚公園の蛾

都立赤塚公園の西端に位置する城址地区はかつての雑木林の様相を区内で最も良く残している所である。コナラ、クヌギ、イヌシデを主体にガマズミ、ウグイスカグラ、コマユミなどの低木類も区内では最も残っている。

区内ではこのみで記録されている蛾を列挙すると、マユミトガリバ、ホソウスバフユシャク、ウスベニスジナミシャク、フタテナカジロナミシャク、クロスジフユエダシャク、アオシャチホコ、タカサゴツマキシヤチホコ、モトグロコブガ、ブナキリガ、アカバキリガ、プライヤオビキリガ、ヤマノモンキリガ、イチゴキリガ、ヒメハガタヨトウ、オニベニシタバ、コシロシタバ、サザナミアツバ、ミスジアツバ、フシキアツバなどが挙げられる。内ホソウスバフユシャク、ウスベニスジナミシャク、クロスジフユエダシャク、ブナキリガ、ミスジアツバ、フシキアツバなどは個体数が多く、他の種も全て複数個体が採集・目撃されている。これらの蛾は東京都区部では皇居他で、ブナキリガ、オニベニシタバが各 1 例、イチゴキリガが 2 例、世田谷区成

城でウスベニスジナミシャク、アカバキリガ、プライヤオビキリガ、イチゴキリガが記録されているぐらいである。

以上のなかでタカサゴツマキシヤチホコ、ヤマノモンキリガ、ヒメハガタヨトウ、モトグロコブガは東京都や神奈川県、埼玉県の平野部ではかなり少ない種であり、赤塚公園に確実に生息する貴重種として扱われるべきものであろう。

区内では赤塚公園以外でも成増や西台など1、2箇所にも分布する種としてクロバネフユシャク、オオアオシャチホコ、フサヒゲオビキリガがあり、いずれも赤塚公園では個体数は割合多く、世田谷区成城でもクロバネフユシャク、フサヒゲオビキリガは記録されている。

以上の種の多くは埼玉県の新座市平林寺付近の雑木林や狭山丘陵などに生息し、雑木林の蛾とって間違いないであろう。赤塚斜面林は比較的近年まで、武蔵野台地の雑木林と繋がっており、その様相をまだ色濃く残していると言える。武蔵野台地の雑木林と赤塚斜面林の繋がりがまた復活する見込みはほとんどなく、これらの蛾の50年後、100年後の運命はどうなっているのでしょうか。

#### ■荒川河川敷の蛾

徳丸ヶ原（現高島平）が水田地帯だった1960年代には、荒川河川敷と高島平は昆虫にとって似たような環境であり、共通な蛾類相だったであろう。現在市街地となってしまった高島平に囲まれた、荒川河川敷は区内で独自の自然環境となり、蛾類相も独特のものとなっている。

ハイロボクトウ、クロハネシロヒゲナガ、ヨシツトガ、トモンノメイガ、ヒメアカマダラメイガ、アカアシアオシャク、タケカレハ、ツマアカシャチホコ、スゲドクガ、ノヒラキヨトウ、ホソバセダカモクメ、クサビヨトウ、ショウブオオヨトウ、ヨモギコヤガ、キマダラコヤガ、ユミモンクチバ、キンスジアツバ、ウラジロアツバ、チョウセンコウスグロアツバが独自のものとして挙げられる。内ヨモギコヤガ、チョウセンコウスグロアツバの2種は赤塚公園と荒川河川敷で各1例ずつ、ウラジロアツバは赤塚公園で1例得られている。

湿地性の蛾としてはハイロボクトウ、ノヒラキヨトウぐらいで、残りは草原性の蛾と言えるであろう。河川敷の整備とともに湿地はなくなり、湿原の蛾もいなくなったようだ。板橋区の水生昆虫の貧弱さと軌を一にしているようだ。しかし草原環境としては貴重な所で、ヒメアカマダラメイガとショウブオオヨトウは湿地性のハイロボクトウとともに東京都の記録は見あたらず、ツマアカシャチホコ、スゲドクガ、ホソバセダカモクメ、クサビヨトウ、ユミモンクチバ、ウラジロアツバ、チョウセンコ

ウスグロアツバなどは東京都の記録がかなり少ない種である。

### ■柴町付近の蛾

ここで通常見られる蝶は、アゲハチョウ、クロアゲハ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリで偶にヒメジャノメ、サトキマダラヒカゲ、キチョウが少し遠方から飛来する程度で自然のかけらも無いような市街地である。

そんな所で蛾は 140 種記録されている。ヤマトカギバ、クロクモエダシャク、キバラモクメキリガ、ノコメトガリキリガ、アカモクメヨトウ、モクメクチバなどは赤塚地域などには普通に生息する蛾だが、柴町では 1 例のみの記録だ。ケブカノメイガ、ウスムラサキシマメイガ、リンゴカレハ、キバラケンモン、シロスジシマコヤガ、ヒメクマルコヤガ、ガマキンウワバ、イラクサギンウワバ、ソトムラサキクチバ、ウスチャモンアツバなど板橋区内で少数例しかない種や東京都初記録種、関東地方初記録種がここで採集されていることが注目される。蝶と同様に蛾も飛翔力が強く、環境を整えば直ぐに分布を拡大する能力が高い生物群だと言えそうである。印象的な判断に過ぎないが、蝶蛾類は甲虫類よりはるかに早く温暖化などに応じて分布地を拡大しているように見える。

現在板橋区で普通に見られる蛾、ナカジロシタバ、ヤマモモヒメハマキ、ツゲノメイガ、ウスミドリナミシャク、リュウキュウキノカワガ、フタトガリコヤガの内 1960 年代に見た記憶があるのはナカジロシタバだけで、当時はかなり珍しい種類であった。皇居などに確実に定着しているが、板橋区ではまだ記録がないウスアカモンナミシャク、スカシエダシャク、オオマエキトビエダシャク、ナワキリガ、カバフヒメクチバ、ナンキシマアツバ、ヒトスジクロアツバなどの照葉樹林性の蛾もやがてここに来るであろう。新参者が来るのは拒まないが、古くからの「住人」である落葉広葉樹林性の蛾の先行きが心配である。

### ■板橋区で記録された注目すべき偶産蛾について

東京付近の記録例が少なく、板橋区でも現時点では偶産と判断される蛾で、最近記録された種について以下に簡単に解説する。南方系・西日本系の種が多数を占めるが、北方系、温帯系の種もかなり含まれている。過去の調査結果と比較し、南方系・西日本系の種が増えつつあり、温暖化の影響を疑う余地はないであろうが、昆虫の分布変遷に関わる要因の複雑さを垣間見させる例と言えるであろう。

#### ・北方系、温帯系の偶産蛾

ウスベニニセノメイガとヘリキスジノメイガ：両種共北方系の蛾で、前種の関東地方の文献記録は栃木県（文献 24）のみ、ヘリキスジノメイガは従来、北海道のみで記録

されていたが、最近本州各地でかなり記録されている。

**クスサン**：1960年代前半、板橋区内全域に普通であった。本例は明らかに偶産。

**ウスイロカバスジャガ**：山地性の種とされるが、平野部の記録も多い。記録地の環境から、当区産は偶産と判断すべきであろう。また**フサクビヨトウ**の例も偶産であろう。

**ヨコスジヨトウ**：北方系の蛾、北海道と秋田県、青森県で記録。関東地方の記録は板橋区のみで、再検討が必要な記録であろう。

**ゴマシオキシタバ**：カトカラ類は飛翔力が強く偶産例が多い。本種はブナ帯の蛾で当区の記録は偶産。**マメキシタバ**も1例のみだが、新座市などには多産し、偶産か否かは不明。

**ナガキバアツバ**：中部地方以北の山地に分布し、少ない種とされるが、栃木県の渡良瀬遊水池でも1例記録されている。板橋区での再発見に期待したい。

#### ・南方系、西日本系の偶産蛾

**シロスジエグリノメイガ**：白金自然教育園（文献39）に次ぐ東京都2例目の記録。

**シロオビノメイガ**と**コブノメイガ**：**ウスバキトンボ**のように海を渡り、日本に侵入する蛾として知られる。板橋区では7月から出現、8月以降秋まで多数見られる。温暖化により出現期がより早くなるか否かが注目される。

**ウスムラサキシマメイガ**：関東地方の記録は無かったが、2001年に皇居と板橋区で記録。

**トガリベニスジヒメシャク**：南方系の種で本州の記録は板橋区の1例のみ。

**キバラケンモン**：1例のみの偶産種。西日本が分布の中心。同定は（文献36）によった。

**ウスチャモンアツバ**：西日本系の蛾、関東地方では千葉県（文献1、47）の記録がある。

**オスグロホソバアツバ**：西日本系の蛾、関東地方では栃木県（文献45）に次ぎ2例目。

**マルバナウスグロアツバ**：関東地方では千葉県で記録。当区での再発見を待ちたい。

#### ・その他の南方系の偶産蛾

近年東日本への進出が話題になっている蛾のうち、板橋区内では**ケブカノメイガ**、**ウスバフタホシコケガ**、**イチジクヒトリモドキ**、**クシナシスジキリヨトウ**、**ナカグロクチバ**などが記録されている。いずれもまだ板橋区には定着していないようだが、今後の動向が注目される。

## VI-1-v. コウチュウ類

### ■調査結果の概要

本年度の調査は過年度の調査と異なり、主要昆虫類調査の調査地点として設定した区内のほぼ全域に広がる30地点全ての地点において調査を実施した。その結果本年度はアオオサムシ、ドウガネブイブイ、キボシカミキリなど5科14種が確認された。

なお、参考ではあるが1985年度の調査ではクロカナブン、キマダラヤマカミキリ、アカアシオオアカミキリといった現在は重要種であり、樹林の指標ともいえる種も確認されていたが、以降の調査ではいずれの種も確認されていない。

コウチュウ類については大型種を選択的に調査していることから、リストも今年度の確認種を基準としており、過年度調査の確認種数はあくまで参考である。

本年度新たに確認された種としては、ヒラタクワガタ、ドウガネブイブイ、クワカミキリの3種が挙げられる。

ヒラタクワガタは赤塚城址においてのみ確認された。板橋区内の詳細な生息状況は不明であるが、板橋区内では個体数はごく少ないものと思われる。

ドウガネブイブイは赤塚城址においてのみ確認された。本種は郊外の地域では害虫として作物を加害するなど、関東地方ではごく普通にみられる種であるが、板橋区内での詳細な生息状況は不明である。

クワカミキリは赤塚城址および荒川河川敷新河岸一～三丁目で確認された。クワやイチジクなどの寄主の生育している場所にみられることから、板橋区内では生息地は限定されると思われる。

以下に、今年度初めて確認されたヒラタクワガタ、ドウガネブイブイ、クワカミキリの3種(○印)について解説する。

#### ○ヒラタクワガタ

本州・四国・九州に分布する。

樹林周辺に生息する。

板橋区内では本年度(2008年7月5日)に赤塚城址において成虫1個体が確認された。

#### ○ドウガネブイブイ

北海道・本州・四国・九州に分布する。

成虫はヤブガラシ、ブドウなど各種植物の葉を加害し、幼虫は根を食べる。

板橋区内では本年度(2008年8月21日)に、赤塚城址において成虫1個体が確認された。

### ○クワカミキリ

本州・四国・九州に分布する。

栽培されたクワやイチジクに多くみられ、その大害虫でもある。河川敷などに自生あるいは逸出したクワ(ヤマグワ)などにも多くみられる。

板橋区内では本年度(7月)に赤塚城址および荒川河川敷新河岸一～三丁目で成虫数個体が確認された。

表VI-12 主要昆虫類調査経年確認状況一覧(コウチュウ類)

No.	科名	種名	学名	1985 (I)	1990 (II)	2000 (III)	2008 (IV)
1	オサムシ	アオオサムシ	<i>Carabus insulicola insulicola</i> Chaudoir	●	●		●
2	クワガタムシ	コクワガタ	<i>Macrodorcas rectus rectus</i> (Motschulsky)	●	●		●
3		ノコギリクワガタ	<i>Prosopocoilus inclinatus inclinatus</i> (Motschulsky)	●			●
4		ヒラタクワガタ	<i>Serrognathus platymelus pilifer</i> (Snellen van Vollenhoven)				●
5	コガネムシ	コブキコガネ	<i>Melolontha japonica</i> Burmeister	●	●		●
6		ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> (Hope)				●
7		シロテンハナムグリ	<i>Protaetia orientalis submarumorea</i> (Burmeister)	●	●		●
8		カナブン	<i>Pseudotorynorrhina japonica</i> (Hope)	●	●		●
9		カブトムシ	<i>Trypoxylus dichotomus</i> (Linnaeus)		●		●
10	タマムシ	ヤマトタマムシ	<i>Chrysochroa fulgidissima fulgidissima</i> (Schonherr)	●			●
11	カミキリムシ	ノコギリカミキリ	<i>Prionus insularis insularis</i> Motschulsky	●	●		●
12		ゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora malasiaca</i> (Thomson)	●	●		●
13		キボシカミキリ	<i>Psacotha hilaris hilaris</i> (Pascoe)	●	●		●
14		クワカミキリ	<i>Apriona japonica</i> Thomson				●
合計 5科14種				12種	9種		14種

注1) 和名および学名、種の配列は、基本的に九州大学農学部昆虫学研究室・日本野生生物研究センター編(1989,1990)に従った。

注2) コウチュウ類については大型種を選択的に調査していることから、本年度確認された種についてのみ比較を行った。

注3) 2000年度はコウチュウ類調査を行っていない。

注4) 1985年度および1990年度のデータは昆虫相調査のものであり、確認地点も板橋区全域を対象としたものである。

表VI-13 コウチュウ類地点別確認状況一覧(1/3)

(地点1：成増四丁目緑地～地点10：昆虫公園)

No.	科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
			成増四丁目緑地	成増五丁目公園	赤塚城址	赤塚溜池公園	赤塚不動の滝	赤塚植物園	赤塚公園大門	赤塚公園徳丸ヶ丘緑地	赤塚公園辻山	昆虫公園
1	オサムシ	アオオサムシ			●							
2	クワガタムシ	コクワガタ			●							
3		ノコギリクワガタ			●							
4		ヒラタクワガタ			●							
5		コフキコガネ										
6	コガネムシ	ドウガネブイブイ			●							
7		シロテンハナムグリ			●	●		●		●	●	
8		カナブン			●			●		●	●	
9		カブトムシ			●							
10	タマムシ	ヤマトタマムシ		●	●			●	●			
11	カミキリムシ	ノコギリカミキリ	●		●							
12		ゴマダラカミキリ										
13		キボシカミキリ										
14		クワカミキリ			●							
合計 5科14種			1種	1種	11種	1種	0種	2種	1種	2種	2種	1種

表VI-13 コウチュウ類地点別確認状況一覧(2/3)

(地点11：西徳第二公園～地点20：荒川河川敷舟渡四丁目ビオトープ)

No.	科名	種名	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
			西徳第二公園	西台公園	日暮台公園	前野公園	志村城山公園	小豆沢公園	見次公園	徳丸ヶ原公園	荒川河川敷新河岸一～三丁目	荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)
1	オサムシ	アオオサムシ		●								
2	クワガタムシ	コクワガタ										
3		ノコギリクワガタ										
4		ヒラタクワガタ										
5		コフキコガネ				●						
6	コガネムシ	ドウガネブイブイ										
7		シロテンハナムグリ		●								
8		カナブン		●								
9		カブトムシ									●	
10	タマムシ	ヤマトタマムシ										
11	カミキリムシ	ノコギリカミキリ										
12		ゴマダラカミキリ						●				
13		キボシカミキリ									●	
14		クワカミキリ									●	
合計 5科14種			0種	3種	0種	1種	0種	1種	0種	0種	3種	0種

表VI-13 コウチュウ類地点別確認状況一覧(3/3)

(地点21：荒川河川敷舟渡二・三丁目～地点30：板谷公園)

No.	科名	種名	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
			荒川河川敷舟渡二・三丁目	都立浮間公園	板橋区立城北公園	平和公園	安養院	都立城北中央公園	茂呂山公園	氷川神社	大山公園	板谷公園
1	オサムシ	アオオサムシ										
2	クワガタムシ	コクワガタ										
3		ノコギリクワガタ										
4		ヒラタクワガタ										
5		コフキコガネ										
6	コガネムシ	ドウガネブイブイ										
7		シロテンハナムグリ			●	●						
8		カナブン										
9		カブトムシ										
10	タマムシ	ヤマトタマムシ										
11	カミキリムシ	ノコギリカミキリ										
12		ゴマダラカミキリ	●									
13		キボシカミキリ										
14		クワカミキリ										
合計 5科14種			1種	0種	1種	1種	0種	0種	0種	0種	0種	0種



## ■重要種

表VI-14に示したように本年度調査ではヤマトタマムシのみ、1種の重要種が確認された。なお、重要種は表VI-5の選定基準に基づいて選定した。また、表VI-14の選定基準欄の①～④は表VI-5の選定基準の文献①～④に対応する。

表VI-14 コウチュウ類重要種一覧

No.	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
1	タマムシ	ヤマトタマムシ				B
合計		1科1種				1種

## ■本年度確認された種ごとの概況

以下に本年度確認された種の概況を示すとともに、種別の確認地点図も合わせて示す。

### ・アオオサムシ

赤塚城址および西台公園の2地点で確認された。おもに樹林内に生息するが、林縁部や樹林に隣接した草地などでもみられる。本年度の調査では2地点のみの確認であったが、赤塚地域には現在も広く分布している可能性がある。

### ・コクワガタ

赤塚城址においてのみ確認された。おもに雑木林などの樹林内に生息するが、河川敷や耕作地周辺の孤立した樹木や倒木内にみられることもある。比較的まとまった樹林を必要とすると思われることから、板橋区内の生息地は限定され、個体数は少ないものと思われる。

### ・ノコギリクワガタ

赤塚城址においてのみ確認された。おもに雑木林などの樹林内に生息する。河畔の小規模なヤナギ林などにみられることもある。比較的まとまった樹林を必要とすると思われることから、板橋区内の生息地は限定され、個体数はごく少ないものと思われる。

### ・ヒラタクワガタ

赤塚城址においてのみ確認された。おもに樹林内に生息する。元来、伊豆半島以西の西南日本に多い種であるが、隣接する練馬区などでは産地も知られている。比較的まとまった樹林を必要とすると思われることから、板橋区内の生息地は限定され、個体数はごく少ないものと思われる。

#### ・コフキコガネ

前野公園においてのみ確認された。おもに平地の雑木林などの樹林内に生息するが、河畔のハリエンジュ林や海岸に近い松林などでも、他の植生が比較的豊富な環境では多くみられる。関東地方では普通種であり、板橋区内でも過年度調査では赤塚城址、荒川河川敷、安養院(以上、板橋区, 1986)、西光院(板橋区, 1991)などにも記録があることから、樹林のみられる区北西部を中心に広く分布しているものと思われる。

#### ・ドウガネブイブイ

赤塚城址においてのみ確認された。成虫はブドウ類(ノブドウ)をはじめとして、各種の植物を加害する。幼虫は作物などの根を食い荒らすことから農業害虫として著名である。関東地方ではごく普通にみられる種であるが、板橋区内での詳細な生息状況は不明である。

#### ・シロテンハナムグリ

赤塚公園辻山地区、平和公園など8地点で確認された。スダジイ、クリなどの花に群がるため、こられの樹木が生育していれば、市街地の公園などでもみられる。また、樹液も好むため、河畔のヤナギなどにも集まる。関東地方ではごく普通種であり、過年度調査でも西徳第二公園、荒川河川敷舟渡、安養院、茂呂山公園(以上、板橋区, 1991)などに記録があることから、区内には比較的広い範囲に生息しているものと思われる。

#### ・カナブン

赤塚植物園、西台公園など5地点で確認された。おもに樹林内に生息し、クヌギ、コナラなどの樹液に集まっている姿が観察されることが多い。関東地方では普通種であり、過年度調査でも赤塚公園徳丸ヶ原緑地地区、西徳第二公園、安養院(以上、板橋区, 1991)などに記録があることから樹林のみられる区北西部を中心に広く分布しているものと思われる。

#### ・カブトムシ

赤塚城址および荒川河川敷新河岸一～三丁目の2地点で確認された。おもにクヌギ、コナラなどの生育する雑木林に生息するが、河畔のヤナギ林などでもみられる。幼虫が成長するための腐植質が豊富にみられることと、成虫が吸汁するための樹液が出る樹木が生育する成熟した樹林が必要で、典型的な里山の昆虫とも言える。板橋区内では、個体数は少なく、生息地は限定されるものと思われる。なお、荒川河川敷の個体はヤナギの樹液に吸汁に来ていたものである。

#### ・ヤマトタマムシ

赤塚城址、赤塚公園大門地区など4地点で確認された。樹林内に生息し、幼虫はエノキ、サクラなどの衰弱木の中に食い入り、成虫はエノキの葉を後食する。生息には高木に成長したエノキを含む、成熟した雑木林を必要とすることから、板橋区内の生息地は限定されるものと思われる。本年度調査では赤塚地域においてのみ確認されて

いる。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都環境保全局, 1998）において B ランクの重要種とされている。

#### ・ノコギリカミキリ

成増四丁目緑地および赤塚城址の 2 地点で確認された。樹林内にみられ、夜行性、各種の針葉樹、広葉樹を寄主とする。まとまった樹林にのみ生息するようで過年度の調査においても赤塚地域からのみ確認されている。板橋区内では個体数は少なく、生息地は限定されるものと思われる。

#### ・ゴマダラカミキリ

小豆沢公園および荒川河川敷舟渡二・三丁目の 2 地点で確認された。多くの種の樹木の生木を寄主とし、柑橘類やナシ、イチジクなどの害虫としても知られる。板橋区内の詳細な生息状況は不明であるが、市街地周辺にも普通にみられる種であることから板橋区内には広く生息しているものと思われる。

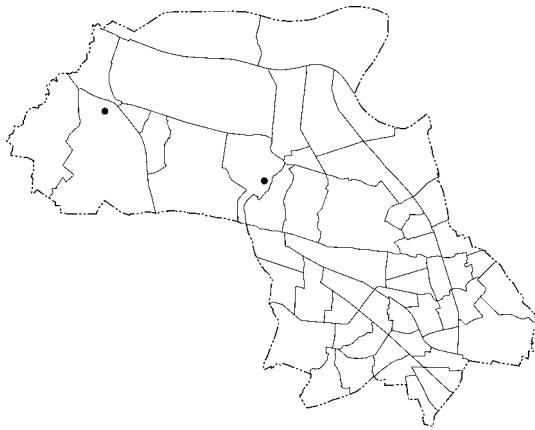
#### ・キボシカミキリ

荒川河川敷新河岸一～三丁目においてのみ確認された。クワやイチジクの害虫として知られる。過年度の調査では赤塚地域で確認されている。板橋区内の詳細な生息状況が不明であるが、クワやイチジクの生育している場所にみられると思われる。荒川流域にはクワが点在しているので広く生息している可能性が高い。

#### ・クワカミキリ

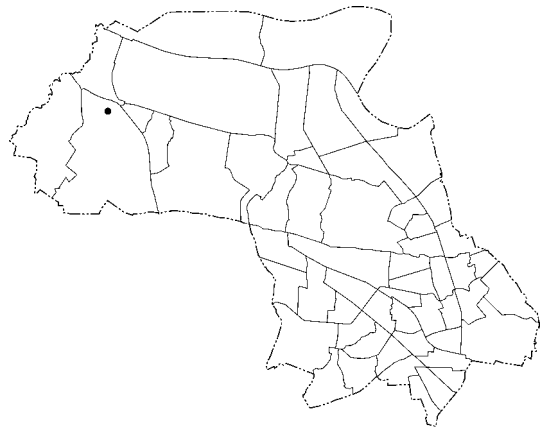
赤塚城址および荒川河川敷新河岸一～三丁目の 2 地点で確認された。栽培されたクワやイチジクに多くみられ、その大害虫でもある。若齢のクワにも寄生し、ときに多数の個体をみることがある。板橋区内の詳細な生息状況は不明であるが、クワやイチジクの生育している場所にみられると思われる。荒川流域にはクワが点在しているので広く生息している可能性が高い。

コウチュウ類オサムシ科

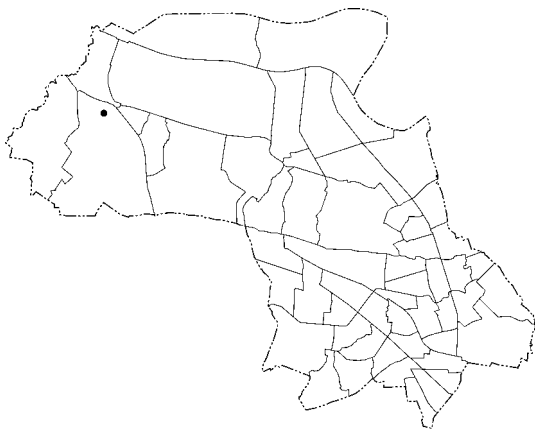


アオオサムシ

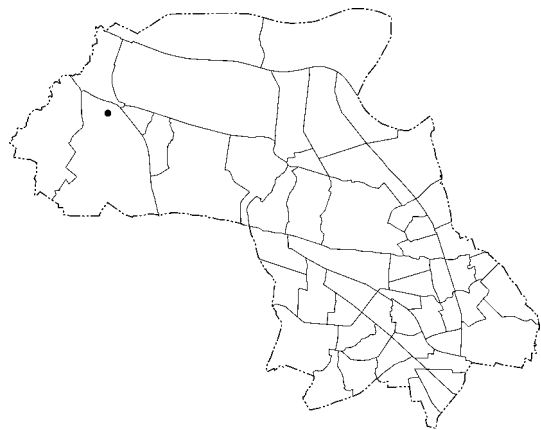
クワガタムシ科



コクワガタ

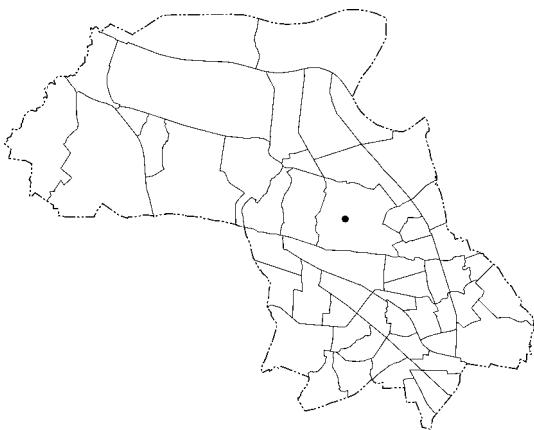


ノコギリクワガタ

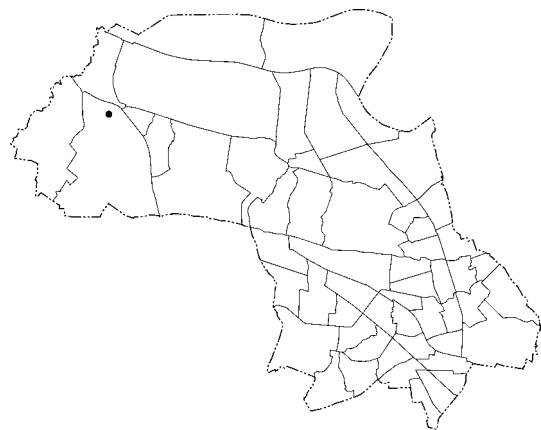


ヒラタクワガタ

コガネムシ科

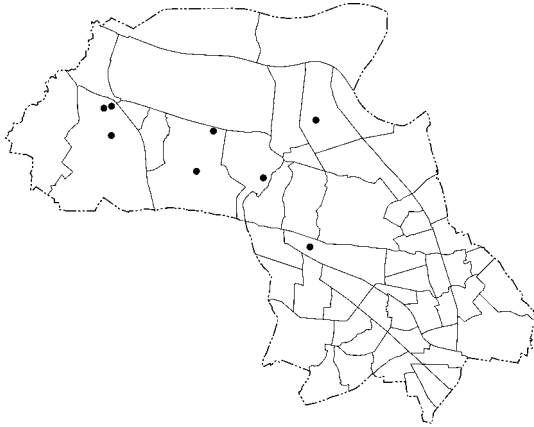


コブキコガネ

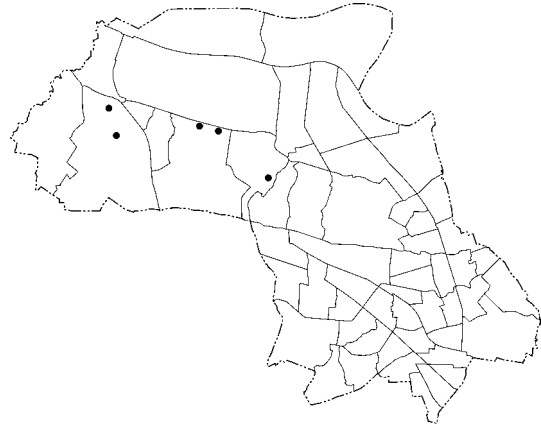


ドウガネブイブイ

コガネムシ科

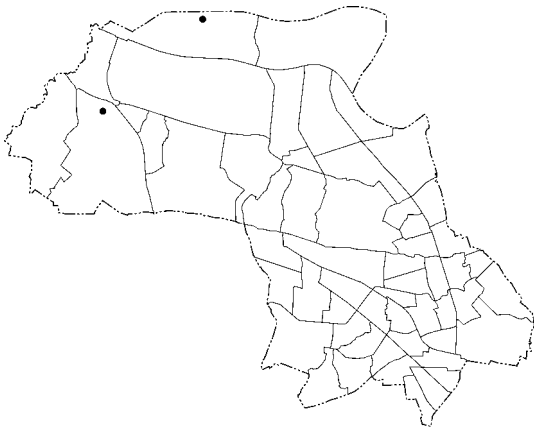


シロテンハナムグリ

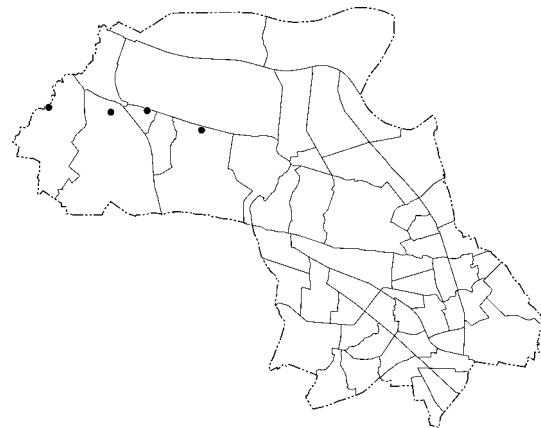


カナブン

タムムシ科

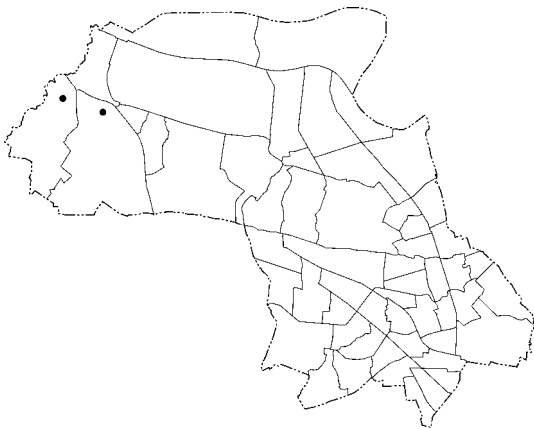


カブトムシ

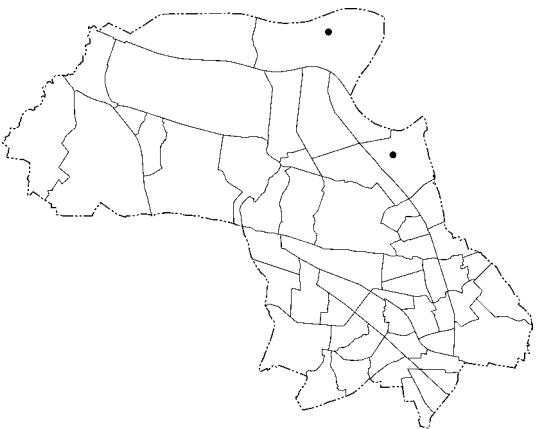


ヤマトタムムシ

カミキリムシ科

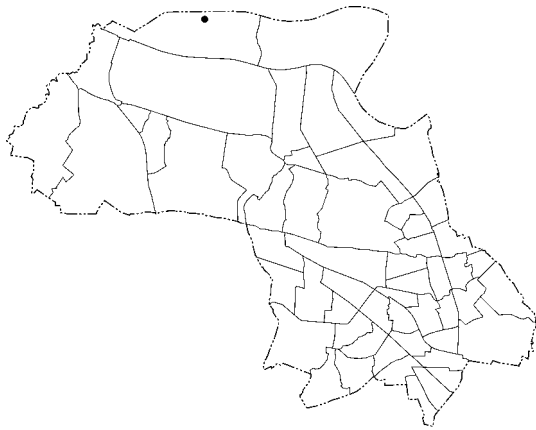


ノコギリカミキリ

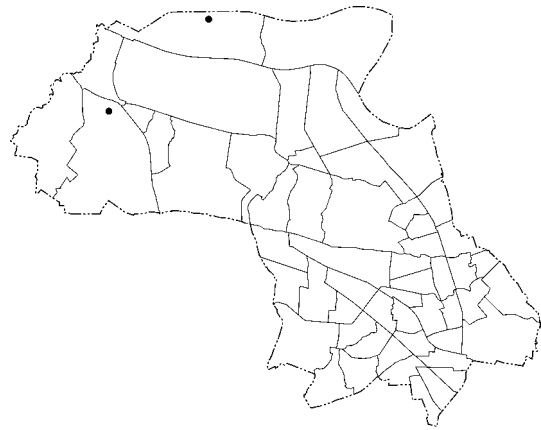


ゴマダラカミキリ

カミキリムシ科



キボシカミキリ



クワカミキリ

## VI-1-vi. セミ類

### ■調査結果の概要(羽化殻調査)

本年度調査の結果、合計で8437個体の羽化殻を採集した。表VI-15にセミ類の羽化殻調査結果一覧を示した。

表VI-15 セミ類羽化殻調査結果一覧

種名	確認地点数	確認個体数	確認個体数の割合
クマゼミ	1	1	0.0
アブラゼミ	30	6111	72.4
ツクツクボウシ	20	375	4.4
ミンミンゼミ	30	1716	20.3
ニイニイゼミ	8	197	2.3
ヒグラシ	6	37	0.4
合計		8437	

注)割合は小数点以下第二位を四捨五入した値である。

最も多く確認されたのはアブラゼミで6111個体が確認された。以下、ミンミンゼミの1716個体、ツクツクボウシの375個体、ニイニイゼミの197個体などとなった。また、割合では個体数の最も多かったアブラゼミが72.5%を占めた。表VI-16に地点別確認状況一覧(個体数)を示し、図VI-2に地点別の確認個体数の状況を示した。

地点別の確認個体数では板谷公園が最も多く2514個体で、以下赤塚溜池公園の1068個体、都立城北中央公園の508個体などとなった。

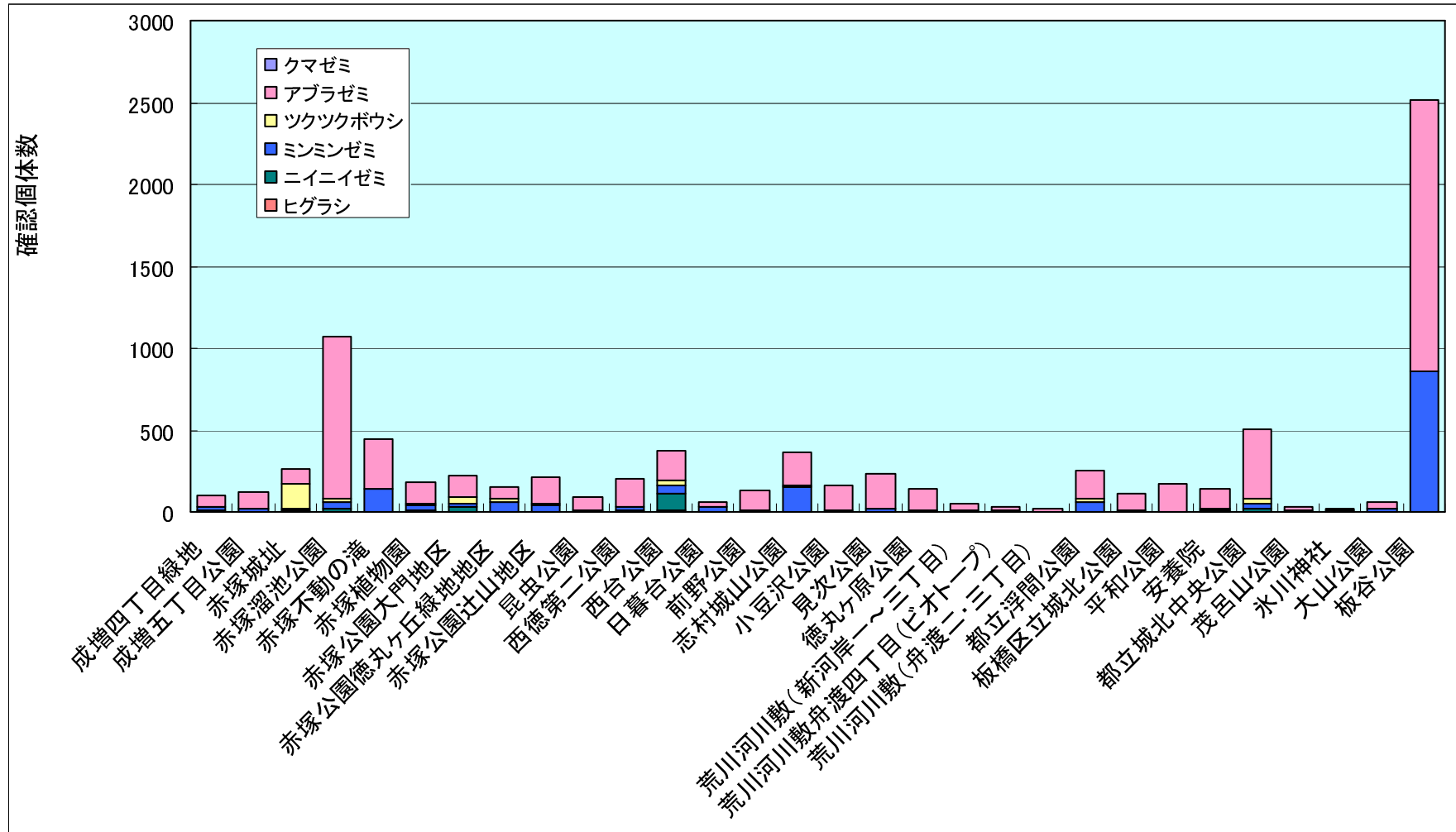
赤塚地域や志村地域ではクマゼミを除く全ての種が確認されており、多様性に富んだ結果となった。逆に高島平地域(3種)や板橋地域(2種)は種数が少なく、単調な確認状況であった。

アブラゼミやミンミンゼミは市街地に近い地点でも確認されており、次いでツクツクボウシが板橋地域を除く全ての地域で確認された。ニイニイゼミは赤塚地域や志村地域のほか、常盤台地域でも確認されたが、常盤台地域においては城北中央公園における確認のみであった。ヒグラシは赤塚地域に多いほか、志村地域の西徳第二公園、西台公園で確認された。また常盤台地域の安養院においても確認された。クマゼミは本年度はじめて安養院で1個体が確認された。

表VI-16 地点別確認状況一覧(個体数)

No.	種名	調査地点										
		成増四丁目緑地	成増五丁目公園	赤塚城址	赤塚溜池公園	赤塚不動の滝	赤塚植物園	赤塚公園大門	赤塚公園徳丸ヶ丘緑地	赤塚公園辻山	昆虫公園	
1	クマゼミ								●			
2	アブラゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
3	ツクツクボウシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
4	ミンミンゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
5	ニイニイゼミ			●	●		●	●	●	●		
6	ヒグラシ	●	●	●		●		●	●	●		
合計 6種		4種	4種	5種	4種	4種	4種	5種	6種	5種	2種	
No.	種名	調査地点										
		西徳第二公園	西台公園	日暮台公園	前野公園	志村城山公園	小豆沢公園	見次公園	徳丸ヶ原公園	荒川河川敷新河岸一～三丁目	荒川河川敷舟渡四丁目(ビ・ボウ)	
1	クマゼミ							●			●	
2	アブラゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
3	ツクツクボウシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
4	ミンミンゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
5	ニイニイゼミ		●				●	●			●	
6	ヒグラシ	●	●									
合計 6種		4種	5種	3種	3種	3種	4種	5種	3種	3種	5種	
No.	種名	調査地点										確認地点数
		荒川河川敷舟渡二・三丁目	都立浮間公園	板橋区立城北公園	平和公園	安養院	都立城北中央公園	茂呂山公園	氷川神社	大山公園	板谷公園	
1	クマゼミ					●						4
2	アブラゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	30
3	ツクツクボウシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	28
4	ミンミンゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	30
5	ニイニイゼミ		●		●		●				●	14
6	ヒグラシ					●						10
合計 6種		3種	4種	3種	4種	5種	4種	3種	3種	2種	4種	





図VI-2 地点別の確認個体数の状況

表VI-17 には確認個体数の種別割合の状況を示した。また、表VI-18 には地点別確認状況一覧(割合)を示し、図VI-3 に地点別の確認個体数の割合を示した。割合では**アブラゼミ**の割合が80%を超えた地点は昆虫公園、見次公園、安養院など12地点であった。また**ミンミンゼミ**の割合が30%を超えた地点は赤塚不動の滝、日暮台公園、氷川神社など6地点であった。個体数の少ない種をみると、**ツクツクボウシ**が10%を超えた地点は赤塚城址、荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)、茂呂山公園など7地点であった。また、**ニイニイゼミ**の割合が5%を超えた地点は赤塚植物園、赤塚公園大門地区、西台公園の3地点で、**ヒグラシ**が確認された地点は成増四丁目緑地、赤塚城址、西徳第二公園など6地点であった。

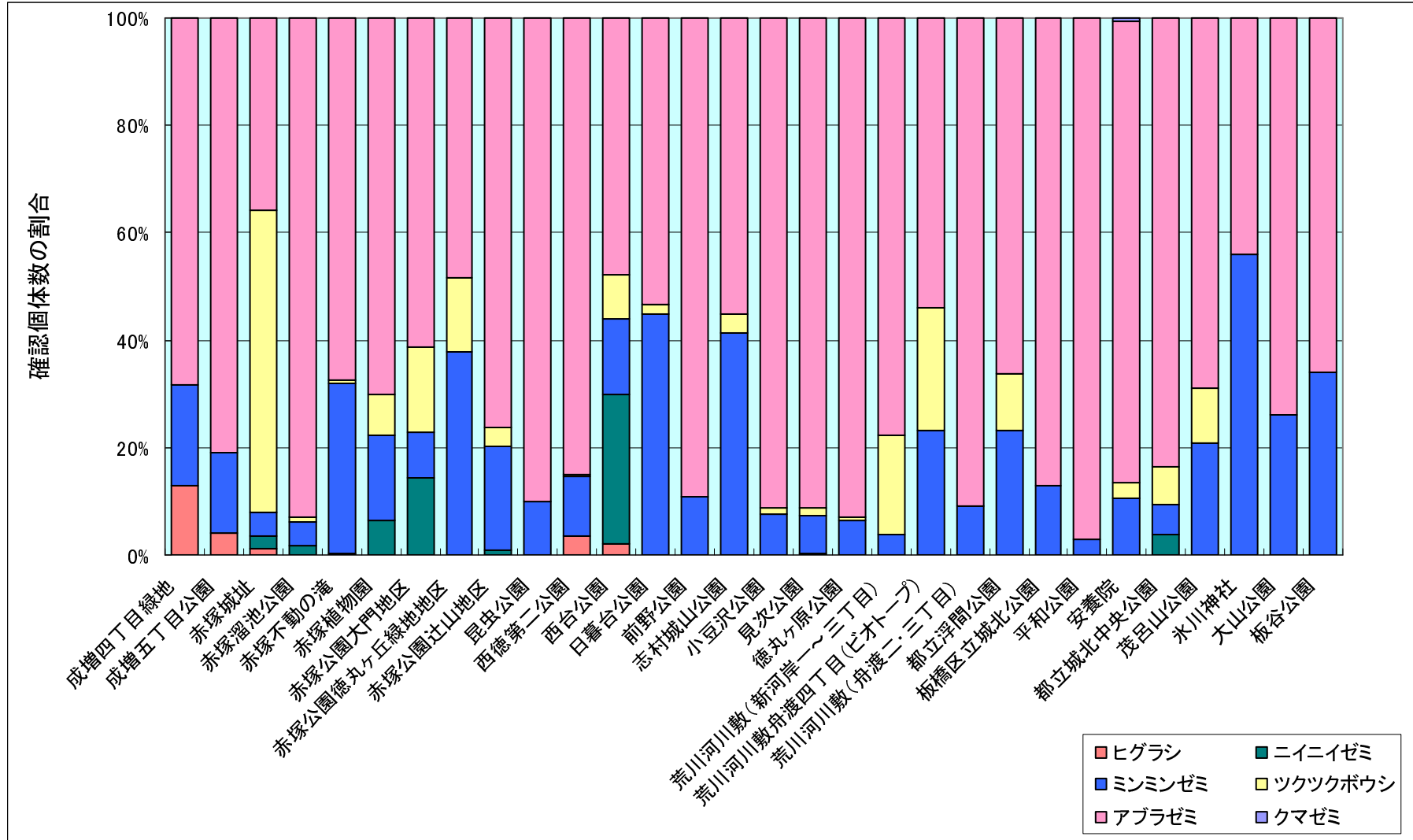
表VI-17 確認個体数種別割合の状況

アブラゼミの割合が80%を超えた地点 (12地点)	赤塚溜池公園	昆虫公園	西徳第二公園
	前野公園	小豆沢公園	見次公園
	徳丸ヶ原公園	荒川河川敷舟渡二・三丁目	板橋区立城北公園
	平和公園	安養院	都立城北中央公園
ミンミンゼミの割合が30%を超えた地点 (6地点)	赤塚不動の滝	赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区	日暮台公園
	志村城山公園	氷川神社	板谷公園
ツクツクボウシの割合が10%を超えた地点(7地点)	赤塚城址	赤塚公園大門地区	赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区
	荒川河川敷新河岸一～三丁目	荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)	都立浮間公園
	茂呂山公園		
ニイニイゼミの割合が5パーセントを超えた地点(3地点)	赤塚植物園	赤塚公園大門地区	西台公園
ヒグラシが確認された地点(6地点)	成増四丁目緑地	成増五丁目公園	赤塚城址
	赤塚不動の滝	西徳第二公園	西台公園
クマゼミが確認された地点(1地点)	安養院		

表VI-18 地点別確認状況一覧(割合)

No.	種名	確認地点														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
		成増四丁目緑地	成増五丁目公園	赤塚城址	赤塚溜池公園	赤塚不動の滝	赤塚植物園	赤塚公園大門地区	赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区	赤塚公園辻山地区	昆虫公園	西徳第二公園	西台公園	日暮台公園	前野公園	志村城山公園
1	クマゼミ															
2	アブラゼミ	68.3	80.8	35.9	92.9	67.5	70.1	61.2	48.3	76.4	90.0	84.9	47.9	53.3	89.2	55.2
3	ツクツクボウシ			56.1	1.0	0.5	7.6	16.1	13.9	3.2		0.5	8.2	1.7		3.6
4	ミンミンゼミ	18.8	15.0	4.6	4.2	31.8	15.8	8.5	37.7	19.4	10.0	11.1	13.8	45.0	10.8	41.2
5	ニイニイゼミ			2.3	1.9		6.5	14.3		0.9			27.9			
6	ヒグラシ	12.9	4.2	1.1		0.2						3.5	2.1			

No.	種名	確認地点														
		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
		小豆沢公園	見次公園	徳丸ヶ原公園	荒川河川敷(新河岸一〜三丁目)	荒川河川敷舟渡四丁目(ピオトープ)	荒川河川敷(舟渡二〜三丁目)	都立浮間公園	板橋区立城北公園	平和公園	安養院	都立城北中央公園	茂呂山公園	氷川神社	大山公園	板谷公園
1	クマゼミ										0.7					
2	アブラゼミ	91.3	91.3	93.0	77.8	53.8	90.9	66.3	87.2	97.1	85.9	83.5	69.0	44.0	73.8	66.0
3	ツクツクボウシ	1.3	1.3	0.7	18.5	23.1		10.4			2.8	7.1	10.3			
4	ミンミンゼミ	7.5	7.0	6.3	3.7	23.1	9.1	23.3	12.8	2.9	10.6	5.7	20.7	56.0	26.2	34.0
5	ニイニイゼミ		0.4									3.7				
6	ヒグラシ															



図VI-3 地点別確認個体数の割合

表VI-19には地域別確認状況一覧を示し、図VI-4に地域別の確認個体数の割合を示した。

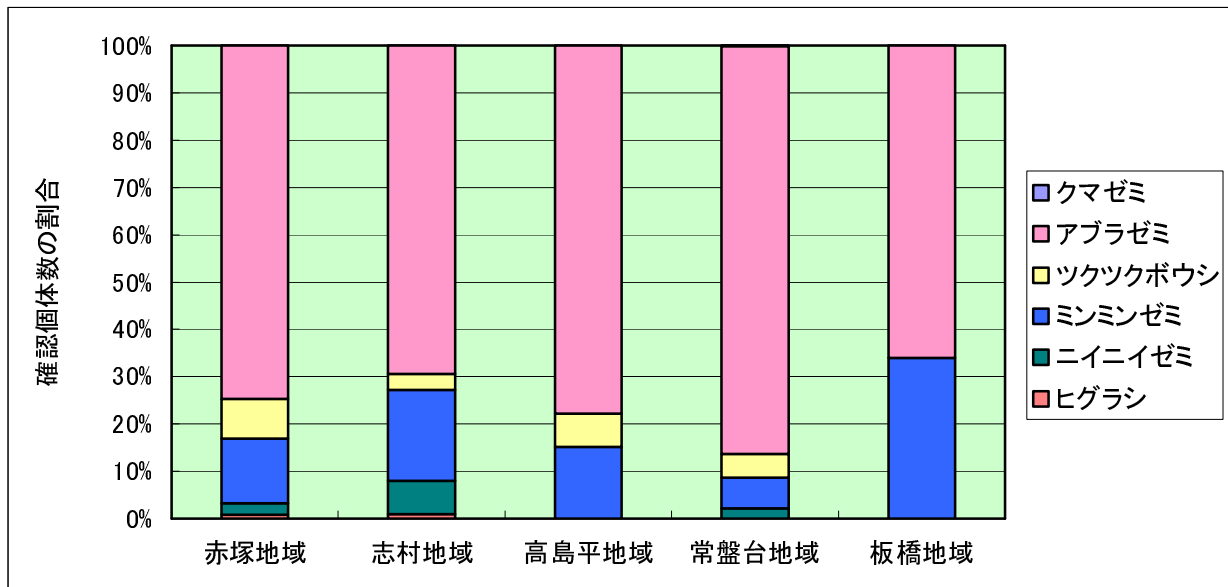
地域別の確認個体数では赤塚地域が最も多く2859個体で、以下板橋地域の2604個体、志村地域の1519個体、常盤台地域の853個体、高島平地域の605個体となった。

地域別割合では常盤台地域では**アブラゼミ**の割合が多く80%を超えた。また、板橋地域では**ミンミンゼミ**の割合が多く30%を超えた。

全体的に**アブラゼミ**の割合が多くなっているが、**ミンミンゼミ**の割合が多い板橋地域や**ツクツクボウシ**、**ニイニイゼミ**、**ヒグラシ**も確認された赤塚地域や志村地域などでは**アブラゼミ**の割合が比較的少なくなっている。

表VI-19 羽化殻調査地域別確認状況一覧

		個体数					割合				
		赤塚地域	志村地域	高島平地域	常盤台地域	板橋地域	赤塚地域	志村地域	高島平地域	常盤台地域	板橋地域
1	クマゼミ				1				0.1		
2	アブラゼミ	2136	1054	468	735	1718	74.7	69.4	77.7	86.2	66.0
3	ツクツクボウシ	238	51	43	43		8.3	3.4	7.1	5.0	
4	ミンミンゼミ	391	293	91	55	886	13.7	19.3	15.1	6.4	34.0
5	ニイニイゼミ	72	106		19		2.5	7.0		2.2	
6	ヒグラシ	22	15				0.8	1.0			
合計確認個体数		2859	1519	602	853	2604					



図VI-4 地域別確認個体数の割合

■セミ類の成虫(鳴き声を含む)の確認状況

表VI-20 にセミ類の成虫(鳴き声を含む)の確認状況を示した。また、表VI-21 に羽化殻調査との確認地点数の比較を示した。

表VI-20 セミ類のおよび鳴き声における確認状況一覧

No.	種名	調査地点										
		成増四丁目緑地	成増五丁目公園	赤塚城址	赤塚溜池公園	赤塚不動の滝	赤塚植物園	赤塚公園大門	赤塚公園徳丸ヶ丘緑地	赤塚公園辻山	昆虫公園	
1	クマゼミ								●			
2	アブラゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
3	ツクツクボウシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
4	ミンミンゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
5	ニイニイゼミ			●	●		●	●	●	●		
6	ヒグラシ	●	●	●		●		●	●	●		
合計 6種		4種	4種	5種	4種	4種	4種	5種	6種	5種	2種	
No.	種名	調査地点										
		西徳第二公園	西台公園	日暮台公園	前野公園	志村城山公園	小豆沢公園	見次公園	徳丸ヶ原公園	荒川河川敷新河岸一～三丁目	荒川河川敷舟渡四丁目(ピオワ)	
1	クマゼミ							●			●	
2	アブラゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
3	ツクツクボウシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
4	ミンミンゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
5	ニイニイゼミ		●				●	●			●	
6	ヒグラシ	●	●									
合計 6種		4種	5種	3種	3種	3種	4種	5種	3種	3種	5種	
No.	種名	調査地点										確認地点数
		荒川河川敷舟渡二・三丁目	都立浮間公園	板橋区立城北公園	平和公園	安養院	都立城北中央公園	茂呂山公園	氷川神社	大山公園	板谷公園	
1	クマゼミ					●						4
2	アブラゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	30
3	ツクツクボウシ	●	●	●	●	●	●	●	●		●	28
4	ミンミンゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	30
5	ニイニイゼミ		●		●		●				●	14
6	ヒグラシ					●						10
合計 6種		3種	4種	3種	4種	5種	4種	3種	3種	2種	4種	

表VI-21 羽化殻調査および成虫確認の確認地点数の比較

種名	確認地点数	
	羽化殻調査	成虫確認
1 クマゼミ	1	4
2 アブラゼミ	30	30
3 ツクツクボウシ	20	28
4 ミンミンゼミ	30	30
5 ニイニイゼミ	8	14
6 ヒグラシ	6	10

成虫の確認ではアブラゼミ、ミンミンゼミを除くいずれの種も羽化殻調査より多くの地点で確認された。成虫の確認結果では、ツクツクボウシは板橋区のほぼ全域で確認され、ニイニイゼミは全調査地点(30 地点)のおおよそ半分にあたる 14 地点で確認された。ニイニイゼミは都立浮間公園や平和公園、板谷公園など高島平地域や板橋地域の地点でも確認された。

なお、成虫での確認は生息地点の抽出には有効であるが、確認された個体が実際にその地点で発生したものなのかは判別できないこと、個体数の把握が困難であることなどの短所もある。

表VI-22 主要昆虫類調査経年確認状況一覧(セミ類)

No.	種名	学名	1985 (I)	1990 (II)	2000 (III)	2008 (IV)
1	クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i> (Walker)			●	●
2	アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i> (Motschulsky)	●	●	●	●
3	ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i> (Walker)	●	●	●	●
4	ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i> (Motschulsky)	●	●	●	●
5	ニイニイゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i> (Fabricius)	●	●	●	●
6	ヒグラシ	<i>Tanna japonensis japonensis</i> (Distant)	●	●	●	●
確認種数			5種	5種	6種	6種

注 1) 和名および学名、種の配列は、基本的に九州大学農学部昆虫学研究室・日本野生生物研究センター編(1989,1990)に従った。

表VI-22 に示したように、セミ類の経年の確認状況では 2000 年度調査以降はクマゼミを含めた 6 種が確認されている。

### ■重要種

表VI-23 に示したように本年度調査ではクマゼミおよびヒグラシの 2 種の重要種が確認された。なお、重要種は表VI-5 の選定基準に基づいて選定した。また、表VI-23 の選定基準欄の①～④は表VI-5 の選定基準の文献①～④に対応する。

表VI-23 セミ類重要種一覧

No.	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
1	セミ	クマゼミ				C
2		ヒグラシ				C
合計		1科2種				2種

### ■本年度確認された種の概況

以下に本年度確認された種の概況を示すとともに、種別の確認地点図も合わせて示す。



#### ・クマゼミ

過年度調査では板橋地域における鳴き声による確認があるのみである。本年度調査では常盤台地域の安養院で羽化殻により 1 個体が確認されたほか、赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区、荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)、成増五丁目公園、見次公園の 4 地点で鳴き声が確認された。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998)において C ランクの重要種とされている。

#### ・アブラゼミ

主要昆虫類調査地点(30 地点)の全調査地点において確認された。2000 年度調査においても全ての地域で確認されており、継続して安定した発生状況である。

#### ・ツクツクボウシ

主要昆虫類調査地点(30 地点)のうち 28 地点において確認された。地域別にみると板橋地域を含め全ての地域で確認されており、2000 年度調査においても全ての地域で確認されていたことから、継続して安定した発生状況である。

#### ・ミンミンゼミ

主要昆虫類調査地点(30 地点)の全調査地点において確認された。2000 年度調査においても全ての地域で確認されており、継続して安定した発生状況である。

#### ・ニイニイゼミ

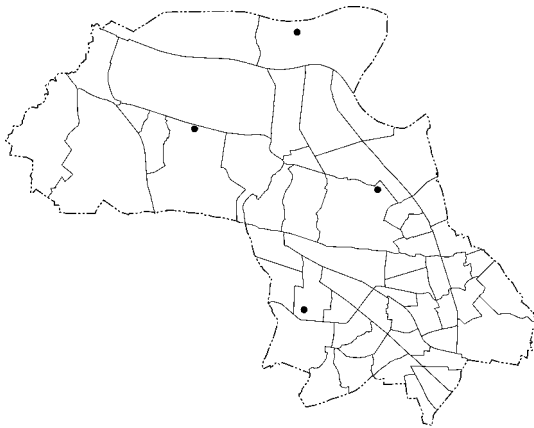
赤塚溜池公園、都立浮間公園、板谷公園など 14 地点で確認された。2000 年度調査では高島平地域で確認されていないが、本年度調査では荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)、都立浮間公園でも確認されており、全地域で確認された。2000 年度調査時に比べ、生息状況に大きな変化はないようである。

#### ・ヒグラシ

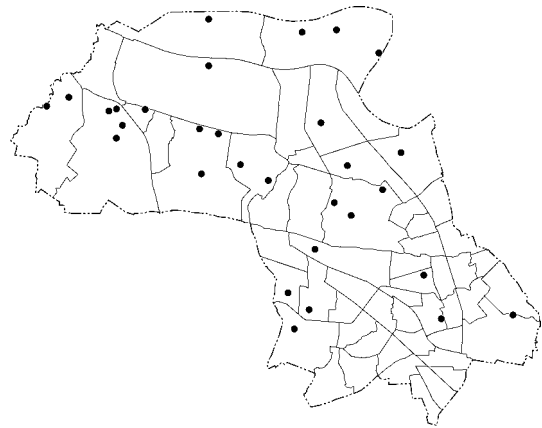
成増四丁目緑地、西台公園、安養院など 10 地点で確認された。過年度調査で確認されていた常盤台地域唯一の確認地点安養院で本年度も確認された。また、過年度に継続的に確認されてきた赤塚地域や志村地域の西台地区では今年度も確認されたが、小豆沢公園では確認されなかった。志村地域などでは減少している可能性もある。

本種は「東京都の保護上重要な野生生物種」(東京都環境保全局, 1998)において C ランクの重要種とされている。

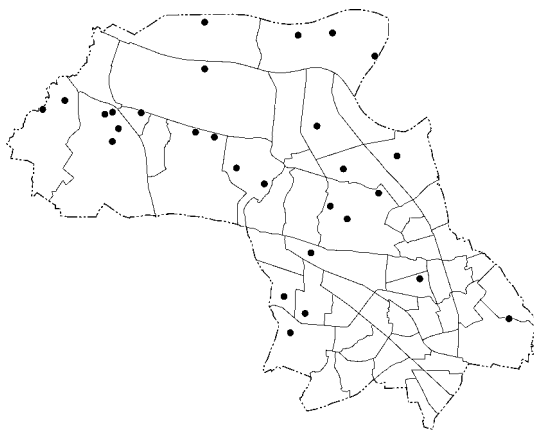
カメムシ類セミ科



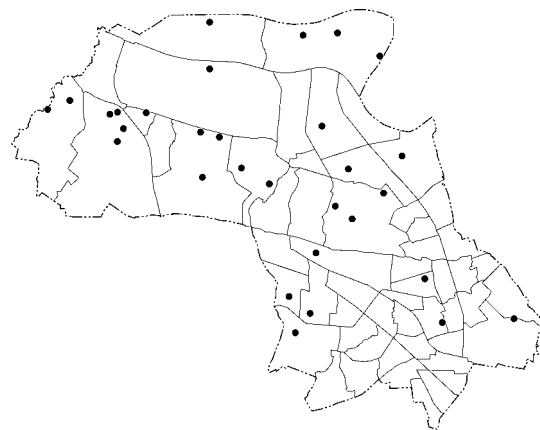
クマゼミ



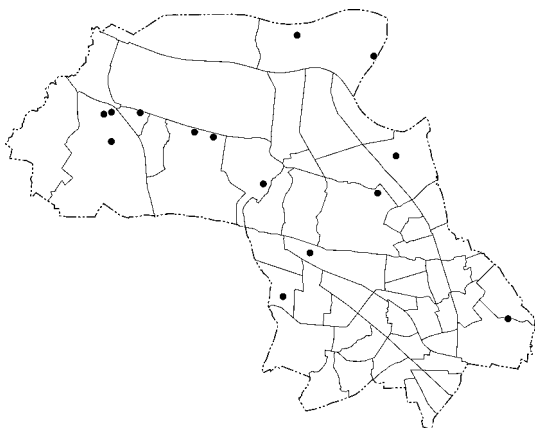
アブラゼミ



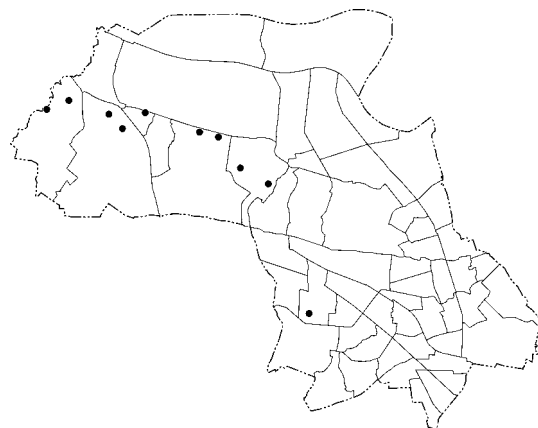
ツクツクボウシ



ミンミンゼミ



ニイニイゼミ



ヒグラシ